



Natural for UNIX

パラメータリファレンス

バージョン 8.4.1

2017 年 10 月

ADABAS & NATURAL

このマニュアルは Natural バージョン 8.4.1 およびそれ以降のすべてのリリースに適用されます。

このマニュアルに記載される仕様は変更される可能性があります。変更は以降のリリースノートまたは新しいマニュアルに記述されます。

Copyright © 1992-2017 Software AG, Darmstadt, Germany and/or Software AG USA, Inc., Reston, VA, United States of America, and/or their licensors.

The name Software AG, webMethods and all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA, Inc. and/or their licensors. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners.

Software AG およびその子会社が所有する登録商標および特許の詳細については、<http://documentation.softwareag.com/legal/> を確認してください。

本ソフトウェアの一部にはサードパーティ製製品が含まれています。サードパーティの著作権表示およびライセンス規約については『License Texts, Copyright Notices and Disclaimers of Third-Party Products』を参照してください。このドキュメントは製品ドキュメントセットの一部であり、<http://documentation.softwareag.com/legal/> 上、またはライセンス製品のルートインストールディレクトリ内にあります。

本ソフトウェアの利用は、Software AGのライセンス規約に則って行われるものとします。ライセンス規約は製品ドキュメントセット内、<http://documentation.softwareag.com/legal/> 上、またはライセンス製品のルートインストールディレクトリ内にあります。

ドキュメント IDは: NATUX-NNATPARMS-841-20200614JA

目次

前書き	xi
1 表記規則	1
オンライン情報	2
データ保護	3
2 プロファイルパラメータについて	5
3 セッションパラメータについて	7
セッションパラメータの使用方法	8
セッションパラメータの設定方法	8
セッションパラメータの評価	10
4 ACIVERS - EntireX Broker ACI で使用する API バージョンの定義	11
5 AD - 属性定義	13
AD パラメータの構文	14
フィールド表現	15
フィールド揃え	16
フィールド入力／出力特性	16
英数字フィールドの解釈	18
必須入力	18
入力値の長さ	18
フィールド大文字／小文字特性	19
充填文字	19
6 ADAPRM - Adabas Review のサポート	21
7 AL - 英数字フィールド出力長	23
8 AUTO - 自動ログオン	25
9 AUTORPC - Natural RPC の自動実行	27
10 BATCH - バッチモードシミュレーション	29
11 BATCHMODE - バッチモード	31
12 BMBLANK - 末尾の空白の表示	33
13 BMCONTROL - 制御文字の表示	35
14 BMFRAME - ウィンドウフレーム文字	37
15 BMSIM - バッチモード類似出力	39
16 BMTIME - 処理時間の表示	41
17 BMTITLE - ウィンドウタイトルの表示	43
18 BMVERSION - Natural バージョンの表示	45
19 BPID - バッファプール ID の指定	47
20 BPID2 - セカンダリバッファプールの指定	49
21 BPNAME - Natural グローバルバッファプールの名前	51
22 BPSFI - バッファプール内のオブジェクトを最初に検索	53
23 CC - バッチモードでのエラー処理	55
24 CD - カラー定義	57
25 CDYNAM - Natural 以外のプログラムのダイナミックロード	59
26 CF - 端末コマンドの文字	61
27 CLEAR - NEXT モードでの CLEAR キーの処理	63

28 CM - コマンドモード	65
29 CMOBJIN - Natural INPUT データ用のバッチ入力ファイル	67
30 CMPRINT - バッチ出力ファイル	69
31 CMPRTnn - 追加レポート	71
32 CMSYNIN - Natural コマンドおよび INPUT データ用のバッチ入力ファイル	73
33 CMWRKnn - Natural ワークファイル	75
34 CO - コンパイラ出力	77
35 COMPR - RPC バッファ圧縮の設定	79
36 COVERAGE - Natural セッションのコードカバレッジ	81
COVERAGE パラメータの構文	82
COVERAGE パラメータの例	83
37 CP - デフォルトのコードページ名	85
38 CPCVERR - コードページ変換エラー	87
39 CPOBJIN - バッチ入力ファイルのコードページ	89
40 CPPRINT - バッチ出力ファイルのコードページ	91
41 CPRPC - コードページ名の定義	93
42 CPSYNIN - コマンド用のバッチ入力ファイルのコードページ	95
43 CV - 属性制御変数	97
44 CVMIN - 入力時に変更された制御変数	99
45 DBGAT - NaturalONE でのデバッグアタッチサーバー	101
DBGAT パラメータの構文	102
DBGAT パラメータの例	103
46 DBSHORT - データベースフィールドショートネームの解釈	105
47 DBUPD - データベース更新	109
48 DC - 小数点表記の文字	111
49 DD - 日差	113
50 DF - 日付フォーマット	115
51 DFOUT - 出力の日付フォーマット	117
52 DFS - RPC クライアントのデフォルトのサーバーアドレスの指定	119
53 DFSTACK - スタックの日付フォーマット	121
54 DFTITLE - 標準レポートタイトルの日付出力フォーマット	123
55 DL - 出力の表示長	125
56 DO - 出力データの表示順序	127
57 DTFORM - 日付フォーマット	129
58 DU - ダンプ生成	131
59 DY - ダイナミック属性	133
DY パラメータの構文	134
例	136
60 DYNPARM - ダイナミックパラメータ使用の制御	137
61 ECHO - バッチ入力データの出力制御	139
62 ECPMOD - Entire Connection プロトコルモード	141
63 EDITOR - 他のプログラムエディタ	143
64 EDTBPSIZE - Software AG Editor バッファプールサイズ	145
65 EDTLFILES - Software AG Editor 論理ファイルの数	147
66 EDTRB - プログラムエディタのリングバッファ	149

67 EJ - ページ換え	151
68 EM - 編集マスク	153
EM パラメータの構文	154
例	155
編集マスク内の空白	155
デフォルトの編集マスク	155
数値フィールドの編集マスク	156
英数字フィールドの編集マスク	159
バイナリフィールド（フォーマット B）の編集マスク	160
16 進編集マスク	160
日付（フォーマット D）と時刻（フォーマット T）のフィールドの編集マスク	162
論理フィールド（フォーマット L）の編集マスク	166
69 EMFM - 編集マスクフリーモード	169
70 EMU - Unicode 編集マスク	171
71 ENDIAN - コンパイルオブジェクトのエンディアンモード	173
72 ENDMSG - セッション終了メッセージの表示	175
73 ES - 空行省略	177
74 ESCAPE - 端末コマンド %% および % の無効化	179
75 ESXDB - Entire System Server DDM に使用されるデータベース ID	181
76 ET - END/BACKOUT TRANSACTION ステートメントの実行	183
77 ETA - エラートランザクションプログラム	185
78 ETDB - トランザクションデータのデータベース	187
79 ETEOP - プログラム終了時の END TRANSACTION の発行	189
80 ETID - Adabas ユーザー ID	191
81 ETIO - 端末 I/O 時の END TRANSACTION の発行	193
82 FC - INPUT ステートメントの充填文字	195
83 FC - DISPLAY ステートメントの充填文字	197
84 FCDP - ダイナミックに保護された入力フィールドの充填文字	199
85 FDDM - DDM 用の Natural システムファイル	201
86 FDIC - Predict システムファイル	203
87 FL - 浮動小数点数の仮数部長	205
88 FNAT - システムプログラム用の Natural システムファイル	207
89 FREEGDA - ユーティリティモードでの GDA の解放	211
90 FS - ユーザー定義変数のデフォルトフォーマット／長さの設定	213
91 FSEC - Natural Security システムファイル	215
92 FUSER - ユーザープログラム用の Natural システムファイル	217
93 GC - グループヘッダーの充填文字	221
94 GFID - グローバルフォーマット ID	223
95 GPGEN - GP 情報の生成	225
GPGEN パラメータの構文	226
GPGEN パラメータの例	227
96 HC - ヘッダーの中央揃え	229
97 HD - ヘッダー定義	231
98 HE - ヘルプルーチン	233

HE パラメータの構文	234
ヘルプルーチンの実行	236
例	236
99 HI - ヘルプ文字	239
100 HW - ヘッダー幅	241
101 IA - INPUT 割り当て文字	243
102 IC - 挿入文字	245
103 ICU - Unicode 挿入文字	247
104 ID - 入力デリミタ文字	249
105 IKEY - PA キーおよび PF キーの処理	251
106 IM - 入力モード	253
107 INIT-LIB - 自動ログオンのライブラリ	255
108 IP - INPUT プロンプトテキスト	257
109 IS - 重複抑制	259
110 ITERM - 初期化エラーが発生した場合のセッション終了	261
111 KC - ステートメントキーワードのチェック	263
112 KCHECK - ステートメントキーワードのチェック	265
113 KD - キ一定義	267
114 KEY - PA、PF、および CLEAR キーへの設定の割り当て	269
115 LC - 小文字から大文字への変換	271
116 LC - 先頭文字	273
117 LCU - Unicode 先頭文字	275
118 LE - 処理ループの制限を超過したときの処理	277
119 LFILE - 論理システムファイルの定義	279
LFILE パラメータの構文	280
LFILE パラメータの例	281
120 LOGONRQ - RPC サーバー要求にログオンが必要	283
121 LS - 行サイズ	285
プロファイルパラメータ LS	286
セッションパラメータ LS	286
ステートメントでの指定	287
122 LT - 処理ループの制限	289
123 MADIO - 画面 I/O 処理間の最大 DBMS コール	291
124 MAINPR - デフォルトの出力レポート番号の上書き	293
125 MASKCME - MASK の MOVE EDITED との互換性	295
126 MAXBUFF - デフォルトのバッファサイズ	297
127 MAXCL - プログラムコールの最大数	299
128 MAXPREC - 小数点以下の桁数の最大値	301
129 MAXYEAR - 日付／時刻値の最大年	303
130 MC - マルチブルバリューフィールドカウント	305
131 MFSET - マルチフェッチ設定	307
132 ML - メッセージ行の位置	309
133 MP - レポートの最大ページ数	311
134 MS - 手動による省略	313
135 MSGSF - システムエラーメッセージの短い形式／完全な形式での表示	315

136 NATLOG - Natural ログファイル	317
例	318
137 NC - Natural システムコマンドの使用	321
138 NCFVERS - NCF ファイルプロトコルバージョン	323
139 NENTRY - 数値フィールドエントリの左寄せ／右寄せ	325
140 NL - 数値出力長	327
141 NOAPPLERR - メッセージ番号接頭辞 NAT の省略	329
142 NOPROX - ダイレクトアドレス用のローカルドメインの指定	331
143 NOSSLPRX - ダイレクトアドレス SSL 用のローカルドメインの指定	333
144 OPF - ヘルプルーチンによる保護されたフィールドの上書き	335
145 OPRB - データベースのオープン／クローズ処理	337
OPRB 文字列の構文	338
146 PARM - 代替パラメータファイル	341
147 PC - パーソナルコンピュータのアクセスメソッドの制御	343
148 PC - ピリオディックグループカウント	345
149 PCHECK - オブジェクト呼び出しステートメントのパラメータチェック	347
150 PD - ページデータセットのサイズ	349
151 PM - 出力モード	351
プロファイルパラメータ PM	352
セッションパラメータ PM	352
152 PRGPAR - 終了時に制御を受け取るプログラムに渡されるデータ	355
153 PROFILER - Natural セッションのプロファイル	357
PROFILER パラメータの構文	358
PROFILER パラメータの例	361
154 PROGRAM - セッション終了後に制御を受け取る Natural 以外のプログラム	363
155 PROX - プロキシサーバーの URL の指定	365
156 PROXPORT - プロキシのポート番号の指定	367
157 PS - Natural レポートのページサイズ	369
158 PSIGNF - パック十進数の正記号の内部表現	371
159 RCFIND - FIND ステートメントに対するレスポンスコード 113 の処理	373
160 RCGET - GET ステートメントに対するレスポンスコード 113 の処理	375
161 RDACTIVE - リモートデバッガの有効化	377
162 RDNODE - リモートデバッガノード名	379
163 RDPORT - リモートデバッガポート	381
164 RDS - リモートディレクトリサーバーの定義	383
165 RECAT - ダイナミックな再カタログ	385
166 REINP - 不正データに対する内部的な REINPUT ステートメントの発行	387
167 RI - ISN のリスト	389
168 RNCONST - 定数内の行番号の再設定	391
169 ROSY - システムファイルへの読み取り専用アクセス	393
170 RPCSDIR - サービスディレクトリのライブラリ	395
171 RTINT - ランタイム中断の許可	397
172 RQTOUT - REQUEST DOCUMENT タイムアウト	399
173 SA - サウンド端末アラーム	401
174 SB - 選択ボックス	403

構文上の考慮事項	404
ランタイムの考慮事項	405
175 SD - 2 画面間の時間遅延	407
176 SERVER - RPC サーバーセッションとしての Natural セッションの開始	409
177 SF - フィールド間の空白	411
178 SG - 符号桁	413
179 SHELL - Natural ユーザーへのシェルアクセスの付与	415
180 SSLPRX - SSL プロキシサーバーの URL の指定	417
181 SSLPRXPT - SSL プロキシのポート番号の指定	419
182 SM - ストラクチャードモードでのプログラミング	421
183 SNAT - 構文エラー時のベル	423
184 SORTSZE - ソートバッファのサイズ	425
185 SRETAIN - ソース形式の保持	427
186 SRVCMIT - サーバーコミット時間	429
187 SRVNAME - RPC サーバーの名前	431
188 SRVNODE - ノードの名前	433
189 SRVRTRY - 接続／再接続試行の数	435
190 SRVTERM - サーバー終了イベント	437
191 SRVUSER - RPC サーバーレジストリ用のユーザー ID	439
192 SRVWAIT - RPC サーバーの待ち時間	441
193 SSIZE - エディタによって割り当てられるソースエリアのサイズ	443
194 STACK - スタックへのデータ／コマンドの配置	445
195 STARTUP - システム変数 *STARTUP のプログラム名	447
196 STEPLIB - *STEPLIB システム変数の初期設定	449
197 SUBCHAR - デフォルトコードページの置換文字	451
198 SUTF8 - ソースの UTF-8 フォーマット	453
199 SYMGEN - シンボルテーブルの生成	455
200 SYNERR - 構文エラーの制御	457
201 TC - 末尾文字	459
202 TCU - Unicode 末尾文字	461
203 TD - 時差	463
204 TF - データベース ID／ファイル番号の変換	465
205 THSEP - ダイナミック千桁単位セパレータ	467
206 THSEPCCH - 千桁単位セパレータ文字	469
207 TIMEOUT - RPC サーバーレスポンスに対する待ち時間	471
208 TMPSORTUNIQ - 一時的なソートワークファイルの一意の名前	473
209 TQ - 引用符の変換	475
210 TQMARK - 引用符の変換	477
211 TRACE - Natural RPC サーバーのトレースレベルの定義	479
212 TRANSP - サーバートransportプロトコル	481
213 TRYALT - 代替サーバーアドレスの試行	483
214 UC - 下線付き文字	485
215 UDB - ユーザーデータベース ID	487
216 ULANG - ユーザー言語	489
217 USEDIC - ディクショナリサーバーの共通論理名	491

218 USER - ユーザー ID	493
219 USEREP - リポジトリの使用	495
220 USIZE - ユーザーバッファのサイズ	497
221 WEBIO - Natural Web I/O インターフェイスの使用	499
222 WFOPFA - ワークファイルのオープン	501
223 WH - ホールド状態でのレコードの待機	503
224 WORK - ワークファイルの割り当て	505
225 XREF - Natural 用の XRef データの作成	507
XREF パラメータの設定が可能な方法	508
XRef データの生成	509
拡張 XRef データ生成 (内部使用のみ)	509
226 YD - 年差	511
227 YSLW - 年スライド／固定ウィンドウ	513
YSLW パラメータの例	515
228 ZD - ゼロ割り算のチェック	517
229 ZP - ゼロ出力	519

前書き

このドキュメントでは、Natural 環境を構成するために提供されるすべての Natural プロファイルおよびセッションパラメータについて、詳細に説明しています。

Natural プロファイルパラメータと同じ名前と機能を持つ Natural セッションパラメータが存在する場合、両方のパラメータの説明が 1 つのドキュメントにまとめて記載されています。

プロファイルパラメータについて	プロファイルパラメータの使用法に関する詳細情報を提供するドキュメントの参照。
セッションパラメータについて	セッションパラメータの使用方法と評価に関する全般的な情報。
パラメータ（アルファベット順）	すべてのプロファイルパラメータとセッションパラメータについてアルファベット順で説明します。

1

■ 表記規則	2
■ オンライン情報	2
■ データ保護	3

表記規則

規則	説明
太字	画面上の要素を表します。
モノスペースフォント	<i>folder.subfolder:service</i> という規則を使用して webMethods Integration Server 上のサービスの保存場所を表します。
大文字	キーボードのキーを表します。同時に押す必要があるキーは、プラス記号 (+) で結んで表記されます。
斜体	独自の状況または環境に固有の値を指定する必要がある変数を表します。本文で最初に出現する新しい用語を表します。
モノスペースフォント	入力する必要があるテキストまたはシステムから表示されるメッセージを表します。Program code.
{}	選択肢のセットを表します。ここから1つ選択する必要があります。中カッコの内側にある情報のみを入力します。{}記号は入力しません。
	構文行で相互排他的な2つの選択肢を区切れます。いずれかの選択肢を入力します。 記号は入力しません。
[]	1つ以上のオプションを表します。大カッコの内側にある情報のみを入力します。[]記号は入力しません。
...	同じ種類の情報を複数回入力できることを示します。情報だけを入力してください。実際のコードに繰り返し記号 (...) を入力しないでください。

オンライン情報

Software AG マニュアルの Web サイト

マニュアルは、Software AG マニュアルの Web サイト (<http://documentation.softwareag.com>) で入手できます。このサイトでは Empower クレデンシャルが必要です。Empower クレデンシャルがない場合は、TECHcommunity Web サイトを使用する必要があります。

Software AG Empower 製品のサポート Web サイト

もしあなたが Empower のアカウントをお持ちでないのなら、こちらへ empower@softwareag.com 電子メールにて あなたの名前、会社名、会社の電子メールアドレスをお書きの上、アカウントを請求してください。

いったんアカウントをお持ちになれば、Empower <https://empower.softwareag.com/> の eService セクションにてサポートインシデントをオンラインで開くことができます。

製品情報は、Software AG Empower 製品のサポート Web サイト (<https://empower.softwareag.com>) で入手できます。

機能および拡張機能に関するリクエストの送信、製品の可用性に関する情報の取得、[製品](#)のダウンロードを実行するには、Products に移動します。

修正に関する情報を取得し、早期警告、技術論文、Knowledge Base の記事を読むには、[Knowledge Center](#) に移動します。

もしご質問があれば、こちらのhttps://empower.softwareag.com/public_directory.asp グローバルサポート連絡一覧の、あなたの国の電話番号を選んで、わたくし共へご連絡ください。

Software AG TECHcommunity

マニュアルおよびその他の技術情報は、Software AG TECHcommunity Web サイト (<http://techcommunity.softwareag.com>) で入手できます。以下の操作を実行できます。

- TECHcommunity クレデンシャルを持っている場合は、製品マニュアルにアクセスできます。
TECHcommunity クレデンシャルがない場合は、登録し、関心事の領域として [マニュアル] を指定する必要があります。
- 記事、コードサンプル、デモ、チュートリアルにアクセスする。
- Software AG の専門家によって承認されたオンライン掲示板フォーラムを使用して、質問したり、ベストプラクティスを話し合ったり、他の顧客が Software AG のテクノロジをどのように使用しているかを学んだりすることができます。
- オープンスタンダードや Web テクノロジを取り扱う外部 Web サイトにリンクできます。

データ保護

Software AG 製品は、EU一般データ保護規則(GDPR)を尊重した個人データの処理機能を提供します。該当する場合、適切な手順がそれぞれの管理ドキュメントに記載されています。

2 プロファイルパラメータについて

プロファイルパラメータの使用の詳細については、以下のドキュメントを参照してください。

- 『オペレーション』ドキュメントの「プロファイルパラメータの使用方法」
- 『コンフィグレーションユーティリティ』ドキュメントの「新しいパラメータファイルの作成」
- 『コンフィグレーションユーティリティ』の「プロファイルパラメータの概要」

3 セッションパラメータについて

■ セッションパラメータの使用方法	8
■ セッションパラメータの設定方法	8
■ セッションパラメータの評価	10

セッションパラメータの使用方法

Natural では、セッションパラメータを次のような目的で使用します。

- 特定の属性の指定
- 処理時間の制限の設定
- 特定の条件に対する特定の応答の設定
- 各種サイズ制限の設定
- さまざまな出力レポートの定義

これらのパラメータは、Natural のインストール時に Natural 管理者によって Natural の全ユーザーに有効なデフォルト値に設定されます。

セッションに適用されるパラメータ値を確認するには、システムコマンド GLOBALS を入力します（『システムコマンド』ドキュメントを参照）。

セッションパラメータの設定方法

Natural セッションパラメータは次のような方法で設定できます。

- Natural をインストールするときに、デフォルトの Natural パラメータファイル NATPARM で指定します。
- Natural を呼び出すときに、ダイナミックパラメータで指定します（Natural の『オペレーション』ドキュメントを参照）。
- システムコマンド GLOBALS で指定します。
- SET GLOBALS ステートメントで指定します（レポートモードのみ）。
- FORMAT ステートメントで指定します。
- INPUT、DISPLAY、WRITE などのステートメント内でパラメータを指定します（ステートメント内でパラメータも評価されます）。
- 端末コマンドで指定します。

パラメータ値 ON および OFF の代わりに、それぞれ T (true) または F (false) を指定することもできます。

セッションレベルでのセッションパラメータの変更 - GLOBALS コマンドの使用

Natural セッションでは、Natural 管理者が設定した一部のパラメータ値を変更できます。

Natural セッション内でこれらのパラメータを変更するには、次のシステムコマンドを発行します。

GLOBALS

GLOBALS コマンドを発行すると、現在のセッションに有効なパラメータ値を示した画面が表示されます。この画面で、要件に合わない値を変更できます。

GLOBALS コマンドで設定したパラメータ値は、再び GLOBALS コマンドを発行して変更しない限り、Natural セッションが終了するまで有効です（セッション中に保存する全オブジェクトに適用されます）。

プログラムレベルでのセッションパラメータの変更 - FORMAT ステートメントの使用

単一プログラム（レポート）の実行に対して特定のパラメータを変更できます。そのためには、プログラムで FORMAT ステートメントを使用して、これらのパラメータのセッション設定を上書きします。

FORMAT ステートメントの例：

```
FORMAT AL=10 HC=R
```

FORMAT ステートメントで設定したパラメータは、そのプログラムの別の FORMAT ステートメントで変更されない限り、プログラムの実行が終了するまで有効です。

セッションレベルで指定できなくてもプログラムレベルで指定できるパラメータがいくつかあります、すべてのセッションパラメータをプログラムレベルで変更できるわけではありません。プログラムで指定可能なパラメータの大部分は出力レポートのフォーマットに関するパラメータです。

ステートメントレベルでのセッションパラメータの変更

FORMAT ステートメントで変更可能なパラメータの大部分は個々のステートメント（特に、DISPLAY、WRITE、INPUT、REINPUT など）でも変更できます。

この場合、ステートメント名の後ろにパラメータを（カッコで囲んで）指定します。

セッションパラメータについて

例：

```
DISPLAY (SF=4) NAME JOB-TITLE CURR-CODE SALARY
```

ステートメントレベルで設定したパラメータは、そのパラメータを指定したステートメントにのみ有効です。ステートメントレベルでの設定は、そのパラメータに対する他のレベルでのすべての設定をそのステートメントに対してのみ上書きします。

フィールドレベルでのセッションパラメータの変更

DISPLAY、WRITE、INPUT、またはREINPUTステートメント内で、個々のフィールドまたは出力項目ごとに変更できるパラメータもあります。

この場合、フィールド名の後にパラメータを（カッコで囲んで）指定します。

例：

```
DISPLAY NAME (AL=10) JOB-TITLE CURR-CODE SALARY
```

パラメータはそのフィールドにのみ有効になります。フィールドレベルでの設定は、そのパラメータに対する他のレベルでのすべての設定をそのフィールドに対してのみ上書きします。ただし、フィールドレベルで設定可能なパラメータは、ステートメントレベルで設定可能なパラメータの一部のみです。

セッションパラメータの評価

ステートメント DISPLAY、FORMAT、PRINT、INPUT、REINPUT、WRITE、WRITE TITLE および WRITE TRAILER で指定されたパラメータは、プログラムのコンパイル時に処理されるため、プログラムの対応するオブジェクトモジュールに含まれます。

評価には次の階層が使用されます。

1. エレメント／フィールドレベルで設定されたパラメータ（優先度が最も高い）
2. ステートメントレベルで設定されたパラメータ
3. FORMAT ステートメントで設定されたパラメータ
4. デフォルトパラメータ設定（優先度が最も低い）

SET GLOBALS ステートメントでパラメータを設定した場合、実行時環境が変更されます。これらの変更は、別の SET GLOBALS ステートメント（または GLOBALS システムコマンド）によって上書きされるまで有効です。

4 ACIVERS - EntireX Broker ACI で使用する API バージョンの定義

この Natural プロファイルパラメータは現在使用されておらず、無視されます。

このプロファイルパラメータは、EntireX Broker の ACI 機能に使用する API バージョンを指定します。

使用されている EntireX Broker スタブ、および呼び出し先 EntireX Broker は、ここに定義された API バージョンをサポートしている必要があります。サポートされている API バージョンについては、EntireX ドキュメントを参照してください。ACIVERS の設定により、使用している API バージョンに応じて、EntireX Broker の特殊機能が有効になります。詳細については、『Natural RPC（リモートプロシージャコール）』ドキュメントの「EntireX Broker Access のセットアップ」を参照してください。

可能な設定	1 - 9	API バージョンを識別する 1 衡の数字。 注意: 上位バージョンでは、さらに多くの機能を使用できます。詳細については、『Natural RPC（リモートプロシージャコール）』ドキュメントの「API バージョンのセットアップ」を参照してください。
デフォルト設定	2	API バージョン 2 が使用されます。
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意:

1. ACIVERS クライアントサイドとサーバーサイドの両方で指定できます。
2. Natural RPC の詳細については、『Natural RPC（リモートプロシージャコール）』ドキュメントを参照してください。

5 AD・属性定義

■ AD パラメータの構文	14
■ フィールド表現	15
■ フィールド揃え	16
■ フィールド入力／出力特性	16
■ 英数字フィールドの解釈	18
■ 必須入力	18
■ 入力値の長さ	18
■ フィールド大文字／小文字特性	19
■ 充填文字	19

このセッションパラメータで、フィールド／エレメントレベルまたはステートメントレベルでフィールド属性を指定します。

関連するセッションパラメータ：[CD - カラー定義](#)

可能な設定	下記の「 ADパラメータの構文 」を参照してください。	
デフォルト設定	下記を参照してください。	
適用可能なステートメント	FORMAT DISPLAY INPUT NEWPAGE WITH TITLE PRINT REINPUT WRITE WRITE TITLE WRITE TRAILER	
	ASSIGN CALLNAT CALldbProc COMPUTE MOVE PERFORM SEND METHOD	
適用可能なコマンド	なし	

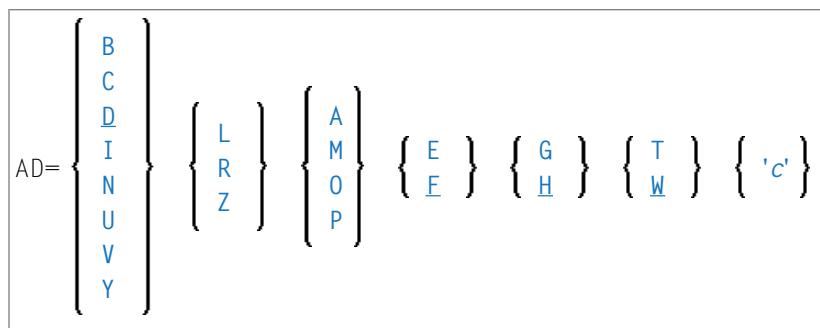
 **注意:** AD パラメータはファンクションコールでも指定できます。ただし、使用できるのは、「ファンクションコール」セクション（『プログラミングガイド』）で指定されている属性のみです。

以下では次のトピックについて説明します。

AD パラメータの構文

```
AD=[field-representation][field-alignment][field-i/o-characteristics]
[interpretation-of-alphanumeric-fields][mandatory-input][input-value-length]
[field-upper/lower-case][filler-character]
```

複数の属性を任意の順序で指定できます。可能な値は次のとおりです。



属性および有効な値の意味を次に説明します。

例：

```
DISPLAY #FIELDA (AD=R)
INPUT #FIELDB (AD=M)
INPUT (AD=IM) #FIELDA #FIELDB
```

フィールド表現

Value	意味	ステートメント	説明
B	点滅 (*)	ASSIGN	フィールドの値は点滅（ブリンク）して表示されます。
C	手書き／斜体 (*)	COMPUTE	フィールドの値はイタリックで表示されます。
D	デフォルトの輝度	MOVE	フィールドの値は標準輝度で表示されます（つまり、強調表示されない）。これはデフォルト値です。
I	高輝度	DISPLAY	フィールドの値は高輝度で表示されます。
N	非表示	FORMAT	フィールドに入力した値は表示されません。
U	下線付き	INPUT	フィールドの値は下線付きで表示されます。
V	反転表示 (*)	PRINT	フィールドの値は反転して表示されます。
W	ダイナミック属性	REINPUT	属性制御変数（フォーマットC）を使用して属性を制御することを示します。
Y		WRITE	

アスタリスク () の付いたフィールド表現属性では対応するハードウェア機能が必要です。これらの機能がないと、ランタイムに無視されます。

フィールド揃え

Value	意味	ステートメント	説明
L	左詰め	DISPLAY FORMAT	フィールドの値は左詰めで表示されます。英数字フィールドのデフォルト値です。
R	右詰め	INPUT PRINT REINPUT WRITE	フィールドの値は右詰めで表示されます。数値フィールドのデフォルト値です。
Z	先頭のゼロ		数値は先頭にゼロを付けて右詰めで表示されます。

フィールド入力／出力特性

Value	意味	ステートメント	説明
A	入力フィールド、非保護	INPUT FORMAT	INPUT ステートメントに対応してフィールドの値を入力します。これはデフォルト値です。
	入力のみ	CALLNAT CALLDPROC PERFORM SEND METHOD ファンクションコール	<p>AD=A でパラメータをマークすると、その値は呼び出し先オブジェクト（サブプログラム、ストアドプロシージャ、サブルーチン、ダイアログ、メソッド）に渡されませんが、呼び出し先オブジェクトからの値を受け取ります。</p> <p>呼び出し先オブジェクトのパラメータデータエリアに BY VALUE で定義されたフィールドの場合、呼び出し元オブジェクトは値を受け取ることができません。この場合、AD=A では、オブジェクトが呼び出される前に、フィールドを個々のフォーマットの低い値（英数字には空白、バイナリにはバイナリゼロ、および数値フィールドにはゼロ）にリセットするだけです。</p> <p>CALLNAT の場合、AD=A は、クライアント／サーバー環境で Natural RPC 経由で実行されたリモートサブプログラムにおいて、送信されたデータの負荷を軽減するために役立つことがあります。サブプログラムがローカルに実行される場合、AD=A フィールドは、オブジェクトが呼び出される前に、個々のフォーマットの低い値にリセットされます。</p> <p>SEND METHOD の場合、メソッドは Natural に実装されず、動作はメソッド実装に応じて異なります。そして、パラメータは初期化された変形として渡されます。外部コンポーネントが値を返すことができるかどうかは、外部コンポーネントのドキュメントに記載されています。Natural コンポーネントブラウザでも表示できます。</p>
M	出力フィールド、変更可能	INPUT FORMAT	フィールドの値は INPUT ステートメントの実行中に表示され、ユーザーはこの値を変更できます。フィールドは変更可能な出力フィールドです。

Value	意味	ステートメント	説明
	変更可能	CALLNAT CALLDBPROC PERFORM SEND METHOD ファンクションコール	<p>デフォルトでは、パラメータの渡された値は呼び出し先オブジェクト（サブプログラム、ストアドプロシージャ、サブルーチン、ダイアログ、メソッド）で変更できます。また、変更した値を呼び出し元オブジェクトに戻すことができます。ここで元の値を上書きします。</p> <p>呼び出し先オブジェクトのパラメータデータエリアに BY VALUE で定義されたフィールドの場合、値は戻されません。</p> <p>SEND METHOD の場合、メソッドは Natural に実装されず、動作はメソッド実装に応じて異なります。そして、パラメータは BY REFERENCE で渡されます。外部コンポーネントが参照パラメータごとに受け入れるのか値パラメータごとに受け入れるのかについては、外部コンポーネントのドキュメントを参照してください。Natural コンポーネントブラウザでも表示できます。</p>
0	出力フィールド、書き込み保護	INPUT FORMAT	<p>フィールドの値は INPUT ステートメントの実行中に表示されます。フィールドは変更不可の出力フィールドです。</p>
	変更不可	CALLNAT CALLDBPROC PERFORM SEND METHOD ファンクションコール	<p>AD=0 でパラメータをマークした場合、渡された値は呼び出し先オブジェクト（サブプログラム、ストアドプロシージャ、サブルーチン、ダイアログ、メソッド）で変更できますが、変更した値を呼び出し元オブジェクトに戻すことはできません。つまり、呼び出し元オブジェクトのフィールドには元の値が維持されます。</p> <p>内部的に、AD=0 は値による呼び出しと同じ方法で処理されます（DEFINE DATA ステートメントの説明の「パラメータデータ定義」セクションにある「BY VALUE」を参照）。</p> <p>SEND METHOD では、メソッドが Natural で実装される場合、パラメータは、メソッドのパラメータデータエリアに BY VALUE で定義されたように処理されます（INTERFACE ステートメントの説明の「PARAMETER 節」を参照）。</p> <p>SEND METHOD の場合、メソッドは Natural に実装されず、動作はメソッド実装に応じて異なります。そして、パラメータは BY VALUE で渡されます。外部コンポーネントがコールを参照パラメータごとに受け入れるのか値パラメータごとに受け入れるのかについては、外部コンポーネントのドキュメントを参照してください。Natural コンポーネントブラウザでも表示できます。</p>
P	一時保護	INPUT REINPUT	属性制御変数（フォーマット C）、DY パラメータ（ダイナミック属性）、REINPUT ステートメントとともに使用します。

 **注意:** AD パラメータのフィールド入出力特性 A、M、および 0 は、ファンクションコールでも指定できます。

英数字フィールドの解釈

Value	意味	ステートメント	説明
Q	英数字フィールドを数値 フィールドのように表示 します。	ASSIGN COMPUTE MOVE DISPLAY FORMAT INPUT PRINT REINPUT WRITE	<p>この属性はメインフレームコンピュータでのみ利用可能 です。対応するハードウェア機能が必要です。</p> <p>英数字フィールドは、数値フィールドのように解釈され ます。フィールドがプロファイルパラメータまたはセッ ションパラメータ PM=I の範囲内で表示された場合、 フィールドの値は、右から左ではなく、左から右へ解 釈されます。</p>

必須入力

Value	意味	ステートメント	説明
E	必須入力	INPUT FORMAT	INPUTステートメントに対応してフィールドに値を入力する必要があり ます。入力がない場合、エラーメッセージが発行されます。これは入力 専用フィールド (AD=A) のみに関連しています。
F	任意入力	INPUT FORMAT	INPUTステートメントに対応してフィールドに値を入力できます。ただ し、入力しなくともかまいません。これはデフォルト値です。

入力値の長さ

Value	意味	ステートメント	説明
G	値のサイズ	INPUT FORMAT	INPUTステートメントに対応して入力する値は、フィールド長と同じ にする必要があります。これは入力専用フィールド (AD=A) のみに関 連しています。
H	値のサイズ	INPUT FORMAT	INPUTステートメントに対応して入力する値は、フィールド長より短 くてもかまいません。これはデフォルト値です。

フィールド大文字／小文字特性

Value	意味	ステートメント	説明
T	小文字から大文字への変換	INPUT FORMAT	入力値は大文字に変換されます。
W	小文字可	INPUT FORMAT	小文字の値を入力できます。AD=Wはデフォルト値です。 注意: AD=Wを有効にするには、Natural プロファイルパラメータ LC に値 ON を指定する必要があります。

充填文字

Value	意味	ステートメント	説明
'c'	充填文字	INPUT FORMAT	AD=A (入力フィールド、非保護) または AD=M (出力フィールド、変更可能) が指定されている場合、空フィールドに文字 c が充填されます (表示のみ)。

値が変更可能フィールド (AD=M) に表示される前に、値で占有されていないフィールド位置は、次のように特定の充填文字で充填されます。

- フォーマット I、N、および P フィールドの場合、先頭位置または末尾位置（フィールド揃えに基づく）が充填されます。
- フォーマット A フィールドの場合、末尾位置が充填されます。

ユーザーが INPUT ステートメントに対応して値を入力すると、値がフィールドに割り当てられる前に、次のようにになります。

- フォーマット I、N、および P フィールドの場合は先頭および末尾の充填文字の両方が削除されます。
- フォーマット A フィールドの場合は末尾の充填文字が削除されます。

! **注意:** 先頭位置または末尾位置の値の一部として存在する可能性のある充填文字は、予期しない結果が生じないように避ける必要があります。例えば、充填文字「0」（ゼロ）をフォーマット N5 のフィールドに定義し、値 00100 を入力データとして入力した場合、先頭のゼロと末尾のゼロが削除され、残った値 1 のみがフィールドに割り当てられるようになります。同様の理由で、マイナス記号「-」を数値フィールドの充填文字として使用することは避ける必要があります（負の値が入力されるため）。

6 ADAPRM - Adabas Review のサポート

このNaturalプロファイルパラメータは、Naturalセッションデータを7番目のAdabasバッファ内のAdabas Reviewに渡すために使用します。

指定可能な設定	ON	Naturalセッションデータが渡されます。 注意: Adabas Reviewがインストールされている場合は、ADAPRMをONに設定します。
	OFF	Naturalセッションデータは渡されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

7 AL・英数字フィールド出力長

このセッションパラメータでは、英数字フィールドのデフォルト出力長を指定します。指定した値がフィールド長より短い場合、右側が切り捨てられます。

可能な設定	1を次のように変更します。 n	n は LS (行サイズ) パラメータから1を引いた値
デフォルト設定	なし	
適用可能なステートメント	FORMAT	
	DISPLAY INPUT PRINT WRITE	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド	なし	



注意:

- INPUTステートメントの入力フィールド（属性定義 AD=A または AD=M）に AL セッションパラメータを使用することはお勧めしません。
- フィールドに編集マスク（セッションパラメータ EM を参照）と AL セッションパラメータの両方が指定されている場合は、編集マスクが優先されます。

例：

```
FORMAT AL=20
```

『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

8 AUTO - 自動ログオン

この Natural プロファイルパラメータを使用すると、Natural セッションの開始時に特定のライブラリに自動的にログオンします。

可能な設定	ON	Natural セッションの開始時に自動ログオンが実行されます。
	OFF	自動ログオンは実行されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

- プロファイルパラメータ INIT-LIB の設定は、ログオンのライブラリ ID として使用されます。
- Natural Security で AUTO=ON を使用した場合、他のユーザー ID でのログオンができなくなり、INIT-LIB パラメータは評価されません（詳細については、『Natural Security』ドキュメントを参照）。

9 AUTORPC - Natural RPC の自動実行

このNatural プロファイルパラメータでは、Natural RPCが、ローカルに（クライアントサイドで）検出されなかったサブプログラムを自動的にリモートに（サーバーサイドで）実行しようとするかどうかを決定します。

可能な設定	ON	Natural RPC は、自動的にリモートで実行ようとします。
	OFF	Natural RPC は、自動的にリモートで実行しようとしません。 注意: AUTORPC=OFF では、インターフェイスオブジェクトを使用して CALLNAT をリモートで実行できます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	この値はランタイムに、SYRPC ユーティリティの Parameter Maintenance 機能を使用して上書きできます。



注意:

- リモート CALLNAT ステートメントを使用し EntireX RPC サーバーでサブプログラムを実行する場合は、AUTORPC=OFF を設定し、インターフェイスオブジェクトを使用することをお勧めします。詳細については、『Natural RPC（リモートプロシージャコール）』ドキュメントの「Interface Objects and Automatic RPC Execution」を参照してください。
- AUTORPC はクライアントサイドでのみ指定します。
- 詳細については、『Natural RPC（リモートプロシージャコール）』ドキュメントの「Interface Objects and Automatic RPC Execution」を参照してください。
- Natural RPC の詳細については、『Natural RPC（リモートプロシージャコール）』ドキュメントを参照してください。

10 BATCH-バッチモードシミュレーション

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural を開始するときに、システム変数 *DEVICE を BATCH に設定します。

可能な設定	ON	プロファイルパラメータ BATCH を設定して Natural を開始すると、エラーメッセージは表示されませんが、ログファイルに書き込まれます。 注意: ログファイルは、 <i>natbatch.log</i> という名前で Natural バイナリディレクトリに保存されます。
	OFF	エラーメッセージは表示されますが、ログファイルには書き込まれません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>	

-  **注意:** Natural をバッチモードで実行するには、パラメータ BATCH の代わりに [BATCHMODE](#) を使用してください。

11 BATCHMODE - バッチモード

この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。Natural を開始するときに、バッチモードを有効にし、システム変数 *DEVICE を BATCH に設定します。ただし、パラメータ PC=ON の結果であるデバイス設定は上書きされません。

バッチモード処理の詳細については、『オペレーション』ドキュメントで説明されている「バッチモードでの Natural」を参照してください。

可能な設定	ON	Natural はバッチモードで実行されます。
デフォルト設定	OFF	Natural は対話式モードまたはバッチモードシミュレーションで実行されます。
ダイナミックな指定	○	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。
セッション内の指定	×	

12 BMBLANK - 末尾の空白の表示

この Natural プロファイルパラメータは、バッチ出力ファイル **CMPPRINT** の末尾の空白の表示を制御するために使用します。

可能な設定	ON	末尾の空白は CMPPRINT に書き込まれます。
	OFF	末尾の空白は CMPPRINT に書き込まれません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意:

1. この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。
2. このパラメータは、パラメータ **BMSIM** が MF に設定されている場合にのみ適用されます。
3. BMSIM が MF に設定されている場合、末尾の空白が自動的に生成されます。
4. BMBLANK は、BMSIM が OS または VM に設定されている場合、無効です。

13 BMCONTROL - 制御文字の表示

この Natural プロファイルパラメータは、バッチ出力ファイル **CMPrint** の制御文字（フォームフィード、改行など）の出力を制御します。



注意: この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。

可能な設定	ON	制御文字は CMPrint に書き込まれます。
	OFF	制御文字は CMPrint に書き込まれません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>	

14 BMFRAME - ウィンドウフレーム文字

このパラメータでは、バッチ出力ファイル **CMPPRINT** に書き込まれるウィンドウフレーム文字を定義できます。



注意: この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。

可能な設定	6 文字	一連の 6 文字を指定します（「 例 」を参照）。	
		文字の位置：	表示：
		1	水平バー
		2	垂直バー
		3	左上角
		4	右上角
		5	左下角
デフォルト設定	- !++++		
ダイナミックな指定	○		
セッション内の指定	×		

例：

次のフレームを定義するには、**BFRAME=123456** を指定する必要があります。

```
3111111111114  
2           2  
2           2  
5111111111116
```


15 BMSIM - バッチモード類似出力

この Natural プロファイルパラメータは、バッチモード出力ファイル **CMPRINT** の全体的な概観のために使用されます。



注意: この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。

可能な設定	MF	Natural for Mainframes に似た出力を強制します。 CMPRINT の各行は末尾の空白で充填されます。 制御文字は CMPRINT の各行の先頭に表示されます。 制御文字コードは IBM 制御文字オプション ASA に類似しています。 次の制御文字コードが使用されます。
	VM	制御コード 解釈 空白 制御文字なしの標準出力行 0 空行を 1 行挿入 - 空行を 2 行挿入 + この行を 2 回出力 (太字出力) 1 この行を出力する前にフォームフィード Natural for OpenVMS バージョン 2.1 と同様に出力されます。 次の制御文字コードが使用されます。
	OS	制御コード 解釈 \n この行を出力する前に改行 \f この行を出力する前にフォームフィード バッチコマンドファイル CMSYNIN に FIN コマンドが指定されていない場合、それが生成されます。
		Natural for UNIX または OpenVMS と同様に出力されます。

	次の制御文字コードが使用されます。
	制御コード 解釈
	\n この行を出力する前に改行
	\f この行を出力する前にフォームフィード
デフォルト設定	0\$
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>

16 BMTIME - 処理時間の表示

この Natural プロファイルパラメータは、Natural 処理に費やされた経過時間および CPU 時間を表示するために使用されます。この出力はバッチ出力ファイル **CMPrint** の末尾に書き込まれます。



注意: この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。

可能な設定	ON	経過時間および使用された CPU 時間はバッチ出力ファイルの末尾に書き込まれます。
	OFF	出力はバッチ出力ファイルに書き込まれません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

時間のフォーマットは次のとおりです。

*DDD*x*HH*:*II*:*SS.UU*

上記の意味は次に示すとおりです。

- *DDD* は日数（最大 999）です。
- *x* は、*DDD* が 999 以下の場合空白、または *DDD* が 999 を超過する場合は +（プラス記号）です。
- *HH* は時間数です。
- *II* は分数です。
- *SS* は秒数です。
- *UU* は 100 分の 1 単位の秒数です。

BMTIME - 処理時間の表示

例：

```
Used CPU time: 0 00:00:00.56
Elapsed time: 0 00:00:16.20
```

17 BMTITLE - ウィンドウタイトルの表示

この Natural プロファイルパラメータは、バッチ出力ファイル **CMPrint** のウィンドウタイトルの表示を制御するために使用されます。



注意: この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。

可能な設定	ON	ウィンドウタイトルは CMPrint に表示されます。
	OFF	ウィンドウタイトルは CMPrint に表示されません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

18 BMVERSION - Natural バージョンの表示

このNatural プロファイルパラメータは、起動時間および終了時間を含むNatural バージョンの表示を制御するために使用します。

可能な設定	ON	Natural バージョンおよび起動時間はバッチ出力ファイル CMPPRINT の先頭行に書き込まれ、終了時間は CMPPRINT の末尾に書き込まれます。
	OFF	Natural バージョンおよび起動時間は CMPPRINT には書き込まれません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

19 BPID - バッファプール ID の指定

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural バッファプールの名前（ID）を指定します。

可能な設定	1~8 文字	Natural バッファプールの名前。
デフォルト設定	NATBP	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>	

-  **注意:** デフォルトのバッファプール NATBP は削除しないでください。削除すると、Natural が正常に機能しなくなる可能性があります。

20 BPID2 - セカンダリバッファプールの指定

この Natural プロファイルパラメータでは、セカンダリバッファプールの名前（ID）を指定します。

プライマリバッファプールとして読み取り専用バッファプールを使用して Natural を実行している場合、読み取り専用バッファにないオブジェクトはロードできません。これを回避するには、Natural を実行時にセカンダリ標準バッファプール（読み取り／書き込みアクセス可能）に接続し、そこで不明オブジェクトをアクティブにします。詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「セカンダリ読み取り／書き込みバッファプール」を参照してください。

可能な設定	1~8 文字	セカンダリバッファプールの名前。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

21 BPNAME-Natural グローバルバッファプールの名前

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural グローバルバッファプールの名前を指定します。

可能な設定	1~8 文字 または ' ' (空白)	Natural グローバルバッファプールの名前。 BPNAME=' ' (空白) を設定した場合、ローカル Natural バッファ プールが使用されます。
デフォルト設定	' ' (空白)	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。
セッション内の指定	x	

22 BPSFI-バッファプール内のオブジェクトを最初に検索

この Natural プロファイルパラメータでは、実行対象のオブジェクトが要求されたときにバッファプール内およびシステムファイル内を検索する順序を決定します。

次の 2 つの検索順序を選択できます。

可能な設定	ON	<p>検索順序 1 が使用されます。すべてのライブラリについて、最初にバッファプール内が検索され、次にシステムファイル内が検索されます。</p> <p>オブジェクトは見つかるまで次の順序で検索されます。</p> <ol style="list-style-type: none">バッファプールで、最初に現在のライブラリが検索され、次に STEPLIB が順番に検索されます。その後、2 つの SYSTEM ライブラリが検索されます。システムファイルで、最初に現在のライブラリが検索され、次に STEPLIB が順番に検索されます。その後、2 つの SYSTEM ライブラリが検索されます。 <p>パフォーマンス上の理由で、実稼働環境では BPSFI=ON を設定することをお勧めします。</p> <p>注意: BPSFI=ON を設定する場合、検索対象のすべてのライブラリでオブジェクト名が一意であることを確認してください。検索対象の複数のライブラリに同名のオブジェクトが存在する場合、予期しない結果が生じことがあります。</p>
	OFF	<p>検索順序 2 が使用されます。各ライブラリについて、バッファプール内とシステムファイル内が交互に検索されます。</p> <p>オブジェクトは見つかるまで次の順序で検索されます。</p> <ol style="list-style-type: none">現在のライブラリで、最初にバッファプール内が検索され、次にシステムファイル内が検索されます。各 STEPLIB で、最初にバッファプール内が検索され、次にシステムファイル内が検索されます。

		3. 2つの SYSTEM ライブラリで、最初に各ライブラリのバッファプール内が検索され、次にシステムファイル内が検索されます。 BPSFI=OFFを設定することをお勧めします。これによって、開発環境で、現在の独自ライブラリから最新のオブジェクトを確実に取得できます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	×	

詳細については、『Natural の使用』ドキュメントの「Steplib」および「オブジェクト実行の検索順序」を参照してください。

23 CC - バッチモードでのエラー処理

このNatural プロファイルおよびセッションパラメータでは、バッチモードでのNatural プログラムのコンパイル／実行中にエラーが検出された場合の処理を指定します。

可能な設定	ON	Natural は、先頭 2 行が %% の行が見つかるまで、またはエンドオブファイル条件になるまで、バッチ入力ファイル CMSYNIN および CMOBJIN に対する入力データストリームをフラッシュします。入力ストリームにデータがまだ存在する場合、Natural は %% を含む行の後から再びデータを読み込みます。	
	OFF	Natural は入力ストリームの次のプログラム（またはコマンド）を処理しようとします。 すべての入力が処理されると、Natural はリターンコード 61 で終了し、Natural エラー 9987（実行／コンパイル中にエラーが発生）をバッチ出力ファイルに書き込みます（プロファイルパラメータ ENDMSG が ON に設定されている場合）。	
デフォルト設定	OFF		
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>		
セッション内の指定	<input type="radio"/>	適用可能なステートメント：	
		適用可能なコマンド：	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	



注意:

- この Natural プロファイルおよびセッションパラメータは、バッチモードでのみ適用されます。
- ユーザー記述のエラー処理ルーチンを使用している場合は適用されません。

3. Naturalセッション内で、プロファイルパラメータ`CC`をセッションパラメータ`CC`で上書きで
きます。

24 CD - カラー定義

このセッションパラメータでは、フィールドのカラー属性を指定します。カラー画面を使用しない場合、このパラメータはランタイムに無視されます。

関連するセッションパラメータ：[AD - 属性定義](#)

可能な設定	BL	青
	GR	緑
	NE	デフォルト色
	PI	ピンク
	RE	赤
	TU	空色
	YE	黄色
デフォルト設定	NE	
適用可能なステートメント	FORMAT	
	DISPLAY INPUT PRINT WRITE	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
	ASSIGN MOVE REINPUT	パラメータはステートメントレベルで指定できます。
適用可能なコマンド	なし	

例：

```
INPUT (CD=RE) #A #B
```

25 CDYNAM - Natural 以外のプログラムのダイナミックロード

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural によって Natural 以外のプログラムをダイナミックにロードするかどうかを決定します。

可能な設定	ON	Natural プログラムの実行中、任意の数の Natural 以外のプログラムをダイナミックにロードできます。
	OFF	Natural によって Natural 以外のプログラムのダイナミックロードは実行されません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>	

26 CF・端末コマンドの文字

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、Natural 端末コマンドの先頭に使用する文字（制御文字）を指定します。

可能な設定	任意の特殊文字	端末コマンドはここで指定した文字で開始する必要があります。CFパラメータで指定する文字は、次の条件を満たしている必要があります。 <ul style="list-style-type: none">■ HI パラメータ（ヘルプ文字）または IA パラメータ（入力割り当て文字）で指定した文字と異なる文字にする必要があります。■ DC パラメータ（小数点文字）または ID パラメータ（入力デリミタ文字）で指定した文字と異なる文字にする必要があります。■ マップエディタでは、CFパラメータで定義された文字に関係なく、端末コマンドの制御文字は（マップで使用されるデリミタ文字とのコンフリクトを避けるため）常に「%」です。	
	OFF	端末コマンドに制御文字は使用できません。ただし、SET CONTROLステートメントで端末コマンドを発行することはできます。	
デフォルト設定	%	端末コマンドは「%」で始める必要があります。	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>		
セッション内の指定	<input type="radio"/>	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS
		適用可能なコマンド：	GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	



注意:

1. Natural セッション内で、プロファイルパラメータ CF をセッションパラメータ CF で上書きできます。

2. Natural Security では、このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルの [セッションパラメータ] オプションで上書きできます。

27

CLEAR - NEXT モードでの CLEAR キーの処理

NEXT モードでプログラムを実行中に CLEAR キーが押されると、Natural で特定の Natural 端末コマンドが実行されるようになります。

可能な設定	任意の文字	デフォルトの処理を変更するには、端末コマンド制御文字（CF パラメータで指定した文字）の後に追加したときに有効な Natural 端末コマンドとなる文字を、このパラメータ値として指定します。
デフォルト設定	%	デフォルトでは、CLEAR キーが押されると、Natural ではユーザーが端末コマンド %% を入力した場合と同じ処理を実行します。
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意: Natural Security では、このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書きできます。

例：

```
CF=%  
CLEAR=R
```

NEXT モードで CLEAR キーが押されると、Natural では端末コマンド %R を実行します。

28 CM・コマンドモード

この Natural プロファイルパラメータは、Natural コマンドモード (NEXT および MORE) を抑制するために使用します。

可能な設定	ON	NEXT および MORE は、コマンド入力に有効です。
	OFF	NEXT になると、Natural セッションは終了します。MORE 行は、書き込み保護（入力不可能）されます。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	x	

29 CMOBJIN - Natural INPUT データ用のバッチ入力ファイル

この Natural プロファイルパラメータは、Natural INPUT ステートメントによって読み込まれるデータのために使用されます。または、これらのタイプのデータは、関連する RUN または EXECUTE コマンドの直後に CMSYNIN ファイルに配置できます。実際に処理される文字数は、1 行当たり 512 文字に制限されています。

可能な設定	任意の文字列
デフォルト設定	なし
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>



注意:

1. この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。
2. このパラメータに指定するファイル名またはパスに特殊文字（バックスラッシュなど）やスペースが含まれている場合は、文字列全体を二重引用符で囲む必要があります。以下の例を参照してください。
3. プロファイルパラメータ CMSYNIN の設定が CMOBJIN の設定と等しい場合、Natural は CMSYNIN から入力を読み込みます。
4. エラーが発生した場合、Natural はプロファイル／セッションパラメータ CC の設定に従って対応します。

例：

```
CMOBJIN="$HOME/tmp/batch.inp"
```


30 CMPRINT - バッチ出力ファイル

この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。

Natural プログラムの DISPLAY、PRINT、および WRITE ステートメントによる出力レポート用のバッチ出力ファイルを指定するために使用します。また、[CMSYNIN](#) からの Natural コマンド、および [CMOBJIN](#) からの INPUT データが CMPRINT に書き込まれます。

-  **注意:** このパラメータに指定するファイル名またはパスに特殊文字（バックスラッシュなど）やスペースが含まれている場合は、文字列全体を二重引用符で囲む必要があります。以下の例を参照してください。

可能な設定	任意の文字列	CMPRINT="\$HOME/tmp/batch.out"
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

31 CMPRTnn - 追加レポート

この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。

セッション中に実行される任意の Natural プログラムによって参照される追加レポート用に使用されます。 *nn* は、01～31 の 2 桁の 10 進数で、DISPLAY、PRINT、および WRITE ステートメントのレポートで使用される LPT デバイスに対応します。

可能な設定	任意の文字列	このパラメータに割り当てられたファイル名またはパスにバックスラッシュ (\) やスペースなどの特殊文字が含まれている場合は、文字列全体を二重引用符で囲む必要があります。 例： CMPRT07="\$HOME/tmp/report7.txt"
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>	

ユーザーが可変の出力ファイル名を指定できるようにするには、英字フォーマットのシステム変数および数値カウンタマーカを CMPRT*nn* のファイル名指定に埋め込むことができます。

サポートされている英字フォーマットのシステム変数は次のとおりです。

*APPLIC-ID
*APPLIC-NAME
*DEVICE
*ETID
*INIT-USER
*LIBRARY-ID
*NET-USER
*PID
*PROGRAM

*USER

*USER-NAME

これらの文字列（大文字のみ）のいずれかが出力ファイル指定内で検出されると、ランタイムに適切なシステム変数の内容に置き換えられます。また、カウンタマーカ (#) が使用されることもあります。これは、各出力ファイルに対して自動的に増分される2桁のカウンタによって置き換えられます。

例：

ファイル出力をファイル 01 に生成する PRINT という名前のプログラムを実行している Natural セッション（プロセス ID 1234、ETID XYZ）で CMPRT01=abc_*PID_*ETID_*PROGRAM_#.dat を指定した場合、次の名前の出力ファイルが生成されます（プログラムを3回実行した場合を仮定）。

```
abc_1234_XYZ_PRINT_01.dat  
abc_1234_XYZ_PRINT_02.dat  
abc_1234_XYZ_PRINT_03.dat
```

『オペレーション』ドキュメントの「バッチモードでのNatural の使用」も参照してください。

32 CMSYNIN - Natural コマンドおよび INPUT データ用のバッチ入力ファイル

この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。

CMSYNIN は、バッチ入力ファイル用に使用されます。Natural プログラムの実行中に INPUT ステートメントによって読み込まれる Natural コマンドとデータを含みます（オプション）。実際に処理される文字数は、1 行当たり 512 文字に制限されています。

 **注意:** このパラメータに指定するファイル名またはパスにバックスラッシュ (\) などの特殊文字やスペースが含まれている場合は、文字列全体を二重引用符で囲む必要があります。以下の例を参照してください。

可能な設定	任意の文字列	CMSYNIN="\$HOME/tmp/batch.cmd"
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

『オペレーション』ドキュメントの「バッチモードでの Natural の使用」も参照してください。

33 CMWRKnn - Natural ワークファイル

この Natural プロファイルパラメータはバッチモードのみに適用されます。

CMWRKnn は、セッション中に実行される任意の Natural プログラムによって参照される Natural ワークファイル用に使用されます。

nn は、01 ~ 32 の 2 桁の 10 進数で、READ WORK FILE または WRITE WORK FILE ステートメントで使用される番号に対応します。

 **注意:** このパラメータに指定するファイル名またはパスにバックスラッシュ (\) などの特殊文字やスペースが含まれている場合は、文字列全体を二重引用符で囲む必要があります。以下の例を参照してください。

可能な設定	任意の文字列	CMWRK05="\$HOME/tmp/workfile5.sag"
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

『オペレーション』ドキュメントの「バッチモードでのNatural の使用」も参照してください。

34 CO - コンパイラ出力

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータは、デフォルトでコンパイラにより処理されるコードが表示される場所で、コンパイラ処理経過ウィンドウを無効にしたり、再び有効にしたりするために使用します。

可能な設定	ON	コンパイラのリストが画面上の特別な処理経過ウィンドウに表示されます。この設定はクラッシュの場合に役立ちます（コード表示は関連する位置で停止するため）。
	OFF	注意: この設定は実際に必要な場合にのみ使用してください。コンパイル時間がかなり長くなるためです。特に、すべてのオブジェクトをコンパイルするためのCATALLコマンドにはより長い時間が必要です。 CO=ON は、バッチモードではサポートされていません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	
適用可能なステートメント	SET GLOBALS	
適用可能なコマンド	GLOBALS	

35 COMPR - RPC バッファ圧縮の設定

この Natural プロファイルパラメータこのパラメータは、RPC バッファ圧縮を設定するために使用します。

可能な設定	0	圧縮は実行されません。
	1	送信バッファには、変更可能なフィールドと出力フィールドおよびフォーマットバッファが含まれます。返信バッファには、変更可能なフィールドと入力フィールドが含まれます。
	2	COMPR=1 と同様、さらに返信バッファにもフォーマットバッファが含まれます。
デフォルト設定	1	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input checked="" type="radio"/>	ランタイムに、SYRPCユーティリティのパラメータメンテナンス機能を使用してこの値を上書きできます。



注意:

1. COMPR はクライアントサイドでのみ指定します。
2. COMPR は、自動的な Natural RPC 実行が使用されており (`AUTORPC=ON`) 、インターフェイスオブジェクトなしで CALLNAT が実行される場合にのみ有効です。インターフェイスオブジェクトが使用される場合は、圧縮はインターフェイスオブジェクト生成中にすでに設定されています。詳細については、『Natural RPC (リモートプロシージャコール)』ドキュメントの「圧縮の使用」を参照してください。
3. 詳細については、『Natural RPC (リモートプロシージャコール)』ドキュメントを参照してください。

36 COVERAGE - Natural セッションのコードカバレッジ

■ COVERAGE パラメータの構文	82
■ COVERAGE パラメータの例	83

このプロファイルパラメータは、Naturalセッションのコードカバレッジを実行するために使用します。カバレージデータは、NaturalONE または Natural Profiler ユーティリティを使用して解析することができる、NCVF (Natural カバレッジファイル) リソースファイルに書き込まれます。詳細については、『NaturalONE』ドキュメントまたは『Natural Profiler』ドキュメントを参照してください。

可能な設定	「 COVERAGE パラメータの構文 」を参照してください。	
デフォルト設定	なし	「 COVERAGE パラメータの構文 」のサブパラメータのデフォルト設定を参照してください。
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>	

COVERAGE パラメータの構文

COVERAGE パラメータは次のように指定します。

```
COVERAGE={(subparameter=value[,subparameter=value]...)}
```

⚠ 重要: この構文では、空白は使用できません。コンマを使用して、構文要素を分けてください。

上記の意味は次に示すとおりです。

サブパラメータ	Value	説明
ACTIVE	ACTIVE= <i>value</i> カバレージインフラストラクチャをアクティブにするかどうかを決定します。 デフォルト値: OFF	
	ON	カバレージインフラストラクチャがアクティブで、カバレッジデータがリソースファイルに書き込まれます。
	OFF	カバレージインフラストラクチャは非アクティブです。
RESLIB	1~8 文字	RESLIB= <i>value</i> は、リソースファイルを含む Natural ライブラリの名前を指定します。 <i>value</i> の環境変数を指定できます。 デフォルト値: SYSTEM
RESNAME	1~253 文字	RESNAME= <i>value</i> は、データが書き込まれるリソースファイルの名前（パスおよび拡張子なし）を指定します。 <i>value</i> の環境変数を指定できます。

サブパラメータ	Value	説明
		デフォルト値：現在のIDとタイムスタンプを含んでいるファイル名が自動的に生成されます。

COVERAGE パラメータの例

例1デフォルトリソースを使用したコードカバレッジ

```
COVERAGE=(ACTIVE=ON)
```

カバレッジデータは、FUSER 上のライブラリ SYSTEM の現在のユーザー ID とタイムスタンプを含む名前で NCVF リソースファイルに書き込まれます。

例2特定のリソースを使用するコードカバレッジ

```
COVERAGE=(ACTIVE=ON,RESNAME=MYAPP,RESLIB=MYLIB)
```

カバレッジデータは、ライブラリ MYLIB のリソースファイル MYAPP.ncvf に書き込まれます。

例3：変数を使用するコードカバレッジ

```
$COVNAME='123'  
$COVLIB='ABC'  
COVERAGE=(ACTIVE=ON,RESNAME=$COVNAME,RESLIB=$COVLIB)
```

カバレッジデータは、ライブラリ ABC のリソースファイル 123.ncvf に書き込まれます。

37 CP・デフォルトのコードページ名

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural データおよび Natural ソースのデフォルトのコードページを定義します。

可能な設定	1~64 文字	目的のコードページの名前です。
	'' (空白)	システムのコードページにリセットします。
デフォルト設定	'' (空白)	システムのコードページです。
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

 **注意:** システムコードページは ICU (International Components for Unicode) 経由で検出されます。Natural for UNIX によってサポートされているプラットフォームでは、CP パラメータを定義する必要があります。これは、ICU のデフォルトが UNIX プラットフォームごとに異なって定義されている場合があり、この定義も、新しい ICU バージョンを持つ特定のプラットフォームで変わる場合があるためです。さらに、Linux のシステムコードページは、多くの場合 UTF-8 です。UTF-8 は基本的にコードページではなく Unicode エンコーディングです。1 文字の長さが 1 ~ 4 バイトにできるマルチバイトエンコーディングです。REDEFINE などの Natural ステートメントは、可変文字長のエンコーディングでは使用できないため、A フォーマットエンコーディングが UTF-8 である可能性は低いと考えられます。このため、システムコードページが UTF-8 であり、CP パラメータを有効なコードページに設定する必要がある場合は、エラーが表示されます。

38 CPCVERR - コードページ変換エラー

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、次の変換時に発生する変換エラーがNaturalエラーにつながるかどうかを指定します。

- Unicodeからコードページへの変換
- コードページからUnicodeへの変換
- あるコードページから別のコードページへの変換

results in a Natural error or not. いずれにしても、変換後には、ターゲットオペランドに変換結果が格納されます。この変換結果では、関連するコードページについて、変換できないすべての文字が、ICUで定義された置換文字で置き換えられます。



注意:

1. このパラメータは、Naturalソースの変換（ソースエリアへのロード時、またはカタログ時）には関係しません。
2. メインフレームプラットフォームでは、端末エミュレーションのI/Oの前にUnicodeフィールドがコードページに変換されたとは見なされません。この場合、置換文字はNATCONFIGで定義されたプレースホルダ文字に置き換えられます。

可能な設定	ON	ICU変換時に1つ以上のコードポイントが正しく変換されなかった場合、NaturalエラーNAT3413が発行されます。
	OFF	ICU変換時に1つ以上のコードポイントが正しく変換されなくても、エラーは生成されません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	
適用可能なステートメント	SET GLOBALS	
適用可能なコマンド	Globals	

以下の項目も参照してください。

- 『*Unicode およびコードページのサポート*』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」。
- 『*プログラミングガイド*』の「エラートランザクションプログラムの使用」

39

CPOBJIN - バッチ入力ファイルのコードページ

この Natural プロファイルパラメータでは、[CMOBJIN](#) で定義されるバッチ入力ファイル のコードページを指定します。

可能な設定	1~64 文字	ICU コードページ名 (IANA 名を推奨)。
	' ' (空白)	プロファイルパラメータ CP の評価の結果のコードページが使用されます。
デフォルト設定	' ' (空白)	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

『[Unicode およびコードページのサポート](#)』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。

40 CPPRINT - バッチ出力ファイルのコードページ

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural プロファイルパラメータ [CMPRINT](#) で定義されるバッチ出力ファイル のコードページを指定します。

可能な設定	1~64 文字	ICU コードページ名 (IANA 名を推奨)。
	' ' (空白)	プロファイルパラメータ CP の評価の結果のコードページが使用されます。
デフォルト設定	' ' (空白)	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

『[Unicode およびコードページのサポート](#)』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。

41 CPRPC - コードページ名の定義

このプロファイルパラメータでは、EntireXBrokerで使用されるコードページの名前を指定します。

 **注意:** 現在、トランSPORTプロトコルACI (EntireXBroker) が使用されるとき、Natural RPC 機能にのみ適用されます。

可能な設定	1~40 文字	EntireX Broker の有効なコードページ名
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>	

 **注意:**

1. CPRPC クライアントサイドとサーバーサイドの両方で指定できます。
2. EntireX Broker の詳細については、EntireX Broker ドキュメントの Software AG の国際化に関するセクションを参照してください。
3. 『*Unicode およびコードページのサポート*』、「*Unicode／コードページ環境の設定と管理*」、「*プロファイルパラメータ*」も参照してください。

42 CPSYNIN-コマンド用のバッチ入力ファイルのコードページ

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural プロファイルパラメータ CMSYNIN で定義されるコマンド用バッチ入力ファイルのコードページを指定します。

可能な設定	1~64 文字	ICU コードページ名 (IANA 名を推奨)。
	'' (空白)	プロファイルパラメータ CP の評価の結果のコードページが使用されます。
デフォルト設定	'' (空白)	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。

43 CV - 属性制御変数

このセッションパラメータは、属性制御変数を参照するために使用します。

可能な設定	B, C, D, I, N, U, V	フィールド表現属性（セッションパラメータ AD を参照）。	
	P	フィールド保護（セッションパラメータ AD を参照）。	
	BL, GR, NE, PI, RE, TU, YE	カラー（カラーコードの詳細については、セッションパラメータ CD を参照）。	
デフォルト設定	なし		
適用可能なステートメント	DISPLAY INPUT PRINT PROCESS PAGE REINPUT WRITE	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。	
適用可能なコマンド	なし		



注意:

- 属性制御変数は、フォーマット C（『プログラミングガイド』の「特殊フォーマット」を参照）で定義され、フィールド属性をダイナミックに割り当てたり、INPUT または PROCESS PAGE ステートメントと組み合わせてフィールドの「modified」ステータスを確認したりするために使用されます。『プログラミングガイド』の「論理条件基準」、「MODIFIED オプション - フィールドの内容が変更されているかどうかのチェック」も参照してください。
- IF ステートメントの MODIFIED オプションを指定することで、属性制御変数を使用して、フィールドの内容が INPUT または PROCESS PAGE ステートメントの実行時に変更されたかどうかをチェックできます。 IF #ATTR MODIFIED ...
- 単一の属性制御変数を複数の入力フィールドに適用できます。そのためには、ステートメントレベルで 1 回指定するか、エレメントレベルで複数回指定します。この場合、制御変数を

参照しているフィールドが変更されると、「modified」ステータスインジケータが設定されます。ステートメントレベルとフィールドレベルの両方でCVパラメータが指定され、個々のフィールドの属性制御変数が空の場合、フィールドにはステートメントの属性制御変数が使用されます。

- 属性制御変数は、対応する配列のランクに応じて、最大3次元まで拡張できます（例えば、`CONTR(*)`、`CONTR(*,*)`、`CONTR(*,*,*)`）。

例：

```
DEFINE DATA LOCAL
1 #ATTR(C)
1 #A   (N5)
END-DEFINE
...
MOVE (AD=I CD=RE) TO #ATTR
INPUT #A (CV=#ATTR)
...
```

44 CVMIN - 入力時に変更された制御変数

このNaturalプロファイルパラメータでは、属性制御変数が付加されているフィールドの設定が同じ設定で上書きされたときに属性制御変数に MODIFIED ステータスを割り当てるかどうかを決定します。

可能な設定	ON	フィールド設定が同じ設定で上書きされた場合、対応する制御変数に MODIFIED ステータスが割り当てられます。
	OFF	フィールド設定が同じ設定で上書きされた場合、対応する制御変数に MODIFIED ステータスは割り当てられません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意: 属性制御変数に MODIFIED ステータスが割り当てられた場合、MODIFIED オプションはこれを TRUE として評価します。これは、入力が手動によるものか、スタックからの読み込みによるものか、またはバッチモードでの指定によるものかに関係なく、適用されます。

45 DBGAT -NaturalONEでのデバッグアタッチサーバー

- DBGAT パラメータの構文 102
- DBGAT パラメータの例 103

この Natural プロファイルパラメータを使用すると、NaturalONE で外部の Natural アプリケーションをデバッグできます。

可能な設定	「 DBGAT パラメータの構文 」を参照してください。	
デフォルト設定	なし	「 DBGAT パラメータの構文 」のサブパラメータのデフォルト設定も参照してください。
ダイナミックな指定	○	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。
セッション内の指定	×	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	×	

外部の Natural アプリケーションをデバッグする方法の詳細については、『NaturalONE』ドキュメントを参照してください。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

DBGAT パラメータの構文

DBGAT パラメータは次のように指定します。

```
DBGAT=(subparameter=value,...)
```

⚠️ 重要: この構文では、スペースは使用できません。オプションの構文要素は、カンマで区切られます。

上記の意味は次に示すとおりです。

サブパラメータ	値	説明
ACTIVE	ON	ON は、デバッグアタッチメカニズムがアクティブであることを意味します。
	OFF	Natural ランタイムでデバッグを行う準備ができました。
HOST	1~64 文字	接続するデバッグアタッチサーバーの名前。
PORT	0~65535	デバッグアタッチサーバーが聴取するポートの番号。デフォルト値：2500。
CLID	1~64 文字	デバッグする NaturalONE プロジェクトのクライアント ID。

DBGAT パラメータの例

```
DBGAT=(ACTIVE=ON,HOST=MYHOST,PORT=9999,CLID=MYCLIENTID)
```


46 DBSHORT - データベースフィールドショートネームの解釈

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータを使用すると、データベースフィールドショートネームの解釈を指定できます。このパラメータは、Naturalシステムコマンド COMOPT のオプション DBSHORT に対応します。

DDMに定義されるデータベースフィールドは、次の2種類の名前で記述されます。

- ショートネーム。長さ2文字で、Naturalによってデータベース（特にAdabas）との通信に使用されます。
- ロングネーム。長さ3～32文字（基盤となるアクセス対象データベースタイプがDB2/SQLの場合は1～32文字）で、Naturalプログラミングコード内のフィールドへの参照に使用されます。

特別な状況下では、Naturalプログラム内のデータベースフィールドへの参照に、ロングネームの代わりにショートネームを使用できます。このことは、Natural Securityなしでレポートイングモードで実行している場合、およびデータベースアクセスステートメントにビューへの参照ではなくDDMへの参照が含まれている場合に当てはまります。

フィールド名がショートネーム参照とみなされるかどうかは、名前の長さによって判断されます。フィールド識別子が2文字の場合は、ショートネーム参照とみなされます。それ以外の長さのフィールド名は、ロングネーム参照とみなされます。データベースフィールドに関するこのような標準解釈ルールを追加で指定および制御するには、コンパイラオプション DBSHORT をONまたはOFFに設定します。

可能な設定	ON	<p>ショートネームは、データベースフィールドの参照に使用できます。</p> <p>ただし、DBSHORT=ON が設定されている場合でも、次のような場合には、通常、データベースショートネームは使用できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ビューを作成するとき、フィールドの定義に使用する場合 ■ DEFINE DATA LOCAL ステートメントが指定されている場合、 ■ Natural Security で実行されている場合
	OFF	<p>データベースフィールドの参照には、ロングネームのみを使用できます。各データベースのフィールド識別子は、文字数に関係なく、ロングネームの参照であるとみなされます。</p> <p>2 文字の名前が指定されており、この名前がロングネームではなくショートネームとしてのみ見つかる場合は、コンパイル時に構文エラー NAT0981 が発生します。</p> <p>これにより、DDM に定義されている識別子長が 2 バイトのロングネームを使用できるようになります。この DDM を使用してアクセスする、基盤となるデータベースが SQL (DB2) であり、かつ、名前の長さが 2 文字のテーブル列が存在する場合、このオプションを指定する必要があります。ただし、Adabas など、他のすべてのデータベースタイプについては、名前の長さが 2 バイトのロングフィールドを定義しようとすると、DDM の生成時に拒否されます。</p> <p>また、ショートネーム参照が使用されていない場合 (DBSHORT=OFF によって強制的に設定できます)、プログラムは Natural Security なしでコンパイルされたかどうかに無関係になります。</p>
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	
適用可能なステートメント	OPTIONS	
適用可能なコマンド	以下の DBSHORT オプション: COMPOPT	

例：

DDM EMPLOYEES に以下のデータベースフィールド定義がある場合を考えます。

Short Name	Long Name
AA	PERSONNEL-ID

例 1

```
OPTIONS DBSHORT=ON
READ EMPLOYEES
  DISPLAY AA      /* data base short name AA is allowed
END
```

例 2

```
OPTIONS DBSHORT=OFF
READ EMPLOYEES
  DISPLAY AA      /* syntax error NAT0981, because DBSHORT=OFF
END
```

例 3 :

```
OPTIONS DBSHORT=ON
DEFINE DATA LOCAL
1 V1 VIEW OF EMPLOYEES
  2 PERSONNEL-ID
END-DEFINE
READ V1 BY PERSONNEL-ID
  DISPLAY AA      /* syntax error NAT0981, because PERSONNEL-ID is defined in view;
                    /* (even if DBSHORT=ON)
END-READ
END
```


47 DBUPD - データベース更新

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural セッション中にデータベース更新を許可するかどうかを指定します。

可能な設定	ON	データベース更新は許可されます。
	OFF	<p>データベース更新は許可されません。</p> <p>プログラム (CHECK、CATALOG または STOW コマンド) をコンパイルするときに、プログラムに次のいずれかのステートメントが含まれている場合は、NAT0105 エラーメッセージ (Database updating not permitted) が表示されます。UPDATE、STORE、DELETE または INSERT。</p> <p>UPDATE、STORE、または DELETE ステートメントを指定したプログラムが実行される場合、データベースの更新は行われません。代わりに、次の画面 I/O で、NAT1010 警告メッセージが表示されます。</p> <p>さらに、UPDATE または DELETE ステートメントが含まれるデータベースループでは、レコードがホールド状態になりません (read with hold なし)。</p>
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N USR1042N*	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。 * 推奨。



注意: DBUPD 設定は、Natural システムコマンドの実行には影響しません。

48 DC - 小数点表記の文字

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、小数点表記に使用する文字（ピリオドまたはコンマ）を決定します。

可能な設定	任意の特殊文字	DCに割り当てる文字は、変数、定数、編集マスクなど小数点が可能なすべての表記に影響します。DCパラメータで指定する文字は、次の条件を満たしている必要があります。		
		<ul style="list-style-type: none">■ IA プロファイル／セッションパラメータ (INPUT割り当て文字) または ID プロファイル／セッションパラメータ (INPUTデリミタ文字) で指定した文字と異なる文字にする必要があります。■ CF プロファイル／セッションパラメータ (端末コマンドの制御文字) または HI プロファイルパラメータ (ヘルプ文字) で指定した文字と異なる文字にする必要があります。		
デフォルト設定	. (ピリオド)			
ダイナミックな指定	○			
セッション内の指定	○	適用可能なステートメント：	SET GLOBALS	パラメータはランタイムに評価されます。
		適用可能なコマンド：	GLOBALS	パラメータはGLOBALSシステムコマンドを使用してダイナミックに指定できます。
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。		



注意:

1. Natural セッション内で、プロファイルパラメータ `DC` をセッションパラメータ `DC` で上書きできます。
2. パラメタファイルで `DC` を変更する場合、Natural プログラムで使用している DDM を保存し直し、新しい .NSD ファイルをディスクに保存する必要があります。
3. Natural Security では、このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルの [セッションパラメータ] オプションで上書きできます。

49 DD - 日差

このNaturalプロファイルパラメータでは、現在のマシン日付（内部マシンタイムで読み込まれる）を調整するために加算／減算する日数を指定します。これにより、ある特定の日付に実行すべきであったが、何らかの理由でその日に実行できなかったアプリケーションを再実行できます。

DDプロファイルパラメータは次のように指定します。

`DD=+nn`

または

`DD=-nn`

上記の *nn* は日数です。

可能な設定	-10953～+10953	マシンの日付が調整されます。「+」の指定は任意です。
	0	調整されません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

プロファイルパラメータ [TD](#) も参照してください。

50 DF・日付フォーマット

DFセッションパラメータでは、編集マスクを指定しないで英数字表現に変換するときの日付の長さを決定します。

可能な設定	S	2桁の年コンポーネントとデリミタを使用する8バイトの表記です (yy-mm-dd)。 DF=Sで提供される年情報は2桁のみです。つまり、日付の値に世紀が含まれる場合、その情報は変換時に失われます。
	I	4桁の年コンポーネント(デリミタなし)を使用する8バイトの表記です (yyyyymmdd)。 注 を参照してください。
	L	4桁の年コンポーネントとデリミタを使用する10バイトの表記です (yyyy-mm-dd)。 注 を参照してください。
デフォルト設定	S	
適用可能なステートメント	FORMAT	
	INPUT DISPLAY WRITE PRINT	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド	MOVE COMPRESS STACK RUN FETCH	パラメータはエレメントレベルで指定できます。
	なし	



注意:

1. DFパラメータはコンパイル時に評価されます。

2. 年月日の各コンポーネントの順序と使用されるデリミタ文字は、プロファイルパラメータ **DTFORM** によって決定されます。
3. 日付フィールドの値を英数字フォーマットに変換するとき（例えば、MOVE、DISPLAY、WRITE、または INPUT ステートメント）、変換用に編集マスクを指定していないと、プロファイルパラメータ **DTFORM** で決定されたデフォルトの日付フォーマットが編集マスクとして使用されます。
4. INPUT ステートメントで使用される日付変数の入力チェックについても同様です。編集マスクが指定されていないと、入力は **DTFORM** パラメータで決定された日付フォーマットに従ってチェックされます。
5. DF=I または DF=L を使用すると、アプリケーションを 4 桁の年表記に段階的に変更し、同時にプロファイルパラメータ **DTFORM** で提供した柔軟な使用を継続できます。
6. 『プログラミングガイド』の「英数字表現の日付フォーマット - DF パラメータ」も参照してください。

51 DFOUT - 出力の日付フォーマット

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、INPUT、DISPLAY、PRINT、およびWRITEステートメントで表示される日付変数の設定のフォーマットを決定します。

可能な設定	S	日付変数は、2桁の年コンポーネント、およびプロファイルパラメータ DTFORM で決定されたデリミタで表示されます。 例： <i>yy-mm-dd</i>
	I	日付変数は、完全な4桁の年コンポーネント（デリミタなし）で表示されます。 例： <i>yyyyymmdd</i>
デフォルト設定	S	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	適用可能なステートメント： SET GLOBALS 適用可能なコマンド： GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

1. Naturalセッション内で、プロファイルパラメータ **DFOUT** をセッションパラメータ **DFOUT** で上書きできます。
2. プロファイルパラメータ **DFOUT** はランタイムに評価されます。
3. 編集マスクが明示的に指定されておらず、セッションパラメータ **DF** が設定されていない、INPUT、DISPLAY、PRINT、およびWRITEステートメントの日付フィールドに適用されます。

4. 日付設定の日、月、および年コンポーネントの順番は、**DTFORM** プロファイルパラメータで決定されます。
5. 『プログラミングガイド』の「日付情報の処理」も参照してください。

52 DFS・RPC クライアントのデフォルトのサーバー アドレスの指定

この Natural プロファイルパラメータは、最大 5 つの位置指定サブパラメータを指定することで、RPC のデフォルトのサーバーアドレスを定義するために使用します。

可能な設定	「 DFS パラメータの構文 」を参照してください。	
デフォルト設定	なし	サブパラメータのデフォルトについては、「 DFS パラメータの構文 」を参照してください。
ダイナミックな指定	○	下記を参照してください。
セッション内の指定	○	ランタイムに、Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス USR2007N を使用してこの値を上書きできます。
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR2007N	『Natural RPC (リモートプロシージャコール)』ドキュメントの「Natural RPC で使用するアプリケーションプログラミングインターフェイス」および『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

- DFS はクライアントサイドでのみ指定します。
- DFS は、サーバー名、サーバーノード、ログオンインジケータ、およびトランSPORTプロトコルを決定します。サービスディレクトリに適切なサーバーが見つからない場合にのみ、デフォルトのサーバーアドレスが使用されます。詳細については、『Natural RPC (リモートプロシージャコール)』ドキュメントの「RPC サーバーアドレスの指定」を参照してください。

DFS パラメータの構文

パラメータの構文は、次のとおりです。

DFS - RPC クライアントのデフォルトのサーバーアドレスの指定

DFS=(*server-name*,*server-node*,*logon-indicator*,*transport-protocol-name*,*service-directory-indicator*)

上記の意味は次に示すとおりです。

構文要素	値	説明
<i>server-name</i>	1~32 文字	有効なサーバー名。パラメータ「SRVNAME」も参照してください。 デフォルト値はありません。値は指定する必要があります。
<i>server-node</i>	1~192 文字	ノード名。パラメータ「SRVNODE」も参照してください。 デフォルト値はありません。値は指定する必要があります。
<i>logon-indicator</i>	L	クライアントは、クライアントの現在のライブラリのライブラリ名を使用して、サーバーへの Natural ログオンを開始します。Windows プラットフォームの場合:Lを指定する代わりに、選択ボックスをチェックしてください。
	(空白)	空白は、サーバーログオンが実行されないことを意味します。何も指定しない場合、これがデフォルトになります。
<i>transport-protocol-name</i>	ACI	使用されるトランSPORTプロトコル。指定できる値は ACI のみで、これがデフォルトです。
<i>service-directory-indicator</i>	SERVDIR	DFS プロファイルパラメータが評価される前に、サービスディレクトリが存在している必要があります。
	NOSERVDIR	DFS プロファイルパラメータが評価される前に、サービスディレクトリは使用されません。つまり、サービスディレクトリはクライアントサイドで不要です。 何も指定しない場合、SERVDIR がデフォルトになります。

53 DFSTACK - スタックの日付フォーマット

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、STACK、RUN、またはFETCHステートメントを介してスタックに配置される日付変数の設定のフォーマットを決定します。

可能な設定	S	日付変数は、2桁の年コンポーネント、およびプロファイルパラメータ DTFORM で決定されたデリミタでスタックに配置されます。 例： <i>yy-mm-dd</i>
	C	DFSTACK=S も同様です。 さらに、設定がスタックから読み込まれるときに使用される世紀が元の日付設定の世紀と同じでない場合、Natural からランタイムエラーが発行されます。
	I	日付変数は、完全な4桁の年コンポーネント（デリミタなし）でスタックに配置されます。 例： <i>yyyymmdd</i>
デフォルト設定	S	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	適用可能なステートメント： SET GLOBALS 適用可能なコマンド： GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

1. Natural セッション内で、プロファイルパラメータ DFSTACK をセッションパラメータ DFSTACK で上書きできます。
2. プロファイルパラメータ DFSTACK は、セッションパラメータ DF が設定されている STACK、RUN、または FETCH ステートメントには適用されません。
3. 『プログラミングガイド』の「日付情報の処理」も参照してください。

54 DFTITLE-標準レポートタイトルの日付出力フォーマット

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、(DISPLAY、WRITE、またはPRINTステートメントを使用して出力する) レポートページのデフォルトタイトルの日付出力フォーマットを決定します。

可能な設定	S	日付は、2桁の年コンポーネントおよびデリミタで出力されます。 例： <i>yy-mm-dd</i>
	L	日付は、4桁の年コンポーネントおよびデリミタで出力されます。 例： <i>yyyy-mm-dd</i>
	I	日付は、4桁の年コンポーネント(デリミタなし)で出力されます。 例： <i>yyyymmdd</i>
デフォルト設定	S	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	適用可能なステートメント : SET GLOBALS 適用可能なコマンド : GLOBALS
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXTユーティリティ-Naturalアプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

1. Naturalセッション内で、プロファイルパラメータ DFTITLE をセッションパラメータ DFTITLE で上書きできます。
2. DFTITLE は、ランタイムに評価されます。また、日付の年コンポーネントを 2 衔にするか 4 衔にするか、またデリミタ付きにするかデリミタなしにするかを決定します。
3. (WRITE TITLEステートメントで指定する) ユーザー定義ページタイトルには影響しません。
4. 年月日の各コンポーネントの順序と使用されるデリミタ文字は、プロファイルパラメータ DTFORM によって決定されます。
5. 『プログラミングガイド』の「日付情報の処理」および「デフォルトページタイトル用の日付フォーマット - DFTITLE パラメータ」も参照してください。

55 DL・出力の表示長

このセッションパラメータでは、フォーマット A または U のフィールドの表示長を指定します。デフォルトの表示長はフィールド長です。

可能な設定	1~n	n は LS (行サイズ) パラメータから 1 を引いた値
デフォルト設定	なし	
適用可能なステートメント	FORMAT DISPLAY INPUT PRINT WRITE	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド	なし	

例：

```
FORMAT DL=20
```

DL セッションパラメータの詳細および使用例については、『プログラミングガイド』の次のトピックを参照してください。

- フィールドの出力に影響を与えるパラメータ
- 出力長 - AL パラメータと NL パラメータ
- 出力の表示長 - DL パラメータ

56 DO - 出力データの表示順序

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、双方向データがサポートされている端末に表示する場合のフィールドの解釈方法を指定します。

可能な設定	<input checked="" type="checkbox"/>	アプリケーションからのデータを論理表示順序にすることを指定します。 注意: フィールド文字は、その文字プロパティに基づいて（左から右へ、または右から左へ）表示されます。
	<input checked="" type="checkbox"/>	アプリケーションからのデータを視覚的順序にすることを指定します。 注意: <ol style="list-style-type: none">すべてのフィールドは、端末に送信される前に Natural によりインバートされます。このオプションは、プロファイルパラメータ PM=I または端末コマンド %VON によってアクティブ化されたインバース（右から左へ）出力モードをサポートする端末用に作成された古いアプリケーションで必要となります。
デフォルト設定	<input checked="" type="checkbox"/>	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	適用可能なステートメント : SET GLOBALS 適用可能なコマンド : GLOBALS



注意:

- I/Oデバイスは、文字プロパティに応じて適切な表示順序を作成できる必要があります。このことは、例えば、アプリケーションが Natural Web I/O インターフェイスを介してブラウザで実行されている場合に当てはまります。これ以外の端末タイプでは、このパラメータは無効になります。

2. 設定 `PM=I` を使用する方法の詳細については、『*Unicode およびコードページのサポート*』ドキュメントの「双向言語サポート」を参照してください。

57 DTFORM - 日付フォーマット

この Natural プロファイルパラメータは、Natural で自動的に生成される Natural レポートのデフォルトタイトルの日付、日付定数および日付入力のデフォルトフォーマットを示します。

可能な設定	値	Area	日付フォーマット
	E	ヨーロッパ式	DD/MM/YYYY
	G	ドイツ式	DD.MM.YYYY
	I	国際式	YYYY-MM-DD
	U	アメリカ式	MM/DD/YYYY
デフォルト設定	I		
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>		
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>		
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーザリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。	



注意:

- 週の最初の曜日には、DTFORM=U が指定されていない場合は月曜日、指定されている場合は日曜日が使用されます。
- 日付定数に対して、年コンポーネントは4桁 (YYYY) で構成されます。レポート、日付入力、Natural システム関数 VAL には、年コンポーネントの末尾2桁のみが使用されます。また、日付が英数字フィールドに転送される場合も同様に末尾2桁が使用されます。
- デフォルトのレポートページタイトルの日付出力フォーマットは、プロファイルパラメータ **DFTITLE** でも指定されます。
- 『プログラミングガイド』の「日付情報の処理」および「デフォルトの日付編集マスク - DTFORM パラメータ」も参照してください。

58 DU - ダンプ生成

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、逆アセンブルされたオブジェクトコードダンプを生成するかどうかを決定します。

可能な設定	ON	<p>システムコマンド CHECK、STOW、CATALOG、RUN、または CATALOG のいずれかが実行された場合、逆アセンブルされたオブジェクトコードファイルが生成されます。</p> <p>Natural オブジェクトがチェック、格納、カタログ、または実行されると、逆アセンブルされたオブジェクトコードファイルが生成されます。</p> <p>このダンプファイルは、Natural コンフィグレーションユーティリティの Natural TMP ディレクトリオプションで定義されたディレクトリに書き込まれます。 「ローカルコンフィグレーションファイル」、「インストール指定」を参照してください。</p> <p>このダンプファイルの名前は、ソースファイル名と拡張子 .DIA で構成されます。ソースファイルが保存されていない場合、ダンプファイルの名前は GEN.DIA になります。プログラムにデータベースアクセスステートメントが含まれている場合、拡張子 .ADA (Adabas 用) または .SQL (SQL データベース用) のダンプファイルも作成されます。XREF データが生成される場合、ダンプファイル .XRF が作成されます。</p> <p>注意: DU=ON を指定すると、大きなダンプファイルが作成され (ソースファイルのサイズによる) 、システムパフォーマンスが大幅に低下することがあります。</p>
	OFF	ダンプファイルは生成されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	

適用可能なス テートメント	SET GLOBALS
適用可能なコ マンド	GLOBALS

 **注意:** Natural セッション内で、プロファイルパラメータ DU をセッションパラメータ DU で上書きできます。

59 DY・ダイナミック属性

■ DY パラメータの構文	134
■ 例	136

DY - ダイナミック属性

このセッションパラメータは、ダイナミック属性フィールド表示に属性を割り当てるために使用します。

可能な設定	「 DY パラメータの構文 」を参照してください。	
デフォルト設定	なし	
適用可能なステートメント	DISPLAY INPUT PRINT WRITE	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド	なし	

特別な識別文字（エスケープ文字）は、属性定義の前後に付けます。

INPUT、DISPLAY、WRITE、またはPRINTステートメントで処理され、エスケープ文字を含む英数字フィールドは、エスケープ文字の位置でサブフィールドに分割されます。その後、対応する属性がサブフィールドに割り当てられます。エスケープ文字は空白で置き換えられます。

 **注意:** DY 指定が適用されるフィールドの一部については、現在のフィールド表示とカラー属性は、新しい設定がDY エントリで定義されるまで有効です。つまり、フィールドカラーは、DY パラメータ自体で新しいカラーを定義している場合、DY 属性によってのみ変更されます。同様のことが[フィールド表現属性](#) (AD=B,C,D,I,N,U,V) にも該当されます。

以下では次のトピックについて説明します。

DY パラメータの構文

```
DY={{escape-character1} [color-attribute] [i/o-characteristics]
[field-representation-attribute]} ... {escape-character2}}
```

有効な設定について次に説明します。

escape-character1

属性定義の始めを表すエスケープ文字。任意の特殊文字、またはアポストロフィと16進数 ('xx) を使用できます。

color-attribute

カラー属性の割り当て。セッションパラメータ [CD](#) (カラー定義) も参照してください。

BL	青
GR	緑
NE	デフォルト色
PI	ピンク
RE	赤
TU	空色
YE	黄色

i/o-characteristics

値	意味
P	サブフィールドの書き込み保護。

サブフィールドを書き込み保護するために P を指定できます。セッションパラメータ AD (属性定義) も参照してください。

field-representation-attribute

追加属性の割り当て。セッションパラメータ AD (属性定義) も参照してください。

値	意味
B	点滅 (*)
C	手書き／斜体 (*)
D	デフォルトの輝度
I	高輝度
N	非表示
U	下線付き
V	反転表示 (*)

アスタリスク () の付いたフィールド表現属性では対応するハードウェア機能が必要です。これらの機能がないと、ランタイムに無視されます。

escape-character2

属性定義の終わりを表すエスケープ文字。任意の特殊文字 (c) 、またはアポストロフィと16進数 ('xx) を使用できます。

属性定義の終わりを表す文字の前に、エスケープシーケンス (エスケープ文字および属性) を8組まで指定できます。

例

例 1

```
DY=<U>
```

テキスト文字列は次のとおりです。

```
THIS <is> UNDERLINED
```

次のように出力されます。

```
THIS is UNDERLINED
```

例 2

```
DY=<BL|RE/GR>
```

割り当て：

< は青

| は赤

/ は緑

> は、初期フィールドカラーに戻ることを示します。

例 3：

```
DY=<P>;
```

テキスト文字列は次のとおりです。

```
Do not overwrite <this>
```

次のように出力されます。

```
Do not overwrite this
```

(この場合、this が保護されます)

60 DYNPARM - ダイナミックパラメータ使用の制御

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural ダイナミックパラメータの使用を有効または無効にします。

可能な設定	ON	Natural 起動時に指定されたダイナミックパラメータが処理されます。
	OFF	Natural 起動時に指定されたダイナミックパラメータは処理されません。 注意: Natural デフォルトパラメータファイル NATPARM で DYNPARM が OFF に設定されている場合、Natural の起動時に代替のユーザー定義パラメータファイルは使用できません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	

ダイナミックパラメータ使用の詳細については、「パラメータ値のダイナミックな割り当て」を参照してください。

61 ECHO - バッチ入力データの出力制御

このNaturalプロファイルパラメータは、バッチモード処理中にNaturalに提供された入力データの出力を有効または無効にするために使用します。

可能な設定	ON	Naturalでは、バッチモード処理中に提供された入力データをバッチ出力ファイルCM PRINTに出力します。
	OFF	Naturalでは、バッチモード処理中に提供された入力データを出力しません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意:

- このNaturalプロファイルパラメータはバッチモードにのみ適用されます。
- 单一入力行の出力を抑制することもできます。その場合、レコード抑制用の端末コマンド%*を含む行を前に指定します。
- コマンド(NEXT)モードでCMSYNINから読み込まれた入力は、バッチ出力ファイルCM PRINTに常に反映されます。

62 ECPMOD - Entire Connection プロトコルモード

このNaturalプロファイルパラメータでは、ワークファイルをダウンロードするときに使用されるプロトコルを決定します。

可能な設定	ON	TCP/IP プロトコルが使用されます。
	OFF	ZMODEM プロトコルが使用されます。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

63 EDITOR - 他のプログラムエディタ

このNatural プロファイルパラメータは、Software AG が提供する標準エディタ以外のプログラムエディタを呼び出すために使用します。

可能な設定	任意の文字列	使用するエディタの名前。指定（下記参照）。
デフォルト設定	NATEDIT	Software AG が提供する標準エディタ。
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	

-  **注意:** 外部エディタを使用している場合、各 Natural ソース行の先頭に 4 枠の行番号を手動で追加する必要があります（既存のソースが編集されている場合）。

外部エディタを使用するには、パスとエディタ名を指定します。

```
path-name editor-name command-to-specify-line %l command-to-specify-file %f
```

%l の前の文字列は、行番号の ASCII 表現で置き換えられます。%f の前の文字列は、Natural で認識されているファイル名で置き換えられます。

コードページの競合が発生することがあるため、外部のエディタは使用しないことをお勧めします。競合が発生すると、必ずではありませんが、ソースコードが破損するおそれがあります。

例：

```
vi +%l %f
```

「vi」をプログラムエディタとして使用するには、パラメータファイルを指定どおり編集します。既存のパラメータファイルが更新されていない場合、指定したエディタ（つまり、「vi」）ではエラー行を検出できません。

64 EDTBPSIZE - Software AG Editor バッファプールサイズ

この Natural プロファイルパラメータは、Software AG Editor バッファプールのサイズを設定するため使用します。

可能な設定	0 - 4000	Software AG Editor バッファプールのサイズ (KB 単位)。
デフォルト設定	400	
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	

65

EDTLFILES - Software AG Editor 論理ファイルの数

このNaturalプロファイルパラメータは、ユーザーが一度に開けるSoftware AG Editorセッションの最大数を設定するために使用します。

可能な設定	10 - 999	Software AG Editor セッションの最大数。
デフォルト設定	100	
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	

66

EDTRB・プログラムエディタのリングバッファ

このNaturalプロファイルパラメータは、プログラムエディタのリングバッファを使用するかどうかを決定するために使用します。

可能な設定	ON	リングバッファが使用されます。
	OFF	リングバッファは使用されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	

詳細については、「複数エディタセッション」を参照してください。

67 EJ・ページ換え

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータは、論理ページ、プログラム入力および出力間のブレイク、また「normal end」メッセージの出力時にページ換えを行うかどうかを指定するために使用します。

可能な設定	ON	ページ換えを行います。			
	OFF	ページ換えを行いません。 注意: この設定を使用して、ページ換えの必要なないテスト実行時に用紙を節約できます。			
デフォルト設定	ON				
ダイナミックな指定	○				
セッション内の指定	○	適用可能なステートメント:	SET GLOBALS	パラメータはランタイムに評価されます。	
		適用可能なコマンド:	GLOBALS	パラメータはGLOBALSシステムコマンドを使用してダイナミックに指定できます。	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。			



注意:

1. Naturalセッション内で、プロファイルパラメータEJをセッションパラメータEJで上書きできます。
2. EJ設定はEJECTステートメントでも上書きできます。
3. このパラメータは、最初のレポート（レポート0）にのみ適用されます。他のレポートについては、レポート指定(rep)付きのEJECTステートメントを使用する必要があります。

4. Natural Security では、このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書きできます。

68 EM - 編集マスク

■ EM パラメータの構文	154
■ 例	155
■ 編集マスク内の空白	155
■ デフォルトの編集マスク	155
■ 数値フィールドの編集マスク	156
■ 英数字フィールドの編集マスク	159
■ バイナリフィールド（フォーマット B）の編集マスク	160
■ 16 進編集マスク	160
■ 日付（フォーマット D）と時刻（フォーマット T）のフィールドの編集マスク	162
■ 論理フィールド（フォーマット L）の編集マスク	166

このセッションパラメータでは、適用可能なステートメントの次の表に示されているいずれかのステートメントで使用される入力／出力フィールドに編集マスクを指定できます。

可能な設定	「 EM パラメータの構文 」を参照してください。	
デフォルト設定	なし	
適用可能なステートメント	FORMAT DEFINE DATA DISPLAY INPUT PRINT PROCESS PAGE/PROCESS PAGE UPDATE WRITE	パラメータは FORMAT ステートメントを使用してダイナミックに指定できます。 パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
	MOVE EDITED	パラメータはエレメントレベルで指定できます。
適用可能なコマンド	なし	



注意:

1. Unicode 編集マスクの詳細については、セッションパラメータ [EMU](#) を参照してください。
2. パラメータ EM は、U フォーマットのフィールドでも使用できます。Unicode フォーマットの詳細については、「Natural プログラミング言語の Unicode」とコードページのサポート」の「セッションパラメータ」の項にある「EMU、ICU、LCU、TCU と EM、IC、LC、TC の比較」を参照してください。
3. 『プログラミングガイド』の「編集マスク - EM パラメータ」も参照してください。

以下では次のトピックについて説明します。

EM パラメータの構文

入力フィールドについては、値は編集マスクと正確に一致するように入力する必要があります。入力フィールドに編集マスクを表示する場合、フィールドを変更可能フィールド ([AD=M](#)) として定義する必要があります。

データベースフィールドについては、デフォルトの編集マスクが DDM で定義されている場合があります。データベースフィールドに EM パラメータで編集マスクを指定した場合、指定した編集マスクがデフォルトの編集マスク (DDM でフィールドに定義) の代わりに使用されます。

フィールドに EM=OFF を指定した場合、DDM で編集マスクが定義されていても、フィールドには編集マスクは使用されません。

DISPLAY、FORMAT、INPUT、またはWRITEステートメントのステートメントレベルでは、EM=OFF以外に、詳細なフィールド編集マスクは指定できません。

編集マスクの指定は、セッションパラメータ [AL](#)、[NL](#)、および [SG](#) の設定を上書きします。

文字9、H、X、およびZは、数値(9,Z)、16進数(H)、および英数字(X)編集マスクの有効な出力桁を表します。9とZの違いについては、下記の「[数値フィールドの編集マスク](#)」を参照してください。

例

```
DISPLAY AA(EM=OFF) AB(EM=XX.XX)
WRITE SALARY (EM=ZZZ,ZZ9)
```

同じ有意文字のシーケンスを数値表記に置き換えることができます（xxxxxxをx(8)に変換するなど）。次の例は、数値(Z,9)、16進数(H)、英数字(X)、および日付(N,L)の有意文字の編集マスクに使用できる省略表記を示しています。

EM=9(4)-9(5)	is equivalent to: EM=9999-99999
EM=H(10)	is equivalent to: EM=HHHHHHHHHH
EM=X(6)..X(3)	is equivalent to: EM=XXXXXX..XXX
EM=YYYY-L(8)-DD-N(8)	is equivalent to: EM=YYYY-LLLLLLL-DD-NNNNNNNN

編集マスク内の空白

EMパラメータの等号(=)の後ろには空白は使用できません（例：EM=<blank>XXX）。

編集マスク内の空白は、使用しているキーボードの文字で表され、16進コードのH'20' (ASCII) または H'5F' (EBCDIC) に対応します。つまり、文字^ (または¬) です。

デフォルトの編集マスク

フィールドに編集マスクを指定しなかった場合、フィールドフォーマットに応じて、デフォルトの編集マスクが割り当てられます。

フィールドフォーマット	デフォルトの編集マスク
A	X
B	H
N、P、I	Z9
F	技術表記
D	デフォルトの日付フォーマット（プロファイルパラメータ DTFORM で設定）によって異なる
T	HH:II:SS
L	空白/X

数値フィールドの編集マスク

フォーマット N、P、I、または F のフィールドに指定した編集マスクには、1つ以上の 9 または Z が含まれている必要があります。

フィールド値の桁数より多くの 9 または Z を含めると、編集マスクの出力桁は、フィールド値に定義されている桁数に調整されます。

逆に、フィールド値の桁数よりも 9 または Z が少ないと、小数点記号よりも前の桁または後の桁が切り捨てられます。

以下では次のトピックについて説明します。

- [数値編集マスクの定義用文字](#)
- [符号文字](#)
- [リテラルリーディング文字](#)
- [リテラル挿入および末尾文字](#)
- [末尾の符号文字](#)
- [数値編集マスクの例](#)

数値編集マスクの定義用文字

文字	関数
9	出力桁（フィールド値の 1 衡）
. (ピリオド)	挿入された最初のピリオドは小数点記号として使用されます。後続のピリオドはリテラル文字として扱われます。 注意: このとき、ピリオドは、現在小数点のセパレータ文字として定義されている記号を表します。セッションまたはプロファイルパラメータ DC を使用して別の文字（コンマなど）が選択されている場合は、この文字が代わりに使用されます。
Z	先頭のゼロの省略。数値フィールドのデフォルト値です。文字 Z は浮動位置のゼロ省略を明示するために繰り返し指定できます。Z は、小数点のセパレータ文字より右の桁には指

文字	関数
	定できません。編集マスクですべて Z を指定し、ゼロ値を空白として表示することもできます（セッションパラメータ ZP も参照）。

9 または Z は、1 文字以上の他の文字の後に続けることができます。

符号文字

9 または Z の前の最初の文字が +、-、S、または N の場合、符号が表示されます。

文字	関数
+	浮動位置の符号は、値の直前（先頭の符号文字）または直後（末尾の符号文字）に表示されます。符号は、フィールドの値に応じて、プラスまたはマイナスとして生成されます。
-	浮動位置のマイナス記号は、フィールド値が負の場合に、値の直前（先頭の符号文字）または直後（末尾の符号文字）に表示されます。
S	符号は、列の左側に表示されます。正の値にはプラス記号が表示され、負の値にはマイナス記号が表示されます。
N	フィールド値が負の場合に、列の左側にマイナス記号が表示されます。

リテラルリーディング文字

最初の出力桁 (Z または 9 で示される) の前に任意の数のリテラルリーディング文字を表示できます。これらの文字は、符号文字の後に続く必要があります。符号文字がなく、最初のリテラルリーディング文字が +、-、S、または N の場合、アポストロフィで囲む必要があります。リテラルリーディング文字が H、X、Z、または 9 の場合、アポストロフィで囲む必要があります。

値に先頭のゼロが含まれており、編集マスクが Z (先頭のゼロの省略) で定義されている場合にのみ、指定された最初のリテラルリーディング文字が出力に表示されます。そのとき、この文字は、先頭のゼロに対する空白の代わりに、充填文字として表示されます。後続のリテラルリーディング文字は、入力されたとおりに表示されます。

リテラル插入および末尾文字

リテラル插入および末尾文字も使用できます。記号 (^) は、先頭の空白、插入された空白、または末尾の空白を表すために使用できます。有意文字 (9、H、Z、X) をアポストロフィで囲んで、先頭文字、插入文字、または末尾文字として一般の文字と同じように使用できます。有意性のない編集マスク文字については、アポストロフィで囲む必要はありません。同様の編集マスク表記で、先頭文字、插入文字、または末尾文字をグループとして扱うこともできます。アポストロフィで囲む必要がある場合と、そうでない場合があるので注意してください。

末尾の符号文字

末尾の符号文字は、数値編集マスクの最後に + または - 文字を使用して指定できます。+ のときは、フィールドの値に応じて、末尾の + 記号または - 記号が生成されます。- のときは、フィールドの値に応じて、末尾のスペースまたは - 記号が生成されます。編集マスクに先頭符号と末尾符号の両方を指定した場合は、どちらも出力されます。

数値編集マスクの例

次の表は、各列の先頭に示した値を編集マスクに従って編集した結果を示しています。列ヘッダーとして使用されている値はすべて N フォーマットのフィールドです。先頭の列の下の行は、異なる編集マスクを使用して得られたフォーマットです。

値	0000.03 (N4.2)	-0054 (N4)	+0087 (N4)	0962 (N4)	1830 (N4)
編集マスク					
EM=9.9	0.0	4.	7.	2.	0.
EM=99	00	54	87	62	30
EM=S99	+00	-54	+87	+62	+30
EM=+Z9	+0	-54	+87	+62	+30
EM=-9.99	0.03	-4.	7.	2.	0.
EM=N9	0	-4	7	2	0
EM=*9.99	0.03	4.	7.	2.	0.
EM=Z99	00	54	87	962	830
EM=EURZZ9.9	EUR**0.0	EUR*54.	EUR*87.	EUR962.	EUR830.
EM=999+	000+	054-	087+	962+	830+
EM=999-	000	054-	087	962	830
IC=\$ EM=ZZZ.99	\$.03	\$54.	\$87.	\$962.	\$830.
EM=H(6)					
- ASCII:	303030303033	30303574	30303837	30393632	31383330
- EBCDIC:	F0F0F0F0F0F3	F0F0F5D4	F0F0F8F7	F0F9F6F2	F1F8F3F0

パラメータ IC および TC を組み合わせれば、負の数でも DISPLAY ステートメントを使用してさまざまな形式で出力できます。

英数字フィールドの編集マスク

Aフォーマットのフィールドにのみ使用される英数字編集マスクには、出力される文字を表すXが1つ以上含まれている必要があります。最初の文字がHのときは、[16進の編集マスク](#)となります。空白は()記号で表されます。閉じカッコを除くすべての文字は、先頭文字、末尾文字、および插入文字として使用できます。アポストロフィで囲まれた先頭文字、插入文字、または末尾文字を指定することも可能です。文字X、閉じカッコ、または引用符を插入文字として指定する場合は、アポストロフィで囲む必要があります。

先頭文字を英数字編集マスクの最初の出力桁Xの前に使用した場合、これらの先頭文字の最初の文字は出力されず、充填文字として英数字出力フィールドの先頭のすべての空白を置き換えるために使用されます。

例：

```
DEFINE DATA LOCAL
1 #X (A4) INIT <' 34'>
END-DEFINE
WRITE #X (EM=*A:X:)
 6X #X (EM=*A:XX:)
 6X #X (EM=*A:XXX:)
 6X #X (EM=*A:XXXX:)
 6X #X (EM=1234XXXX5678)
END
```

出力の生成：

```
A:*:      A:**:      A:**3:      A:**34:      23411345678
```

最後の出力桁の直後の末尾文字は出力されます。

マスクで指定した桁数がフィールド長より短い場合、マスクの長さに合わせて出力されます。

マスクで指定した桁数がフィールド長より長い場合、マスクの先頭の余分な桁が切り捨てられます。

例：

```
DEFINE DATA LOCAL
1 #TEXT (A4) INIT <'BLUE'>
END-DEFINE
WRITE #TEXT (EM=X-X-X)      /* 'B-L-U', 3 bytes of field only.
WRITE #TEXT (EM=X-X-X-X-X)  /* 'B-L-U-E-', with truncated mask.
END
```

英数字編集マスクの例

次のプログラムでは、値 BLUE を含むフィールド（フォーマット／長さ A4）の英数字編集マスクのリストを作成しています。

```
** Example 'EMMASK1': Edit mask
*****
DEFINE DATA LOCAL
1 #TEXT (A4)
END-DEFINE
*
ASSIGN #TEXT = 'BLUE'
WRITE NOTITLE 'MASK 1:' 5X #TEXT (EM=X.X.X.X)
      /      'MASK 2:' 5X #TEXT (EM=X^X^X^X)
      /      'MASK 3:' 5X #TEXT (EM=X--X--X)
      /      'MASK 4:' 5X #TEXT (EM=X-X-X-X-X-X)
      /      'MASK 5:' 5X #TEXT (EM=X' 'X' 'X' 'X')
      /      'MASK 6:' 5X #TEXT (EM=XX....XXX)
      /      'MASK 7:' 5X #TEXT (EM=1234XXXX)
END
```

プログラム EMMASK1 の出力：

```
MASK 1: B.L.U.E
MASK 2: B L U E
MASK 3: B--L--U
MASK 4: B-L-U-E-
MASK 5: B L U E
MASK 6: BL....UE
MASK 7: 234BLUE
```

バイナリフィールド（フォーマット B）の編集マスク

バイナリフィールドの編集マスクは、`X` または `H` 表記を使用して設定できます。バイナリフィールドについては、`X` 表記は、`X` の代わりに `H` が指定した場合のようにサポートされます。

16進編集マスク

編集マスクの最初の文字として `H` を指定した場合、英数字フィールドまたは数値フィールドの内容は 16 進形式で出力されます。各 `H` は、ソースフィールドの 1 バイトに対する 2 つの出力桁を表します。`H` 以外の文字は、マスク内の挿入文字または末尾文字として扱われます。編集マスクの長さがフィールド長より短い場合、出力桁はマスクの長さに調整されます。フィールド長が編集マスクの長さより短い場合、マスクの長さがフィールド長に調整されます。

挿入文字または末尾文字は、必要に応じてアポストロフィで囲んで指定することもできます。

16進編集マスクで出力されたフィールドはすべて英数字として扱われます。そのため、編集マスクが編集対象のフィールドよりも短い場合、数値または英数字の桁は、小数点位置を無視して左から右へ出力されます。

16進編集マスクを入力編集マスクとして使用する場合、0-9、a-f,、A-F、空白、および16進ゼロは、16進数字として入力されます。



注意: 空白と16進ゼロは0としてみなされ、小文字(a-f)は大文字としてみなされます。

16進フィールドの編集マスクの例:

次の表は、16進編集マスクの例を示しています。この結果は、各列の上部に示したフィールドと値に基づいています。編集マスクが適用されているすべての数値(-10、+10、01)が、N2フォーマットで定義されたフィールドに格納されています。英数字値ABは、フォーマット/長さA2で定義されたフィールドに格納されています。

ASCII:

値=>	AB	-10	+10	01
EM=HH	4142	3170	3130	3031
EM=H^H	41 42	31 70	31 30	30 31
EM=HH^H	4142	3170	3130	3031
EM=H-H	41-42	31-70	31-30	30-31
EM=H	41	31	31	30

EBCDIC:

値=>	AB	-10	+10	01
EM=HH	C1C2	F1D0	F1F0	F0F1
EM=H:H	C1 C2	F1 D0	F1 F0	F0 F1
EM=HH:H	C1C2	F1D0	F1F0	F0F1
EM=H-H	C1-C2	F1-D0	F1-F0	F0-F1
EM=H	C1	F1	F1	F0

16 進編集マスクを使用したプログラムの例：

```
** Example 'EMMASK2': Edit mask
*****
DEFINE DATA LOCAL
1 #TEXT1 (A2)
1 #TEXT2 (N2)
END-DEFINE
*
ASSIGN #TEXT1 = 'AB'
ASSIGN #TEXT2 = 10
*
WRITE NOTITLE
    'MASK (EM=HH) :' 18T #TEXT1 (EM=HH)      30T #TEXT2 (EM=HH)
    / 'MASK (EM=H^H) :' 18T #TEXT1 (EM=H^H)      30T #TEXT2 (EM=H^H)
    / 'MASK (EM=HH^H):' 18T #TEXT1 (EM=HH^H)      30T #TEXT2 (EM=HH^H)
    / 'MASK (EM=H-H) :' 18T #TEXT1 (EM=H-H)      30T #TEXT2 (EM=H-H)
    / 'MASK (EM=H)   :' 18T #TEXT1 (EM=H)       30T #TEXT2 (EM=H)
END
```

プログラム EMMASK2 の出力 (ASCII) :

MASK (EM=HH) :	4142	3130
MASK (EM=H^H) :	41 42	31 30
MASK (EM=HH^H):	4142	3130
MASK (EM=H-H) :	41-42	31-30
MASK (EM=H) :	41	31

プログラム EMMASK2 の出力 (EBCDIC) :

MASK (EM=HH) :	C1C2	F1F0
MASK (EM=H^H) :	C1 C2	F1 F0
MASK (EM=HH^H):	C1C2	F1F0
MASK (EM=H-H) :	C1-C2	F1-F0
MASK (EM=H) :	C1	F1

日付（フォーマットD）と時刻（フォーマットT）のフィールドの編集マスク

フォーマットD（日付）またはフォーマットT（時刻）で定義されたフィールドの編集マスクでは、次に示す文字を指定できます。

- 日付（フォーマットD）および時刻（フォーマットT）
- 日付文字の構文制限
- 入力編集マスクのヒント
- 出力編集マスクでの週表示（WW または ZW）のヒント

- 時刻（フォーマット T）
- 日付と時刻の編集マスクの例

日付（フォーマット D）および時刻（フォーマット T）

文字	使用方法
DD	日
ZD	日、ゼロ省略
MM	月
ZM	月、ゼロ省略
YYYY	年、4桁（「 入力編集マスクのヒント 」を参照）
YY	年、2桁（「 入力編集マスクのヒント 」を参照）
Y	年、1桁入力フィールドでは使用しないでください。
WW	週（「 入力編集マスクのヒント 」および「 出力編集マスクでの週表示のヒント 」を参照）
ZW	週、ゼロ省略（「 入力編集マスクのヒント 」および「 出力編集マスクでの週表示のヒント 」を参照）
JJJ	ユリウス日
ZZJ	ユリウス日、ゼロ省略
NN... または N(n)	曜日名（言語に依存）最大長は N の個数または n の値で決まります。名前が最大長より長い場合、切り捨てが発生します。短い場合には、実際の長さの名前が使用されます。
0	曜日番号プロファイルパラメータ DTFORM によって、週の開始が月曜日か日曜日かが決まります。DTFORM=U の場合：（日曜日 = 1、月曜日 = 2 など）DTFORM=other の場合：（月曜日 = 1、火曜日 = 2 など）
LL... または L(n)	月名（言語に依存）最大長は L の個数または n の値で決まります。名前が最大長より長い場合、切り捨てが発生します。短い場合には、実際の長さの名前が使用されます。
R	ローマ数字の年（最大 13 術）入力フィールドでは使用しないでください。

日付文字の構文制限

入力および出力編集マスクに対して、次のものを使用することはできません。

テキスト		文字
月	with	月名
曜日名	with	曜日番号
		MM または ZM
		NN または N(n)
		with
		LL または L(n)
		0

入力編集マスクに対して、次のものを使用することはできません。

テキスト			文字		
1桁年	nor	ローマ数字の年	Y	nor	R
日	without	月または月名	DD または ZD	without	MM または ZM または LL または L(n)
週	without	年	WW または ZW	without	YYYY または YY
月	without	年	MM または ZM	without	YYYY または YY
ユリウス日	without	年	JJJ または ZZJ	without	YYYY または YY
曜日名	without	週	NN または N(n)	without	WW または ZW
曜日番号	without	週	0	without	WW または ZW
ユリウス日	with	月	JJJ または ZZJ	with	MM または ZM
ユリウス日	with	週	JJJ または ZZJ	with	WW または ZW
月	with	週	MM または ZM	with	WW または ZW

入力編集マスクのヒント

有効な年の値 (YYYY) の範囲は 1582 - 2699 です。プロファイルパラメータ **MAXYEAR** を 9999 に設定した場合は、有効な年の値の範囲は 1582 - 9999 です。

入力編集マスクに年 (YY または YYYY) のみを指定し、月や日を指定しなかった場合、月と日の値は両方とも 01 に設定されます。入力編集マスクに年 (YY または YYYY) と月 (MM) のみを指定し、日を指定しなかった場合、日の値は 01 に設定されます。

2桁年 (YY) を使用する場合、年表記を満たすために使用される世紀は、デフォルトで現在の世紀になります。ただし、スライディングまたは固定ウィンドウが設定されているとき、これは適用されません。詳細については、『パラメータリファレンス』ドキュメントのプロファイルパラメータ **YSLW** を参照してください。

週番号 (WW または ZW) を曜日番号 (0) または曜日名 (NN...) なしで指定した場合、週の最初の曜日とみなされます。

出力編集マスクでの週表示 (WW または ZW) のヒント

DTFORM=U (USA 形式) が設定されている場合、週は日曜日から始まります。他のすべての DTFORM 設定については、最初の曜日は月曜日です。週が旧年の 52/53 週であるか、新年の 01 週であるかどうかは、年にその週を超える日が含まれているかに依存します。つまり、その週の木曜日 (DTFORM=U では水曜日) が前年にある場合、その週は前年に属します。翌年にある場合、その週は翌年に属します。

週番号 (WW または ZW) と年表記 (YYYY、YY、または Y) が同じ編集マスク内にある場合、年の表示は、基礎となる日付フィールドの年に関係なく、常に週番号に対応します。

例：

```
DEFINE DATA LOCAL
1 D (D)
END-DEFINE
MOVE EDITED '31-12-2003' TO D(EM=DD-MM-YYYY)
DISPLAY D(EM=DD-MM-YYYY_N(10)) D(EM=DD-MM-YYYY/WW)
END
```

週番号 WW が編集マスクに含まれている場合、基礎となる日付が 2003 年 12 月 31 日であっても、次のように表示されます。

D	D
-----	-----
31-12-2003_Wednesday	31-12-2004/01

時刻（フォーマット T）

文字	使用方法
T	10 分の 1 秒
SS	秒。
ZS	秒、ゼロ省略
II	分。
ZI	分、ゼロ省略
HH	時間。
ZH	時間、ゼロ省略
AP	AM/PM 要素

日付と時刻の編集マスクの例

```
** Example 'EMDATI': Edit mask for date and time variables
*****
*
WRITE NOTITLE
'DATE INTERNAL : *DATX (DF=L) /
'           : *DATX (EM=N(9)' 'ZW.'WEEK 'YYYY) /
'           : *DATX (EM=ZZJ'.DAY 'YYYY)      /
' ROMAN     : *DATX (EM=R)   /
' AMERICAN  : *DATX (EM=MM/DD/YYYY)      12X 'OR  ' *DAT4U /
' JULIAN    : *DATX (EM=YYYYJJJ)        15X 'OR  ' *DAT4J /
' GREGORIAN: *DATX (EM=ZD.''L(10)''YYYY) 5X 'OR  ' *DATG ///
*
'TIME INTERNAL : *TIMX                 14X 'OR  ' *TIME /
'           : *TIMX (EM=HH.II.SS.T) /
'           : *TIMX (EM=HH.II.SS' 'AP) /
```

```
'          : *TIMX (EM=HH)
END
```

プログラム EMDATI の出力：

```
DATE INTERNAL : 2005-01-12
          : Wednesday 2.WEEK 2005
          : 12.DAY 2005
ROMAN      : MMV
AMERICAN   : 01/12/2005      OR 01/12/2005
JULIAN     : 2005012        OR 2005012
GREGORIAN: 12.January2005    OR 12January 2005

TIME INTERNAL : 16:04:14      OR 16:04:14.8
          : 16.04.14.8
          : 04.04.14 PM
          : 16
```

論理フィールド（フォーマット L）の編集マスク

フォーマット L (論理フィールド) のフィールドに対しては、次のように編集マスクを定義できます。

(EM=[*false-string*/]*true-string*)

false-string は 31 文字を超えないようにする必要があります。

論理フィールドの編集マスクの例

```
** Example 'EMLOGV': Edit mask for logical variables
*****
DEFINE DATA LOCAL
1 #SWITCH (L) INIT <true>
1 #INDEX (I1)
END-DEFINE
*
FOR #INDEX 1 5
  WRITE NOTITLE #SWITCH (EM=FALSE/TRUE) 5X 'INDEX =' #INDEX
  WRITE NOTITLE #SWITCH (EM=OFF/ON)       7X 'INDEX =' #INDEX
  IF #SWITCH
    MOVE FALSE TO #SWITCH
  ELSE
    MOVE TRUE TO #SWITCH
  END-IF
/*
  SKIP 1
```

```
END-FOR  
END
```

プログラム EMLOGV の出力：

```
TRUE      INDEX =    1  
ON        INDEX =    1  
  
FALSE     INDEX =    2  
OFF       INDEX =    2  
  
TRUE      INDEX =    3  
ON        INDEX =    3  
  
FALSE     INDEX =    4  
OFF       INDEX =    4  
  
TRUE      INDEX =    5  
ON        INDEX =    5
```


69 EMFM - 編集マスクフリーモード

このNaturalプロファイルパラメータは、セッション開始時に編集マスクフリーモードを有効または無効にするために使用します。

可能な設定	ON	編集マスクフリーモードを有効にします。
	OFF	編集マスクフリーモードを無効にします。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	実行中のNaturalセッション内で、端末制御コマンド%FM+または%FM-を使用してこの設定を上書きできます。



注意:

- 編集マスクフリーモードでは、数値編集マスク付きのフィールドへの入力中、リテラルを省略することが可能です。
- 詳細については、『ステートメント』ドキュメントの INPUTステートメントの「数値編集マスクフリーモード」を参照してください。

70 EMU - Unicode 編集マスク

このセッションパラメータでは、適用可能なステートメントの次の表に示されているいづれかのステートメントで使用される入力／出力フィールドに、Unicode 編集マスクを指定できます。

可能な設定	セッションパラメータ EMU の構文は、セッションパラメータ EM の構文と同一です（「 EM パラメータの構文 」を参照）。	
注意: 『プログラミングガイド』の「Unicode 編集マスク - EMU パラメータ」も参照してください。		
デフォルト設定	なし	
適用可能なステートメント	DEFINE DATA DISPLAY INPUT PRINT WRITE MOVE EDITED PROCESS PAGE	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド	なし	



注意:

- EMU で定義された編集マスクは Unicode フォーマットで保持され、その内容は、インストールされているシステムコードページとは関係なくなります。
- 詳細および例については、「Natural プログラミング言語での Unicode およびコードページのサポート」の「セッションパラメータ」でセクション「EMU、ICU、LCU、TCU と EM、IC、LC、TC の比較」も参照してください。

71 ENDIAN - コンパイルオブジェクトのエンディアンモード

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、コンパイラで GP を生成する際のアーキテクチャを指定します。『プログラミングガイド』の「ポータブルNatural 生成プログラム」も参照してください。

可能な設定	DEFAULT	エンディアンモードは、現在使用されているアーキテクチャから派生します。
	LITTLE	コンパイラでは、リトルエンディアンモードの GP が生成されます。
	BIG	コンパイラでは、ビッグエンディアンモードの GP が生成されます。
デフォルト設定	DEFAULT	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	なし	
適用可能なコマンド	GLOBALS	



注意: Natural セッション内で、プロファイルパラメータ設定をセッションパラメータ ENDIAN で上書きできます。

72 ENDMMSG - セッション終了メッセージの表示

デフォルトでは、Naturalセッションが正常終了したことを示すメッセージNAT9995がNaturalセッション終了時に表示されます。このNaturalプロファイルパラメータでは、このメッセージの表示を抑制できます。

可能な設定	ON	セッションの終了時に、メッセージNAT9995、NAT9978、またはNAT9987がバッチ出力ファイル CMPPRINT に書き込まれます。
	OFF	メッセージNAT9995、NAT9978、またはNAT9987は CMPPRINT には出力されません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>	



注意:

1. Naturalが起動時エラーで終了した場合、NaturalメッセージNAT9987がNAT9995の代わりに使用されます。
2. Naturalがランタイムエラーで終了した場合、NaturalメッセージNAT9978がNAT9995の代わりに使用されます。

73 ES・空行省略

このセッションパラメータでは、DISPLAY または WRITE ステートメントで生成された空行の出力を省略できます。

可能な設定	ON	DISPLAY または WRITE ステートメントの結果、1行の内容がすべて空白値の場合は出力されません。 注意: この設定は、配列（例えば、マルチプルバリューフィールドやピリオディックグループ内のフィールド）の出力時に空行が多数出力されないようにするために特に役立ちます。
	OFF	空行の省略は無効です。
デフォルト設定	OFF	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	FORMAT	
	DISPLAY WRITE	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド	なし	



注意:

- 数値に対しても空行の省略を行うには、ZP=OFF および ES=ON を指定し、空値を空白として出力するようにしておく必要があります。セッションパラメータ IS および ZP も参照してください。
- 『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

例：

```
DISPLAY (ES=ON) NAME CITY
```

74

ESCAPE - 端末コマンド %% および %. の無効化

この Natural プロファイルパラメータは、端末コマンド %% および %. を無効にするために使用します。

可能な設定	ON	端末コマンド %% および %. の使用を有効にします。
	OFF	端末コマンド %% および %. は無視されます。つまり、%% または %. を入力して、現在アクティブな Natural プログラムまたは Natural セッションから抜けることはできません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	✗	

75 ESXDB - Entire System Server DDM に使用されるデータベース ID

この Natural プロファイルパラメータは、Entire System Server の DDM に使用されるデータベース ID を指定します。

可能な設定	1 - 254	データベース ID。このパラメータを有効にするには、1~254 の範囲内のデータベース ID を指定する必要があります。
	0	ESXDB=0 を指定した場合、Entire System Server インターフェイスは有効なりません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	



注意:

1. この Natural プロファイルパラメータは、Entire System Server インターフェイスに適用されます。
2. Entire System Server の DDM は DBID=148 でカタログされます。この DBID で Adabas データベースを使用する場合、ESXDB に異なる番号を指定してください。この方法については、『オペレーション』ドキュメントの「Entire System Server インターフェイスの設定」を参照してください。

76 ET - END/BACKOUT TRANSACTION ステートメントの実行

この Natural プロファイルパラメータでは、データベースに対する END TRANSACTION および BACKOUT TRANSACTION ステートメントの実行を制御します。

可能な設定	ON	END TRANSACTION および BACKOUT TRANSACTION ステートメントは、Natural セッションの開始以降、または END TRANSACTION および BACKOUT TRANSACTION ステートメントの最後の実行以降に参照されたすべてのデータベースに対して実行されます。
	OFF	END TRANSACTION および BACKOUT TRANSACTION ステートメントは、トランザクションによる影響を受けたデータベースに対して（および該当する場合はトランザクションデータが書き込まれるデータベースに対して）のみ実行されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	×	

-  **注意:** Natural の制御下で実行されていないデータベースに対する更新（つまり、データベースリンクルーチンのネイティブな呼び出しによる更新）は、Natural トランザクションロジックには影響しません。

77 ETA・エラートランザクションプログラム

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural プログラムの実行時にエラー条件が検出された場合、制御を受け取るプログラムの名前を指定します。

可能な設定	1~8 文字	エラートランザクション用のプログラム名。
	' '' (空白)	ETA=' ' を指定した場合、エラートランザクションプログラムは呼び出されません。
デフォルト設定	' '' (空白)	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1041N	USR1041Nはソース形式で提供されているサンプルのエラートランザクションプログラムです。『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

1. このパラメータの設定は、システム変数 *ERROR-TA への割り当てによってユーザープログラムで変更できます。また、Natural Security がインストールされている場合は、Natural Security ライブラリプロファイル内で変更できます。『Natural Security』ドキュメントの「Components of a File Profile」を参照してください。
2. 詳細については、『プログラミングガイド』の「エラートランザクションプログラムの使用」を参照してください。

78

ETDB - トランザクションデータのデータベース

このNaturalプロファイルパラメータでは、END TRANSACTIONステートメントで指定されたトランザクションデータを保存するデータベースを指定します。

可能な設定	1 - 65535 (255以外)	データベース ID。 注意: データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています。プロファイルパラメータ LFILE を参照してください。
デフォルト設定	0	トランザクションデータは、プロファイルパラメータ UDB で指定されたデータベースに書き込まれます。
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

その他のトランザクション処理に関するパラメータは以下のとおりです。 [ET](#) | [ETEOP](#) | [ETIO](#)

79 ETEOP・プログラム終了時の END TRANSACTION の発行

このNaturalプロファイルパラメータでは、Naturalプログラムの終了時（つまり、NEXTモードになる前）に、暗黙的なEND TRANSACTIONステートメントを発行するかどうかを決定します。

可能な設定	ON	Naturalは、Naturalプログラムの終了時に暗黙的なEND TRANSACTIONステートメントを発行します。
	OFF	Naturalは、Naturalプログラムの終了時に暗黙的なEND TRANSACTIONステートメントを発行しません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

80 ETID - Adabas ユーザー ID

この Natural プロファイルパラメータは、Adabas 関連の情報の ID として使用されます（例えば、END TRANSACTION ステートメントの結果として保存されるデータの ID）。

可能な設定	1~8 文字	この設定は、Adabas オープンコールのユーザー ID 設定として使用されます。 注意: Adabas ユーザー ID には独自の構文があります。ETID の設定に特殊文字を使用する場合は、『Adabas コマンドリファレンスマニュアル』を参照してください。
	OFF	ETID は '' (空白) に設定されますが、Natural Security では ETID を設定できます。
	'' (空白)	ETID は '' (空白) に設定されます。この値は、Natural Security によって変更されることなく、オープンコール時に Adabas に渡されます。
	\$\$	ETID はプロセス ID で置き換えられます。
デフォルト設定	'' (空白)	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意:

- ETID が NATPARM にもダイナミックにも指定されない場合、Natural は ETID を満たすために *INIT-USER の設定を使用します。
- Natural の実行前に、UNIX シェルによって \$\$ がシェルプロセスのプロセス ID で置き換えられます。ただし、ETID が NATPARM で指定されている場合、\$\$ は Natural の起動時に評価されます。
- ETID は、Natural でワークファイル名を生成するために使用されることもあります。ETID の設定に特殊文字が使用されている場合、1台のマシンでまたは再度複数のインスタンスを実行

するときに、問題が発生することがあります。解決方法については、Natural パラメータ
[TMPSORTUNIQ](#) を参照してください。

81 ETIO - 端末 I/O 時の END TRANSACTION の発行

この Natural プロファイルパラメータでは、端末 I/O 時に暗黙的な END TRANSACTION ステートメントを発行するかどうかを決定します。

可能な設定	ON	Natural は、端末 I/O が発生するたびに暗黙的な END TRANSACTION ステートメントを発行します。 注意: Natural アドオン製品（Natural Security を除く）は、ETIO=ON では正しく機能しないことがあります。
	OFF	Natural は、端末 I/O 時に暗黙的な END TRANSACTION ステートメントを発行しません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

82 FC - INPUT ステートメントの充填文字

このNatural プロファイルパラメータでは、INPUT ステートメントで出力されるフィールドに使用するデフォルトの充填文字を指定します。

可能な設定	任意の文字	デフォルトの充填文字。
デフォルト設定	空白	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意:

- フィールドが INPUT ステートメントで端末に書き出されるとき、デフォルトの充填文字が、保護されていない入力フィールド（フィールド属性指定が AD=A）に前もって埋める値として使用されます。
- 変更可能な入力フィールド（フィールド属性指定が AD=M）については、フィールド値の残りを埋めるために使用されます。

83 FC - DISPLAY ステートメントの充填文字

このセッションパラメータでは、DISPLAY ステートメントで列幅全体に出力されるヘッダーの両側を埋める充填文字を指定します。

可能な設定	任意の文字	個々のヘッダーの充填文字。
デフォルト設定	空白	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	
適用可能なステートメント	DISPLAY FORMAT	
適用可能なコマンド	なし	



注意:

- FC は、列幅がヘッダー長ではなくフィールド長で決まる場合にのみ適用されます（セッションパラメータ [HW](#) も参照）。そうでない場合、FC 設定は無視されます。
- 列グループにわたるヘッダーに適用される [GC](#) パラメータとは異なり、FC パラメータは個々の列に適用されます。

例：

```
DISPLAY (FC=*)
```


84 FCDP-ダイナミックに保護された入力フィールドの充填文字

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータは、ダイナミックに書き込み保護された入力フィールド（つまり、属性制御変数により属性 `AD=P` が割り当てられた入力フィールド）の充填文字出力を抑制するために使用します。

可能な設定	ON	ダイナミックに保護された入力フィールドは、充填文字で埋められて出力されます。これにより、フィールドに何かを入力できることをユーザーに示すことができます。
	OFF	ダイナミックに保護された入力フィールドは、空白で埋められて出力されます。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	SET GLOBALS	
適用可能なコマンド	Globals	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

1. FCDPパラメータの設定に応じて、ダイナミックに保護された入力フィールドは、空白または定義された充填文字で埋められて出力されます。
2. Naturalセッション内で、プロファイルパラメータ FCDP をセッションパラメータ FCDP で上書きできます。

FCDP - ダイナミックに保護された入力フィールドの充填文字

例：

```
DEFINE DATA LOCAL
 1 #FIELD1 (A5)
 1 #FIELD2 (A5)
 1 #CVAR1  (C) INIT <(AD=P)>
 1 #CVAR2  (C)
END-DEFINE
*
INPUT #FIELD1 (AD=Y'__' CV=#CVAR1) /* field is protected
      #FIELD2 (AD=Y'__' CV=#CVAR2) /* field is not protected
...
END
```

上記のプログラムを実行すると、次のように出力されます。

FCDP=ON :

#FIELD1 ____ #FIELD2 ____

FCDP=OFF :

#FIELD1 #FIELD2 ____

85 FDDM - DDM 用の Natural システムファイル

この Natural プロファイルパラメータは、DDM 用の Natural システムファイルに対する 5 つのサブパラメータを指定するために使用します。

可能な設定	「 FDDM パラメータの構文 」を参照してください。	
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>	



注意:

- このシステムファイルが定義されている場合、すべての DDM が指定されたパスに保存されます。ライブラリに格納された DDM は、Natural からアクセスできません。これは、すべての DDM がシステムファイル FDIC に保存されるメインフレームの Natural に類似しています。
- FDDM システムファイルが未定義 (*database-ID* および *file-number=0*) の場合、以前と同様に DDM はライブラリに保存されます。システムファイル FDDM は非アクティブな環境として表示されます。
- システムファイルの詳細については、次を参照してください。Natural の『オペレーション』ドキュメントの「システムファイル」

FDDM パラメータの構文

パラメータの構文は、次のとおりです。

FDDM=(<i>database-ID</i> , <i>file-number</i> , <i>password</i> , <i>cipher-key</i> ,RO)

上記の意味は次に示すとおりです。

構文要素	値	説明
<i>database-ID</i>	1 - 65535	DDM 用の Natural システムファイルが存在するデータベースのデータベース識別子。 注意: データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています。Natural プロファイルパラメータ LFILE を参照してください。
<i>file-number</i>	1 - 5000	DDM 用の Natural システムファイルが存在するデータベースファイルのファイル番号。
<i>password</i>	1~8 文字	Natural ユーザープログラムのシステムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用してパスワード保護されている場合、パスワードのみ必要となります。 注意: パスワードは今後利用するために予約されています。現在は無視されます。
<i>cipher-key</i>	1~8 の数字	Natural ユーザープログラムのシステムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用して暗号化されている場合、サイファキーのみ必要となります。 注意: サイファキーは今後利用するために予約されています。現在は無視されます。
RO	-	Natural ユーザープログラムのシステムファイルが「読み取り専用」で、ファイルが変更不可にされる場合にのみ指定できることを示します。

例：

FDDM=(22,5)
FDDM=(22,5,,12345)
FDDM=(22,5,,,RO)

86 FDIC - Predict システムファイル

このNatural プロファイルパラメータは、Predict がデータの取得や保存に使用する Predict システムファイル (FDIC) のデータベース ID、ファイル番号、パスワード、およびサイフケーを定義します。

可能な設定	「 FDIC パラメータの構文 」を参照してください。	
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>	



注意:

- リモート開発環境では、Development Server File (開発サーバーファイル) が代わりに使用されます。『SPoD - Natural's Single Point of Development』および『Natural Development Server』ドキュメントを参照してください。
- システムファイルの詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「システムファイル」を参照してください。

FDIC パラメータの構文

パラメータの構文は、次のとおりです。

```
FDIC=(database-ID,file-number,password,cipher-key,RO)
```

上記の意味は次に示すとおりです。

構文要素	値	説明
database-ID	1 - 65535 (255 以外)	Predict システムファイルが存在するデータベースのデータベース識別子。 注意: <ol style="list-style-type: none"> データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています。Natural プロファイルパラメータ LFILE を参照してください。 FDIC を利用できない場合、[DBID] フィールドには何も入力しないでください。
file-number	1 - 5000	Predict システムファイルが存在するデータベースファイルのファイル番号。 注意: FDIC を利用できない場合、[DBID] フィールドには何も入力しないでください。
password	1~8 文字	Predict システムファイル用のパスワード。 注意: <ol style="list-style-type: none"> Predict システムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用してパスワード保護されている場合、パスワードのみ必要となります。 パスワード機能は今後利用するために予約されています。現在は無視されます。
cipher-key	1~8 の数字	Predict システムファイル用のサイファキー。 注意: <ol style="list-style-type: none"> Predict システムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用して暗号化されている場合、サイファキーのみ必要となります。 サイファキー機能は今後利用するために予約されています。現在は無視されます。
RO	-	読み取り専用オプション-このプラットフォームではサポートされません。

例：

```
FDIC=(10,5,PASSW1,12345678)
FDIC=(1,200,,12345678)
FDIC=(1,5)
FDIC=(,5)
```

87 FL - 浮動小数点数の仮数部長

このセッションパラメータでは、入出力時の浮動小数点変数の仮数部の長さを指定します。

可能な設定	1 - 16	仮数部の長さ。 注意: 全体の長さは、符号、指数、および10進の文字に対して FL + 6 です。
デフォルト設定	なし	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	DISPLAY FORMAT INPUT PRINT WRITE	
適用可能なコマンド	なし	

例：

```
DISPLAY FL=5      ->      +1.2345E+03
```


88 FNAT - システムプログラム用の Natural システム ファイル

この Natural プロファイルパラメータは、Natural システムプログラム (FNAT) 用の Natural システムファイルにデータベース ID、ファイル番号、パスワード、サイファキー、および読み取り専用フラグを指定します。

可能な設定	「 FNAT パラメータの構文 」を参照してください。	
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>	



注意:

1. Natural システムファイルは、すべての Natural システムプログラムが取得され、すべてのシステムコマンドが機能するファイルです。このシステムファイルには、Natural システムライブラリに関連するエラーテキストや Natural ヘルプ情報も保存されています。
2. システムファイルの詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「システムファイル」を参照してください。

FNAT パラメータの構文

パラメータの構文は、次のとおりです。

FNAT=(<i>database-ID</i> , <i>file-number</i> , <i>password</i> , <i>cipher-key</i> , <i>RO</i>)
--

上記の意味は次に示すとおりです。

構文要素	値	説明
<i>database-ID</i>	1-254	Natural システムファイルが存在するデータベースのデータベース識別子。 注意: データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています。Natural プロファイルパラメータ LFILE を参照してください。
<i>file-number</i>	1 - 255	Natural システムファイルが存在するデータベースファイルのファイル番号。
<i>password</i>	1~8 文字	Natural システムファイルのパスワード。 注意: <ol style="list-style-type: none"> 1. Natural システムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用してパスワード保護されている場合、パスワードのみ必要となります。 2. パスワード機能は今後利用するために予約されています。現在は無視されます。
<i>cipher-key</i>	1~8 の数字	Natural システムファイルのサイファキー。 注意: <ol style="list-style-type: none"> 1. Natural システムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用して暗号化されている場合、サイファキーのみ必要となります。 2. サイファキー機能は今後利用するために予約されています。現在は無視されます。
<i>RO</i>	-	読み取り専用オプション。 注意: <ol style="list-style-type: none"> 1. RO は、Natural システムファイルが「読み取り専用」であることを示します。 2. RO は、ファイルを変更不可にする場合にのみ指定します。

例：

```
FNAT=(,102)
FNAT=(99,102,,,R0)
FNAT=(99,102,PASSW2)
```


89 FREEGDA - ユーティリティモードでの GDA の解放

この Natural プロファイルパラメータでは、ユーティリティがユーティリティモード（『ユーティリティ』ドキュメントの「ユーティリティのアクティブ化」を参照）で起動される（ユーティリティの名前に対応するダイレクトコマンドを使用）とき、現在のユーザーグローバルデータエリア (GDA) およびアプリケーション独立変数 (AIV) をリセットするかどうかを制御します。

可能な設定	ON	現在のユーザー GDA および AIV 変数は、ユーティリティが起動される前にリセットされます。 注意: この動作は、ユーティリティがシステムコマンド <code>LOGON library-name</code> を使用して起動されたときの以前の状況に対応しています。
	OFF	ユーティリティが起動されるとき、現在のユーザー GDA および AIV 変数は保持されます。 注意: これに対応してデータサイズが増加し、特定のオペレーティングシステム環境ではスレッドの問題を引き起こす可能性があります。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

90 FS・ユーザー一定義変数のデフォルトフォーマット ／長さの設定

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、レポートモードでのユーザー一定義変数の定義に対してデフォルトフォーマット／長さの設定を有効にするかどうかを決定します。

 **注意:** 『プログラミングガイド』の「ユーザー一定義変数のフォーマットおよび長さ」も参照してください。

可能な設定	ON	Natural では、レポートモードで新しく導入された変数にデフォルトフォーマット／長さは割り当てられません。 注意: ユーザ一定義変数にはすべてフォーマット／長さを明示的に指定する必要があります。
	OFF	Natural プログラムでフォーマット／長さの指定がないユーザー一定義変数に、デフォルトフォーマット／長さ N7 が割り当てられます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	SET GLOBALS	
適用可能なコマンド	GLOBALS	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

 **注意:**

1. この Natural プロファイルおよびセッションパラメータは、レポートモードにのみ適用されます。ストラクチャードモードには無効です。
2. Natural セッション内で、プロファイルパラメータ FS をセッションパラメータ FS で上書きできます。
3. Natural Security では、このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書きできます。

91 FSEC - Natural Security システムファイル

この Natural プロファイルパラメータは、Natural Security がデータの取得や保存に使用する Natural Security システムファイル (FSEC) のデータベース ID、ファイル番号、パスワード、および暗号キーを定義します。

可能な設定	「 FSEC パラメータの構文 」を参照してください。	
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意:

1. この Natural プロファイルパラメータは、Natural Security が使用されている場合にのみ適用されます。
2. システムファイルの詳細については、『オペレーション』ドキュメントの「システムファイル」を参照してください。

FSEC パラメータの構文

FSEC パラメータの構文は、次のとおりです。

```
FSEC=(database-ID,file-number,password,cipher-key,RO)
```

上記の意味は次に示すとおりです。

構文要素	値	説明
<i>database-ID</i>	1-65535 (255 以外)	Natural Security システムファイルが存在するデータベースのデータベース識別子。 注意: <ol style="list-style-type: none"> データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています。Natural プロファイルパラメータ LFILE を参照してください。 FSEC システムファイルを利用できない場合、ファイル番号フィールドには何も入力しないでください。
<i>file-number</i>	1-5000	Natural Security システムファイルが存在するデータベースファイルのファイル番号。 注意: FSEC システムファイルを利用できない場合、ファイル番号フィールドには何も入力しないでください。
<i>password</i>	1~8 文字	Natural Security システムファイルのパスワード。 注意: <ol style="list-style-type: none"> Natural Security システムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用してパスワード保護されている場合、パスワードのみ必要となります。 パスワード機能は今後利用するために予約されています。現在は無視されます。
<i>cipher-key</i>	1~8 の数字	Natural Security システムファイルのサイファキー。
RO	-	読み取り専用オプション。 注意: RO オプションは、このプラットフォームではサポートされていません。

例：

```
FSEC=(10,8)
FSEC=10,5,PASSW1,12345678
FSEC=1,200,,12345678
```

92 FUSER・ユーザープログラム用の Natural システム ファイル

この Natural プロファイルパラメータは、Natural ユーザープログラムのシステムファイル (FUSER) に、データベース ID、ファイル番号、パスワード、およびサイファキーを指定するために使用します。

可能な設定	「 FUSER パラメータの構文 」を参照してください。	
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意:

1. Natural ユーザープログラムのシステムファイル (FUSER) は、すべてのユーザー作成 Natural プログラムが取得されるデータベースファイルです。
2. システムファイルの詳細については、次を参照してください。『オペレーション』ドキュメントの「システムファイル」

FUSER パラメータの構文

FUSER パラメータの構文は、次のとおりです。

```
FUSER=(database-ID,file-number,password,cipher-key,RO)
```

上記の意味は次に示すとおりです。

構文要素	値	説明
<i>database-ID</i>	1-254	<p>Natural ユーザープログラムのシステムファイルが存在するデータベースのデータベース識別子。</p> <p>注意: データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています。Natural プロファイルパラメータ LFILE を参照してください。</p>
<i>file-number</i>	1-255	<p>Natural ユーザープログラムのシステムファイルが存在するデータベースファイルのファイル番号。</p>
<i>password</i>	1~8 文字	<p>Natural ユーザープログラムのシステムファイルのパスワード。</p> <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Natural ユーザープログラムのシステムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用してパスワード保護されている場合、パスワードのみ必要となります。 2. パスワード機能は今後利用するために予約されています。現在は無視されます。
<i>cipher-key</i>	1~8桁 の数字	<p>Natural ユーザープログラムのシステムファイル用のサイファキー。</p> <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Natural ユーザープログラムのシステムファイルが Adabas セキュリティ機能を使用して暗号化されている場合、サイファキーのみ必要となります。 2. サイファキー機能は今後利用するために予約されています。現在は無視されます。
R0	-	<p>読み取り専用オプション。</p> <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. R0 は、Natural ユーザープログラムのシステムファイルが「読み取り専用」であることを示します。 2. R0 は、Natural ユーザープログラムのシステムファイルが変更不可にされる場合にのみ指定されます。

例：

```
FUSER=(22,5)
FUSER=(22,5,,,R0)
FUSER=(22,5,PASSW2)
```


93 GC - グループヘッダーの充填文字

このセッションパラメータでは、DISPLAYステートメントで対象のグループに属す全フィールド列にわたって出力されるグループヘッダーの両側を埋める充填文字を指定します。

可能な設定	任意の文字	グループヘッダーの充填文字。
デフォルト設定	空白	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	
適用可能なステートメント	DISPLAY FORMAT	
適用可能なコマンド	なし	



注意: 個々の列に適用される FC パラメータとは異なり、GC パラメータは列グループにわたるヘッダーに適用されます。

例：

```
DISPLAY (GC=*)
```


94 GFID - グローバルフォーマット ID

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、フォーマットバッファ変換の再利用に関するAdabasのパフォーマンスに影響するように、グローバルフォーマットIDのNatural内部生成を制御します。

可能な設定	ON	グローバルフォーマットIDがすべてのビューに対して生成されます。
	OFF	グローバルフォーマットIDは生成されません。
	VID	グローバルフォーマットIDが、ローカル／グローバルデータエリアのビューに対してのみ生成されます。プログラム内で定義されたビューに対しては生成されません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	
適用可能なステートメント	OPTIONS	
適用可能なコマンド：	COMPOPT の GFID オプション。	



注意: グローバルフォーマットIDの詳細については、Adabasのドキュメントを参照してください。

95 GPGEN - GP 情報の生成

■ GPGEN パラメータの構文	226
■ GPGEN パラメータの例	227

このプロファイルパラメータは、アプリケーションのデバッグまたはプロファイリング時、またはコードカバレッジ機能の利用時に使用される GP 情報の生成を有効または無効にします。

可能な設定	「 GPGEN パラメータの構文 」を参照してください。	
デフォルト設定	なし	「 GPGEN パラメータの構文 」のサブパラメータのデフォルト設定を参照してください。
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>	

GPGEN パラメータの構文

GPGEN パラメータは次のように指定します。

```
GPGEN={(subparameter=value[,subparameter=value]...)}
```

⚠ 重要: この構文では、空白は使用できません。コンマを使用して、構文要素を分けてください。

上記の意味は次に示すとおりです。

サブパラメータ	値	説明
DEBUGGER	DEBUGGER= <i>value</i>	<i>value</i> は、デバッガの GP 情報を生成するかどうかを決定します。 デフォルト値：OFF
	ON	デバッガの GP 情報が生成されます。
	OFF	デバッガの GP 情報は生成されません。
PROFILER	PROFILER= <i>value</i>	<i>value</i> は Natural Profiler の GP 情報を生成するかどうかを決定します。 デフォルト値：OFF
	ON	Profiler の GP 情報が生成されます。
	OFF	Profiler の GP 情報は生成されません。
COVERAGE	COVERAGE= <i>value</i>	<i>value</i> は、 コードカバレッジ の GP 情報を生成するかどうかを決定します。 デフォルト値：OFF
	ON	コードカバレッジの GP 情報が生成されます。
	OFF	コードカバレッジの GP 情報は生成されません。

GPGEN パラメータの例

```
GPGEN=(DEBUGGER=ON,PROFILER=ON,COVERAGE=ON)
```


96 HC - ヘッダーの中央揃え

このセッションパラメータでは、列ヘッダーの配置を決定します。

可能な設定	C	ヘッダーは中央揃えで表示されます。
	L	ヘッダーは左揃えで表示されます。
	R	ヘッダーは右揃えで表示されます。
デフォルト設定	C	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	DISPLAY FORMAT	
適用可能なコマンド	なし	

例：

```
DISPLAY (HC=L)
```


97 HD - ヘッダー定義

このセッションパラメータでは、次の場合に使用するデフォルトのテキストを定義します。

- フィールドが DISPLAY ステートメントで出力される場合
- WRITE または INPUT ステートメント内のフィールドの直前に等号 (=) が配置されている場合

可能な設定	'text'	最大 120 文字の英数字または Unicode 文字。
デフォルト設定	なし	
適用可能なステートメント	DEFINE DATA	パラメータはフィールドレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド	なし	

98 HE・ヘルプルーチン

■ HE パラメータの構文	234
■ ヘルプルーチンの実行	236
■ 例	236

このセッションパラメータでは、フィールドにヘルプルーチンまたはヘルプマップを割り当てます。

可能な設定		下記の「 HE パラメータの構文 」を参照してください。
デフォルト設定	なし	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	INPUT	
適用可能なコマンド	なし	

ヘルプルーチンは Natural プログラムエディタで作成し、ヘルプマップは Natural マップエディタで作成できます。

その後、ヘルプルーチンまたはヘルプマップは、次のいずれかの方法を使用して、 INPUT ステートメントまたはマップの処理中に呼び出すことができます。

- ヘルプ要求を呼び出すフィールドで、フィールドの左端の位置にヘルプ文字を入力し、 ENTER キーを押します。デフォルトのヘルプ文字は疑問符 (?) です。

フィールドの別の位置にヘルプ文字を入力した場合、または複数の文字を入力した場合、その文字列はユーザー入力として使用され、ヘルプは呼び出されません。フィールドに 16 進数のゼロが含まれている場合、Natural が値をヘル普リクエストとして解釈できるかどうかは、端末エミュレーションによって異なります。

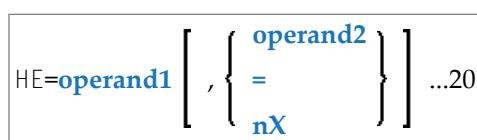
- または：

ヘルプ要求を呼び出すフィールドにカーソルを置き、 SET KEY ステートメントでヘルプファンクションキーとして定義されている PF キーを押します。

以下では次のトピックについて説明します。

HE パラメータの構文

このパラメータの構文は次のとおりです。



オペランド定義テーブル：

オペランド	構文要素	フォーマット										オペランド参照	ダイナミック定義
operand1	C S	A										×	×
operand2	C S A	A U N P I F B D T L C O										×	×

構文要素の説明：

構文要素	説明
operand1	operand1 は、呼び出すヘルプルーチンまたはヘルプマップの名前です。名前には、1~8 文字の英数字定数またはユーザー定義変数を使用できます。変数を使用する場合、事前にこれを定義しておく必要があります。名前にはアンパサンド (&) を含めることができます。この文字は、実行時に Natural システム変数 *LANGUAGE の現在の値に対応する 1 文字コードで置き換えられます。この機能により、複数言語のヘルプルーチンまたはヘルプマップを使用できるようになります。
operand2	ヘルプルーチンまたはヘルプマップに渡される 1 ~ 20 のパラメータ (operand2) を指定できます。これらのパラメータは、定数として指定することも、パラメータ値を含むユーザー定義変数として指定することもできます。
=	等号 (=) は、オブジェクト名またはフィールド名をヘルプルーチンまたはヘルプマップに渡すために使用します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ステートメントレベルで HE= 指定に等号を入力した場合、実行対象のオブジェクト（システム変数 *PROGRAM に含まれる）の名前がヘルプルーチンまたはヘルプマップに渡されます。例 3 では、渡されるオブジェクト名は PROGRAM1 です。 ■ フィールドレベルで HE= 指定に等号を入力した場合、フィールドの名前がヘルプルーチンまたはヘルプマップに渡されます。例 3 では、渡されるフィールド名は #PARM1 です。 等号をパラメータとして使用する場合、ヘルプルーチンまたはヘルプマップ内の対応するパラメータをフォーマット／長さ A65 で指定する必要があります。
nX	表記 nX は、省略する（つまり、値が渡されない）パラメータを指定するために使用できます。呼び出されたヘルプルーチンの DEFINE DATA PARAMETER ステートメント内の対応する受け取り側パラメータは、OPTIONAL として定義する必要があります。



注意:

- オペランドは、入力デリミタ文字（セッションパラメータ ID で指定）またはコンマで区切る必要があります。ただし、セッションパラメータ DC でコンマを小数点文字として定義している場合は、この目的でコンマを使用することはできません。
- パラメータ指定がある場合、ヘルプルーチンは DEFINE DATA PARAMETER ステートメントで始める必要があります。このステートメントでは、パラメータと同じフォーマットと長さのフィールドを定義します。
- ヘルプルーチンが指定されたフィールドの値をヘルプルーチン内で参照できます。その場合、元のフィールドと同じフォーマットと長さのフィールドを DEFINE DATA PARAMETER ステートメントで指定します。DEFINE DATA PARAMETER ステートメント内で定義されたフィールドのブロックで、このフィールドは必ずパラメータ（存在する場合）の後に定義する必要があります。

4. ヘルプルーチンが指定されたフィールドが配列要素である場合、そのインデックスをヘルプルーチンで参照できます。そのためには、DEFINE DATA PARAMETER ステートメントの最後にフォーマット I (整数)、N (アンパック型数値)、または P (パック型数値) でインデックスパラメータを指定します。配列の次元に応じて、最大 3 つのインデックスパラメータを指定できます。

ヘルプルーチンの実行

フィールドに疑問符 (?) を入力するか、ヘルプキー (SET KEY ステートメントで定義) を押すか、または REINPUT USING HELP ステートメントを使用することでヘルプルーチンまたはヘルプマップを要求した場合、フィールドに入力した他のすべてのデータは、ヘルプ要求がすべて処理されるまでプログラム変数には割り当てられません。

 **注意:** 1 つの INPUT ステートメントでは 1 つのヘルプ要求のみが可能です。つまり、ヘルプが複数のフィールドで要求された場合 (例えば、複数のフィールドに疑問符を入力)、最初のヘルプ要求のみが実行されます。

例

例 1

```
/* MAIN PROGRAM
DEFINE DATA
1 #A(A20/1:3)
END-DEFINE
...
SET KEY PF1=HELP
...
INPUT #A (2) (HE='HELPA',=)
...
END
```

例 2

```
/* HELP-ROUTINE 'HELPA'
DEFINE DATA PARAMETER
1 #VARNAME  (A65)
1 #PARM1     (A20)
1 #VARINDEX  (I2)
END-DEFINE
...
```

例3：

```
* Program 'PROGRAM1'
*
DEFINE DATA LOCAL
1 #PARM1 (A65) INIT <'valueparm1'>
END-DEFINE
SET KEY PF1 = HELP
FORMAT KD=ON
*
INPUT (AD=M HE='HELP1',=)
  'Enter ? for name of executed object:'
  / #PARM1
*
INPUT (AD=M)
  'Enter ? for field name:'
  / #PARM1 (HE='HELP1',=)
*
END
```

サンプルヘルプルーチン HELP1 内のパラメータデータエリア：

```
* Helproutine 'HELP1'
*
DEFINE DATA PARAMETER
1 #FLD1 (A65)
END-DEFINE
...
```


99 HI - ヘルプ文字

このNaturalプロファイルパラメータでは、フィールド固有のヘルプルーチンまたはマップヘルプルーチン（特定のマップに定義されている場合）の呼び出しに使用する文字を定義します。

可能な設定	任意の特殊文字	フィールド固有のヘルプルーチンまたはマップヘルプルーチンの呼び出しに使用する文字。 注意: <ol style="list-style-type: none">プロファイルパラメータ HI で指定された文字は、プロファイル／セッションパラメータ CF（メインフレーム端末コマンドの制御文字）で指定された文字と同じにすることはできません。プロファイル／セッションパラメータ DC（小数点文字）、プロファイル／セッションパラメータ IA（入力割り当て文字）またはプロファイル／セッションパラメータ ID（入力デリミタ文字）で指定した文字と異なる文字にする必要があります。
	空白	注意: HI=' ' を設定する場合は、Natural アプリケーションで SETKEY ステートメントを使用してヘルプキーを定義する必要があります。そうしないと、どのフィールドのヘルプルーチンも呼び出すことはできません。
デフォルト設定	?	疑問符。
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR0350N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

100 HW - ヘッダー幅

このセッションパラメータでは、DISPLAY ステートメントでの列出力の幅を決定します。

可能な設定	ON	DISPLAY 列の幅は、ヘッダーテキストの長さまたはフィールドの長さのどちらか長いほうによって決定されます。 注意: この規則は、DISPLAY ステートメントにキーワード NOHDR が含まれている場合、または DISPLAY ステートメントが 2 番目以降の DISPLAY であるために、ヘッダーテキストが出力されない場合にも適用されます (DISPLAY ステートメントも参照)。
	OFF	DISPLAY 列の幅は、フィールドの長さによって決定されます。 注意: HW=OFF は、ヘッダーを作成しない DISPLAY ステートメント (つまり、NOHDR オプションが指定された最初の DISPLAY ステートメント、または 2 番目以降の DISPLAY ステートメント) にのみ適用されます。
デフォルト設定	ON	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	DISPLAY FORMAT	
適用可能なコマンド	なし	

例：

```
DISPLAY (HW=OFF)
```

101 IA - INPUT 割り当て文字

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、INPUTステートメント（キーワード／デリミタモード、またはNaturalスタックからデータを処理する場合）で入力パラメータ処理の割り当て文字として使用する文字を定義します。

可能な設定	任意の特殊文字	INPUTステートメントでの入力パラメータ処理の割り当て文字。
デフォルト設定	=	等号。
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	SET GLOBALS	
適用可能なコマンド	GLOBALS	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Naturalアプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

- IAパラメータで指定する文字は、プロファイル／セッションパラメータ **CF**（メインフレーム端末コマンドの制御文字）、**DC**（10進文字）または **ID**（入力デリミタ文字）で指定した文字、およびプロファイルパラメータ **HI**（ヘルプ文字）で指定した文字と同じにすることはできません。
- Naturalセッション内で、プロファイルパラメータ **IA**をセッションパラメータ **IA**で上書きできます。
- Natural Securityでは、このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルの [セッションパラメータ] オプションで上書きできます。

例：

次の例では、最初にデフォルトの INPUT 割り当て文字 (=) が適用されることを想定しています。

```
** Example 'IACHAR': Input Assign character
*****
DEFINE DATA LOCAL
1 #A (A1)
1 #B (A1)
END-DEFINE
*
INPUT #A #B
*
WRITE 'Field #A:' #A / 'Field #B:' #B
*
END
```

1. コマンドを入力します

```
IACHAR #A=Y,#B=X
```

プログラムが次の出力を生成します。

Page	1	05-01-19 11:05:51
Field #A:	Y	
Field #B:	X	

2. コマンドを入力します

```
GLOBALS IA=:
```

INPUT 割り当て文字がコロン (:) に設定されます。

3. コマンドを入力します

```
IACHAR #B:X,#A:Y
```

プログラムが次の出力を生成します。

Page	1	06-11-13 12:12:24
Field #A:	Y	
Field #B:	X	

102 IC・挿入文字

このセッションパラメータを使用して、DISPLAYステートメントによるフィールド出力の値の直前にある列に挿入される文字列を指定します。出力列の幅は、それに従って増加します。

可能な設定	任意の文字	挿入される文字列。1~10文字の文字列を指定できます。 注意: 挿入文字をオプションとして指定するには、アポストロフィで囲みます。その場合、任意の文字を指定できます。閉じカッコまたは引用符を含む任意の文字列を指定するには、アポストロフィで囲む必要があります。アポストロフィで囲まれていない文字列内の空白は、サカムフレックスマクセント (^) で表します。
デフォルト設定	なし	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	
適用可能なステートメント	FORMAT	パラメータは FORMATステートメントを使用してダイナミックに指定できます。
	DISPLAY	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド	なし	



注意:

1. 挿入文字は先頭のスペースとフィールド値の間に挿入され、先頭文字は先頭のスペースの前に出力されます。
2. 数値の場合、挿入文字は出力される最初の重要な10進数の前に配置されます。
3. ICおよびLCパラメータは相互排他的です。
4. パラメータICは、Uフォーマットのフィールドでも使用できます。

5. Unicode フォーマットの詳細については、『*Unicode およびコードページのサポート*』ドキュメントの「Natural プログラミング言語での Unicode およびコードページのサポート」の「セッションパラメータ」で「EMU、ICU、LCU、TCU と EM、IC、LC、TC の比較」も参照してください。
6. セッションパラメータ **LC**、**LCU** と **IC**、**ICU** の違いは、対応するフィールドが左揃えで出力される場合 (**AD=R**) に明確になります。
7. 『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

例：

```
DISPLAY AA(IC=*)  
DISPLAY SALARY(IC='$')
```

103 ICU - Unicode 挿入文字

このセッションパラメータを使用して、DISPLAYステートメントによるフィールド出力の値の直前にある列に挿入される文字列を指定します。出力列の幅は、それに従って拡大します。

可能な設定	任意の文字	挿入される文字列。1~10文字の文字列を指定できます。 注意: 挿入文字をオプションとして指定するには、アポストロフィで囲みます。その場合、任意の文字を指定できます。閉じカッコまたは引用符を含む任意の文字列を指定するには、アポストロフィで囲む必要があります。アポストロフィで囲まれていない文字列内の空白は、シルコンフレックス (^) で表します。
デフォルト設定	なし	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	
適用可能なステートメント	FORMAT	パラメータはFORMATステートメントを使用してダイナミックに指定できます。
	DISPLAY	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド	なし	



注意:

- セッションパラメータ ICU は、セッションパラメータ IC と同一です。違いは、挿入文字が必ず Unicode フォーマットで保存されることです。そのため、ユーザーは別のコードページからの文字が混在した挿入文字を指定でき、インストールされているシステムコードページに関係なく、いつでも確実に正しい文字が表示することができます。
- 数値の場合、挿入文字は出力される最初の重要な 10 進数の前に配置されます。
- パラメータ ICU および LCU は相互排他的です。

以下の項目も参照してください。

- 『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」
- 『Unicode とコードページのサポート』ドキュメントの「Natural プログラミング言語の Unicode とコードページのサポート」、「セッションパラメータ」、「EMU、ICU、LCU、TCU と EM、IC、LC、TC の比較」

104 ID・入力デリミタ文字

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、キーワード／デリミタモードで INPUT ステートメントのデリミタ文字として使用する文字を定義します。

可能な設定	任意の特殊文字	入力デリミタ文字。
デフォルト設定	,	コンマ (,)。 注意: ダイナミックパラメータ機能を使用する場合、コンマ文字 (,) は個々のパラメータを区切るため、入力デリミタ文字をコンマにするには、ID=',' と指定する必要があります。
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	SET GLOBALS	
適用可能なコマンド	GLOBALS	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

- このパラメータで指定する文字は、プロファイル／セッションパラメータ DC (10進文字) で指定した文字、IA (入力割り当て文字) を使用して指定した文字、CF パラメータ (メインフレーム端末コマンドの制御文字)、または HI パラメータ (ヘルプ文字) で指定した文字と同じにすることはできません。
- プログラム終了のピリオドを INPUT 区切り文字と誤って解釈することがあるため、ピリオド (.) を INPUT 区切り文字として使用しないでください。アスタリスク (*) も使用しないでください。
- Natural セッション内で、プロファイルパラメータ ID をセッションパラメータ ID で上書きできます。

4. Natural Security では、このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書きできます。

105 IKEY・PA キーおよび PF キーの処理

この Natural プロファイルパラメータでは、SET KEY ステートメントで Natural プログラムに定義されていないビデオ端末のプログラムアテンションキー（PA キー）やプログラムファンクションキー（PF キー）をデータ入力に使用したときの処理を指定します。

可能な設定	ON	Natural は ENTER キーが押された場合と同じように動作します。
	OFF	有効なキーを押すように促す REINPUT メッセージが出力されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

106 IM - 入力モード

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、ビデオ端末入力のデフォルトモードを決定します。

可能な設定	F D	フォームモード。 デリミタモード。
デフォルト設定	D	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	SET GLOBALS	
適用可能なコマンド	GLOBALS	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Naturalアプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

 注意:

1. Naturalセッション内で、プロファイルパラメータIMの設定をセッションパラメータIMで上書きできます。
2. Natural Securityでは、このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書きできます。
3. デリミタモードとフォームモードの詳細については、INPUTステートメントを参照してください。

107

INIT-LIB - 自動ログオンのライブラリ

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural 起動時の自動ログオン（プロファイルパラメータ **AUTO** を参照）に使用されるライブラリの名前を指定します。

可能な設定	1~8 文字	有効なライブラリ名。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	×	
セッション内の指定	×	

-  **注意:** Natural Security がインストールされている場合、INIT-LIB は評価されません。自動ログオンに使用されるライブラリは FSEC システムファイルから読み込まれます（詳細については、『Natural Security』ドキュメントを参照）。

108 IP - INPUT プロンプトテキスト

このセッションパラメータは、INPUTステートメントのプロンプトテキストを制御するために使用します。

可能な設定	ON	INPUTステートメントの中で入／出力の前にテキストを指定していくつても、プロンプトテキストとしてフィールド名がデフォルトで表示されます。
	OFF	INPUTステートメントの入／出力フィールドに対して自動プロンプトテキストは表示されません。フィールドの前にテキストを明示した場合にのみ、プロンプトテキストが表示されます。
デフォルト設定	ON	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	FORMAT INPUT	
適用可能なコマンド	なし	

例：

```
FORMAT IP=OFF
```


109 IS - 重複抑制

このセッションパラメータでは、WRITE または DISPLAY ステートメントで生成される連続行で、同一情報の出力を抑制できます。

可能な設定	ON OFF	フィールドの前の値と同一の値は表示されません。 注意: DISPLAY または WRITE ステートメントで、VERT やスラッシュ (/) 指定を使用して複数行を出力する場合は、IS=ON は最初の行にのみ適用されます。
デフォルト設定	OFF	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	DISPLAY FORMAT WRITE	
適用可能なコマンド	なし	



注意:

1. SUSPEND IDENTICAL SUPPRESS ステートメントを発行することにより、1件のレコードに対して IS パラメータの設定を無効にすることができます。
2. IS パラメータを ES や ZP パラメータと組み合わせて、空行を省略できます。
3. 『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

例：

```
FORMAT IS=ON
```

110 ITERM-初期化エラーが発生した場合のセッション終了

この Natural プロファイルパラメータでは、セッション初期化エラーが発生した場合に Natural セッションを続行するかどうかを指定します。

このプロファイルパラメータが正しく指定されていない場合、セッションは直ちに終了し、次のメッセージが表示されます。

Natural スタートアップエラー : 105

ダイナミックパラメータ ITERM の値は、ON または OFF です。

可能な設定	ON	セッション初期化エラーが発生した場合、セッションは直ちに終了し、次のメッセージが表示されます。 Natural スタートアップエラー : 106 初期化中のエラーで終了します。 その後に初期化エラーのエラーメッセージが表示されます。
	OFF	、初期化中にエラーが発生した場合、次の処理が実行されます。 <ul style="list-style-type: none">■ オンラインモードでは、初期化エラーが表示され、セッションを続行するか終了するかを選択できます。■ バッチモードでは、初期化エラーがバッチ出力ファイルで報告され、セッションが継続されます。これにより、セッションで後からエラーまたは予期しない結果が発生する可能性があります。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

111 KC - ステートメントキーワードのチェック

このパラメータは、Natural プロファイルパラメータ **KCHECK** に対応しています。

112 KCHECK-ステートメントキーワードのチェック

このプロファイルパラメータでは、一連の重要な Natural キーワードに対して Natural オブジェクト内のフィールド宣言をチェックします。

可能な設定	ON	キーワードのチェックを実行します。 定義された変数名がこれらのキーワードのいずれかに一致する場合、Natural オブジェクトがチェックまたはカタログされたときに構文エラーが報告されます。
	OFF	キーワードのチェックを実行しません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	OPTIONS	
適用可能なコマンド	KCHECK	システムコマンドのオプション COMPOPT



注意:

1. KCHECK パラメータでチェックされるキーワードのリストについては、「キーワードのチェックの実行」セクションを参照してください。
2. すべての Natural キーワードおよび予約語の概要については、『プログラミングガイド』の「Natural 予約キーワード」を参照してください。

113 KD・キー定義

このセッションパラメータは、PFキー（SET KEYステートメントを参照）に割り当てられた名前を表示するために使用します。

可能な設定	ON	PFキーに割り当てられた名前が表示されます。
	OFF	PFキーに割り当てられた名前は表示されません。
デフォルト設定	OFF	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	FORMAT	
適用可能なコマンド	なし	



注意:

1. PFキー割り当て情報は、INPUT、WRITE、DISPLAY、および PRINTステートメントで生成された出力を示す物理画面の下部2行に自動的に表示されます。
2. キー割り当ての表示には2行必要であるため、論理ページサイズ（セッションパラメータ PSを参照）を2行減らす必要があります。

例：

```
FORMAT KD=ON
```


114 KEY・PA、PF、およびCLEARキーへの設定の割り当て

このNaturalプロファイルパラメータは、ビデオ端末上のCLEARキー、プログラムアテンションキー（PAキー）、およびプログラムファンクションキー（PFキー）に設定を割り当てるために使用します。

可能な設定	任意の文字列	設定は、PA1～PA3、PF1～PF24およびCLEARキーに割り当てることができます。 注意: 各キーに割り当てる設定は任意の文字列にすることができます。文字列は、Naturalシステムコマンドまたはユーザーコマンド（ユーザープログラム）を表す必要があります。設定に埋め込み空白が含まれている場合、アポストロフィで囲む必要があります。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	×	
セッション内の指定	○	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR4005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Naturalアプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

- プロファイルパラメータKEYによる割り当ては、Natural [Direct Command] ウィンドウ内から指定する場合のみ有効です。
- プロファイルパラメータKEYで指定する文字列全体をカッコで囲む必要があります（KEY=OFFを除く）。KEY=OFFはすべてのキーの割り当てを解除します。

例：

```
KEY=OFF  
KEY PF4=OFF  
KEY PF3="EDIT MAP"  
KEY CLR=LOGOFF  
KEY OFF
```

115 LC - 小文字から大文字への変換

この Natural プロファイルパラメータでは、入力文字の小文字から大文字への変換を制御します。

可能な設定	ON	小文字から大文字への変換は行われません。
	OFF	Natural で、すべての小文字（STACK ステートメントで配置された Natural スタックからの入力を除く）が大文字に変換されます。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	不可	アクティブな Natural セッション内で小文字から大文字への変換をダイナミックに無効または有効にするには、端末コマンド %L または %U
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意: このパラメータは、STACK ステートメントで Natural スタックに配置された Natural スタックデータには適用されません。

116 LC - 先頭文字

このセッションパラメータを使用すると、DISPLAY ステートメントによるフィールド出力の直前に表示される先頭文字を指定できます。出力列の幅は、それに従って増加します。

可能な設定	任意の文字	最大 10 文字を指定できます。 注意: <ol style="list-style-type: none">先頭文字をオプションとして指定するには、アポストロフィで囲みます。その場合、任意の文字を指定できます。閉じカッコまたは引用符を含む任意の文字列を指定するには、アポストロフィで囲む必要があります。アポストロフィで囲まれていない文字列で空白を表現するには、 サークルフレックス (^) を使用します。
デフォルト設定	なし	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	
適用可能なステートメント	FORMAT	パラメータは FORMAT ステートメントを使用してダイナミックに指定できます。
	DISPLAY	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド	なし	



注意:

- セッションパラメータ [LC](#) および [IC](#) は相互排他的です。
- パラメータ LC は、U フォーマットのフィールドでも使用できます。

3. Unicode フォーマットの詳細については、「Natural プログラミング言語の Unicode とコードページのサポート」の「セッションパラメータ」の項にある「EMU、ICU、LCU、TCU と EM、IC、LC、TC の比較」も参照してください。
4. 『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

例：

```
DISPLAY {LC=*}
```

117 LCU - Unicode 先頭文字

このセッションパラメータを使用すると、DISPLAY ステートメントによるフィールド出力の直前に表示される先頭文字を指定できます。出力列の幅は、それに従って拡大します。

可能な設定	任意の文字	最大 10 文字を指定できます。 注意: <ol style="list-style-type: none">先頭文字をオプションとして指定するには、アポストロフィで囲みます。その場合、任意の文字を指定できます。閉じカッコまたは引用符を含む任意の文字列を指定するには、アポストロフィで囲む必要があります。アポストロフィで囲まれていない文字列で空白を表現するには、サーカムフレックス (^) を使用します。
デフォルト設定	なし	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	
適用可能なステートメント	FORMAT	パラメータは FORMAT ステートメントを使用してダイナミックに指定できます。
	DISPLAY	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド	なし	



注意:

- セッションパラメータ LCU は、セッションパラメータ LC と同一です。違いは、先頭文字が必ず Unicode フォーマットで保存されることです。そのため、ユーザーは別のコードページからの文字が混在した先頭文字を指定でき、インストールされているシステムコードページに関係なく、いつでも確実に正しい文字が表示されるようにすることができます。

2. セッションパラメータ LCU および ICU は相互排他的です。

以下の項目も参照してください。

- 『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」
- 『Unicode とコードページのサポート』ドキュメントの「Natural プログラミング言語の Unicode とコードページのサポート」、「セッションパラメータ」、「EMU、ICU、LCU、TCU と EM、IC、LC、TC の比較」

118

LE・処理ループの制限を超過したときの処理

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、取得レコードの制限が READ、FIND、または HISTOGRAM 処理ループで超過したときに実行する処理を制御します。

可能な設定	ON	データベースループは限界に達すると終了します。プログラムフローは通常、終了したデータベースループに続くステートメントで続行します。Natural オブジェクトの実行が完了すると、エラー NAT0957 (Database loop limit reached with 'LE=ON'.) が発生します。 注意: LE=ON は、システムファイル FUSER にあるライブラリ（つまり、ライブラリ SYSTEM、または接頭辞 SYS で始まっていない名前のライブラリ）からロードされるプログラムにのみ適用されます。
	OFF	データベースループは限界に達すると終了します。プログラムフローは通常、終了したデータベースループに続くステートメントで続行します。Natural オブジェクトの実行が完了しても、エラーメッセージは表示されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	SET GLOBALS	
適用可能なコマンド	GLOBALS	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

- LE パラメータは、制限を指定して、READ、FIND および HISTOGRAM ステートメントに適用されます（「[例](#)」を参照）。

LE - 処理ループの制限を超過したときの処理

2. 制限は、LIMITステートメントを使用してNaturalオブジェクトにグローバルに指定するか、データベース処理ループに適用される明示的な制限値を指定することもできます。
3. Naturalセッション内で、プロファイルパラメータLEをセッションパラメータLEで上書きできます。

例：

```
DEFINE DATA LOCAL
1 EMPL-VIEW VIEW OF EMPLOYEES
  2 NAME
END-DEFINE
READ (10) EMPL-VIEW BY NAME
  WRITE NAME
END-READ
END
```

LE=OFF：10 レコードの後、ループはメッセージなしで終了します。

LE=ON：10 レコードの後、ループはエラーメッセージNAT0957 (Database loop limit reached with 'LE=ON') で終了します。

119

LFILE・論理システムファイルの定義

■ LFILE パラメータの構文	280
■ LFILE パラメータの例	281

このNatural プロファイルパラメータでは、Software AG 製品の論理システムファイルに関連付ける物理データベースファイルに関する情報を指定します。

可能な設定	「 LFILE パラメータの構文 」を参照してください。	
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR0011N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。
	USR2004N (推奨)	

注：

- LFILE およびは、独自のシステムファイルを持つ Software AG 製品（例えば、Connect や Natural Review）で、これらのシステムファイルの配置場所を指定するために使用できます。これらの製品では、それぞれのデータ定義モジュール（DDM）でデータベース ID 255 および論理ファイル番号を使用しています。LFILE パラメータで、その論理ファイル番号に関連付ける物理ファイル番号とデータベース ID（および適用可能な場合はパスワードとサイフキー）を指定します。Natural では、論理ファイル番号を物理ファイル番号とデータベース ID にマッピングし、データベースコールに使用します。

LFILE パラメータの構文

LFILE パラメータは次のように指定します。

```
LFILE=(logical-fnr,physical-dbid,physical-fnr,password,cipher-key)
```

上記の意味は次に示すとおりです。

構文要素	値	説明
logical-fnr	1 - 251	論理ファイル番号。このパラメータは必須です。
physical-dbid	0 - 65535 (255 以外)	物理データベース ID。データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています。
physical-fnr	1 - 5000	物理ファイル番号。
password	1~8 文字。	データベースファイルが Adabas セキュリティ機能を使用してパスワード保護／暗号化されている場合のみ、パスワードとサイフキーが必要となります。FDDM、FNAT、および FUSER では、パスワードとサイフキーは今後利用するため予約されています。現在は無視されます。
cipher-key	1 ~ 8 の 10 進数値。	



注意: 異なる論理ファイルを定義するには、**LFILE** パラメータを（コンマまたはブランクで区切って）複数回指定する必要があります。「[LFILE パラメータの例](#)」を参照してください。

LFILE パラメータの例

```
LFILE=(180,73,10),LFILE=(251,40,9,TEST99)
```


120 LOGONRQ - RPC サーバー要求にログオンが必要

この Natural プロファイルパラメータでは、RPC サーバー要求に対してログオンデータが必要かどうかを決定します。

可能な設定	ON	ログオンは必要です。つまり、サーバーは、RPC サーバー要求にログオンデータを含むクライアントからの要求だけを受け入れます。会話型要求の場合、会話が開かれるときのみ、ログオンデータが必要です。 注意: Natural RPC サーバーが Natural Security 環境で実行されている場合、LOGONRQ=ON を設定することをお勧めします。詳細については、『Natural RPC (リモートプロシージャコール)』ドキュメントの「Natural Security での Natural RPC の使用」を参照してください。
	OFF	ログオンデータは不要です。それにもかかわらず、ログオンデータは処理されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意:

- LOGONRQ はサーバーサイドでのみ指定されます。
- Natural クライアントの場合、ログオンデータは、SYSRPC サービスディレクトリメンテナンスの LOGON オプションを設定するか、パラメータ DFS のログオンインジケータを使用して要求できます。
- Natural RPC の詳細については、『Natural RPC (リモートプロシージャコール)』ドキュメントを参照してください。

121 LS - 行サイズ

■ プロファイルパラメータ LS	286
■ セッションパラメータ LS	286
■ ステートメントでの指定	287

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、DISPLAY、INPUT、および WRITE ステートメントの行ごとに許可する文字の最大数を指定します。

以下では次のトピックについて説明します。

プロファイルパラメータ LS

プロファイルパラメータとして使用する場合、LS はバッチモードでのみ有効で、物理行サイズを定義します。オンラインモードでは、行サイズは常に物理画面の幅に設定されます。

可能な設定	35 - 250	1 行に許可された文字の最大数。
	0	物理行サイズ（たいていは 132）を使用します。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	○	

セッションパラメータ LS

可能な設定	2 - 250	1 行に許可された文字の最大数。
	0	ステートメント SET GLOBALS またはシステムコマンド GLOBALS でのみ許可されます。値 0 は物理的な行サイズに置き換えられます。
デフォルト設定	物理行サイズ。	
適用可能なコマンド	GLOBALS	
適用可能なステートメント	FORMAT SET GLOBALS	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーザビリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

注意:

1. ライブラリへのログオン時、LS は物理行サイズにリセットされます。
2. Natural Security では、このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書きできます。

ステートメントでの指定

ステートメントで指定する場合、LS パラメータはコンパイル時に評価されます。

適用可能なステートメント	DISPLAY INPUT WRITE	パラメータはステートメントレベルで指定できます。
--------------	---------------------------	--------------------------

122 LT - 処理ループの制限

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータは、Natural アプリケーション内で取得可能なデータベースレコードの数を制限するために使用します。

可能な設定	1 - 2147483647 0	取得可能なレコードの最大数。すべての取得レコード (WHERE 節で拒否されたレコードを含む) がカウントされ、この制限値と比較されます。 LT=0 を指定した場合、取得レコードの数に制限は適用されません。 注意: セッション内で、0 ~ n の範囲の値を指定できます。ここで、n は、セッション開始時のプロファイルパラメータ LT の値です。
デフォルト設定	99999999	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	SET GLOBALS	注意: LT パラメータをステートメント SET GLOBALS またはシステムコマンド GLOBALS と組み合わせて使用する場合、設定する制限値は Natural パラメータファイル NATPARM で定義された LT 値を超えないようにする必要があります。
適用可能なコマンド	GLOBALS	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

- LE パラメータで設定した制限は、データベースからレコードを取得するすべてのステートメントに適用されます。つまり、READ、FIND、HISTOGRAM または SELECT などの処理ループを開始するステートメント、および FIND UNIQUE、FIND NUMBER、FIND FIRST、GET (SAME) および SELECT SINGLE など 1 つのレコードのみを取得するステートメントです。
- 取得レコードはすべてカウントされ、カウント結果が LT 制限と比較されます。カウントには、FIND、READ、または HISTOGRAM ステートメントの WHERE 節で拒否されたレコードも含まれます。

れます。LT 上限は、ステートメント STORE、UPDATEDELETE、END TRANSACTION および BACKOUT TRANSACTION には影響しません。

3. レコードがデータベースから取得されると、取得レコードのカウントが増加し、その後で LT パラメータの現在の値と比較されます。増加したカウントが現在の LT 値を超過した場合、Natural エラー NAT1003 (Global limit for database calls reached) が発生します。Natural プログラムがレベル 1 で起動されるたびに取得レコードのカウントがゼロにリセットされます。レベル 1 のプログラムが別の Natural オブジェクトを呼び出した場合は、カウントはリセットされません (『プログラミングガイド』の「呼び出されるオブジェクトの複数レベル」を参照)。したがって、LT パラメータでは、レベル 1 のプログラムによってデータベースから取得されたレコードの数と、そのプログラムによって 1 以外のレベルで呼び出されたオブジェクトの数を制限します。
4. LT パラメータの値が SET GLOBALS LT=*n* ステートメントを使用してプログラム内でダイナミックに変更された場合、データベースからレコードを取得する次のステートメントで新しい制限値が有効になります。
5. Natural セッション内で、プロファイルパラメータ LT をセッションパラメータ LT で上書きできます。

123

MADIO - 画面 I/O 処理間の最大 DBMS コール

この Natural プロファイルパラメータは、2つの画面 I/O 処理間（またはバッチモード）で許可される DBMS コールの最大数を指定するために使用します。

可能な設定	30 - 32767	DBMS コールの最大数。
	0	MADIO=0 は、制限が適用されないことを示します。
デフォルト設定	512	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。
	USR1068N *	* 推奨。



注意: 指定した制限を超過した場合、Natural プログラムは中断し、ユーザーは該当する Natural エラーメッセージを受け取ります。

124 MAINPR-デフォルトの出力レポート番号の上書き

このNaturalプロファイルパラメータは、すべてのNaturalレポートのデフォルトの出力レポート番号を上書きするために使用します。値は有効なプリンタ番号（0～31）に設定する必要があります。

可能な設定	0 - 31	有効なプリンタ番号。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR6002N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

- MAINPR 設定の指定は、DISPLAY、PRINT、WRITE、または INPUT ステートメントのすべてのプリンタ参照をデフォルト設定（0）から目的のプリンタ番号に変更することと同じです。
- 指定したレポート番号に対応する物理プリンタは、Naturalに定義する必要があります（『コンフィグレーションユーティリティ』ドキュメントの「デバイス／レポート割り当て」セクションを参照）。

125

MASKCME - MASK の MOVE EDITED との互換性

この Natural プロファイルパラメータは、Natural のコンパイラを制御するために使用されます。

可能な設定	ON	YYYY マスク文字に一致する有効な年の値の範囲は 1582 - 2699 で、MASK オプションと MOVE EDITED とを互換します。
	OFF	YYYY マスク文字に一致する有効な年の値の範囲は 0000 - 2699 です。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	OPTIONS	
適用可能なコマンド	MASKCME	オプション： COMPOPT

126

MAXBUFF - デフォルトのバッファサイズ

このNaturalプロファイルパラメータは、デフォルトのバッファサイズを指定するためにNatural RPC環境で使用されます。

可能な設定	1 - 2097147	KB 単位のデフォルトのバッファサイズ。
	0	バッファは割り当てられません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意:

1. MAXBUFFはクライアントサイドとサーバーサイドの両方で指定できます。
2. サーバーサイドでは、データを含むクライアント要求を受け取って、結果を送り返すために、サーバーが提供するバッファのサイズを決定します。バッファは、すべてのクライアント要求、およびクライアントに送り返されるすべての結果によって受信される最大のデータエリアを保持できるほど十分大きくする必要があります。要求に対してバッファのサイズが小さすぎる場合、必要なサイズの一時バッファが割り当てられて、この要求に対して使用されます。詳細については、『Natural RPC（リモートプロシージャコール）』ドキュメントの「Interface Objects and Automatic RPC Execution」を参照してください。
3. クライアントサイドでは、Natural RPC コールの実行に提供されるバッファのサイズを決定します。このバッファは、クライアント要求を構築し、サーバーから結果を受け取るために使用されます。バッファは、すべてのクライアント要求、およびクライアントに送り返されるすべての結果によって受信される最大のデータエリアを保持できるほど十分大きくする必要があります。要求に対してバッファのサイズが小さすぎる場合、必要なサイズの一時バッファが割り当てられて、この要求に対して使用されます。
4. クライアント側では、SYRPCユーティリティおよびCOMPAT NONEで生成されるインターフェイスオブジェクトを使用する場合、およびパラメータがダイナミックフィールドも、X-Array やグループ構造も含んでいない場合は、MAXBUFFを指定する必要はありません。

5. クライアントおよびサーバー間で交換されるデータのサイズは、SYSRPC ユーティリティの **Interface Object Generation** 機能によって提供されます。RPC 実行のためのサイズを計算するには、SYSRPC CSMASS コマンドを使用できます（『SYSRPC ユーティリティ』ドキュメントの「サイズ要件の計算」を参照）。

127 MAXCL - プログラムコールの最大数

この Natural プロファイルパラメータは、2つの画面 I/O 処理間で許可されるプログラムコールの最大数を指定するために使用します。

可能な設定	10 - 32767 0	プログラムコールの最大数。 MAXCL=0 は、制限が適用されないことを示します。
デフォルト設定	50	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N USR1068N *	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。 * 推奨。



注意: 指定した制限を超過した場合、Natural プログラムは中断し、ユーザーは該当する Natural エラーメッセージを受け取ります。

128

MAXPREC - 小数点以下の桁数の最大値

この Natural プロファイルパラメータは、Natural のコンパイラを制御するために使用されます。このオプションによって、Natural コンパイラが算術演算の結果として生成する小数点の後ろの最大桁数が決定されます。

可能な設定	7,...,29	<p>この値によって、Natural コンパイラが算術演算の結果として生成する小数点の後ろの最大桁数が表されます。</p> <p>デフォルト値 7 では、既存のアプリケーションのための上位互換性が提供されます。このようなアプリケーションは、MAXPREC=7 でカタログされ、以前と同じ結果を提供します。MAXPREC オプションをサポートしていなかった Natural バージョンでカタログされたオブジェクトは、MAXPREC=7 が設定されている場合と同様に実行されます。</p> <p>中間結果用により高い精度が必要な場合、値を増やす必要があります。</p> <p>MAXPREC の設定によって、ユーザー定義のフィールドおよび定数に指定できる小数点の後ろの桁数が制限されるわけではありません。ただし、このようなフィールドおよび定数の精度は、算術演算の結果の精度に影響します。これによって、選択した計算でコンパイラオプション MAXPREC を意図に反して他の計算に影響を与える値に設定することなく、拡張された精度を活用できるようになります。したがって、MAXPREC=7 が有効な場合でも、次のサンプルプログラムをカタログして実行できます。</p> <pre>DEFINE DATA LOCAL 1 P (P1.15) END-DEFINE P := P + 0.1234567890123456 END</pre> <p>『プログラミングガイド』の「算術演算結果の精度」を参照してください。</p>
デフォルト設定	7	

MAXPREC - 小数点以下の桁数の最大値

ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	
適用可能なステートメント	OPTIONS	
適用可能なコマンド	MAXPREC	システムコマンドのオプション COMPOPT

! 注意: Natural オブジェクトをカタログするために使用されている MAXPREC オプションの値を変更すると、オブジェクトソースが変更されていない場合でも、異なる結果が発生する場合があります。下記の例を参照してください。

例：

```
DEFINE DATA LOCAL
1 #R (P1.7)
END-DEFINE
#R := 1.0008 * 1.0008 * 1.0008
IF #R = 1.0024018 THEN ... ELSE ... END-IF
```

計算後の #R の値と IF ステートメントの実行は、MAXPREC の設定によって次のように異なります。

コンパイル時に有効な MAXPREC の設定	#R の値	IF ステートメントの実行される節
MAXPREC=7	1.0024018	THEN 節
MAXPREC=12	1.0024019	ELSE 節

129 MAXYEAR - 日付／時刻値の最大年

このNaturalプロファイルパラメータでは、定数または端末入力として入力可能な日付／時刻値の年部分の最大値を設定します。

可能な設定	2699	入力可能な最大年は 2699 です。つまり、入力可能な日付の最大値は 2699-12-31 です。
	9999	入力可能な最大年は 9999 です。つまり、入力可能な日付の最大値は 9999-12-31 です。
デフォルト設定	2699	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意:

- MAXYEAR=9999 では、入力可能な日付の最大値を 2699-12-31 から 9999-12-31 に変更します。
- MAXYEAR の値を 9999 に設定する前に、アプリケーションの算術演算、または日付／時刻以外のデータフォーマットを持つフィールドへの日付／時刻値の割り当てを十分にチェックし、必要な変更を加える必要があります。そうしないと、実行時に Natural エラーにつながる予期しないオーバーフローが発生する可能性があります。

例えば、次の点をチェックする必要があります。

- P6/P12 フィールドでの日付／時刻フィールドの再定義
- P6 := D のような、日付／時刻フィールド以外への日付／時刻値の割り当て
- 結果が日付／時刻フィールド以外に割り当てられる日付／時刻値での算術演算。例：P6 := D + 7
- 後で日付／時刻フィールド以外での算術演算に使用される日付／時刻フィールドの入力（次の例を参照）

```
INPUT D(D)
P6 := D + 1
```

アプリケーションのチェックには、Natural Engineer を使用することをお勧めします。

MAXYEAR の設定は、次に点に影響します。

- コンパイラによる日付／時刻定数のチェック。例：P6 := D'2699-12-31'
- INPUT ステートメント（日付／時刻入力フィールドまたは変更可能な日付／時刻フィールドを含む）
- MOVEEDITED ステートメント（ソース日付／時刻フィールドまたはターゲット日付／時刻フィールドを含む）
- IS (D) オプション（論理条件基準）
- MASK オプション（論理条件基準の 4 衔の年チェック付き）(YYYY)
- VAL システム関数（日付フィールドをターゲットオペランドとして使用）

MAXYEAR 設定は、次の点で同一であることが必要です。

- Natural アプリケーションのカタログと実行
- Natural RPC サーバーと Natural RPC クライアント

以下の項目も参照してください。

- 『プログラミングガイド』の「フォーマット D (日付) および T (時刻)」
- 『プログラミングガイド』の「日付／時刻の定数」
- 『パラメータリファレンス』ドキュメントのセッションパラメータ [EM](#)

130 MC - マルチプルバリューフィールドカウント

このセッションパラメータでは、DISPLAYまたはWRITEステートメントでインデックスを付けずにマルチプルバリューフィールドを指定したときに、デフォルトで出力する値の個数を決定します。

可能な設定	1 - 191	値の数。
デフォルト設定	1	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	DISPLAY FORMAT INPUT PRINT WRITE	
適用可能なコマンド	なし	



注意: このパラメータはレポートモードでのみ使用できます。

例:

```
FORMAT MC=5
```


131 MFSET - マルチフェッチ設定

この Natural プロファイルパラメータでは、Adabas データベースからレコードを取得するため にマルチフェッチ（「MULTI-FETCH 節」を参照）を使用するかどうかを指定します。

可能な設定	NEVER	常にシングルフェッチを使用します。
	OFF	デフォルトとしてシングルフェッチを使用します。これはステートメントレベルで上書きされます。
	ON	デフォルトとしてマルチフェッチを使用します。これはステートメントレベルで上書きされます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

132 ML・メッセージ行の位置

このプロファイルおよびセッションパラメータでは、SET CONTROL 'M' ステートメントでメッセージ行の位置を明示的に設定していないアプリケーションに対してメッセージを表示する行を指定します。

可能な設定	B	Natural メッセージは画面の最下行に表示されます。
	T	Natural メッセージは画面の最上行に表示されます。
デフォルト設定	B	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	SET CONTROL 'M'	
適用可能なコマンド	Globals	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

- オペランド 'M' の詳細については、Natural 端末コマンド %M (メッセージ行の制御) を参照してください。
- プロファイルパラメータ ML はコンフィグレーションユーティリティには存在しません。代わりに、セッションパラメータ ML を使用してください。
- Natural セッション内で、プロファイルパラメータ ML をセッションパラメータ ML で上書きできます。

133 MP - レポートの最大ページ数

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、レポート用に生成する最大ページ数を指定します。

Natural for Windows または Natural for UNIX 環境では、MP プロファイルパラメータは、『構成ユーティリティ』ドキュメントの「デバイス／レポートの割り当て」で説明されている構成ユーティリティの [Max. Pages] オプションを使用して設定します。

可能な設定	1 - 99999	指定する値は物理ページ数を表します。使用される開始ページ番号には影響しません。MP 値を超過した場合、プログラムはエラーメッセージで終了します。
	0	ページ制限は定義されません。
デフォルト設定	32767	
ダイナミックな指定	不可	
セッション内の指定	x	
適用可能なステートメント	DISPLAY FORMAT PRINT WRITE	
適用可能なコマンド	なし	

 **注意:** Natural セッション内で、FORMAT ステートメントを使用して、プロファイルパラメータ MP の設定を減らすことができます。ただし、増やすことはできません。セッションパラメータ MP で指定した値は、指定したレポートにのみ適用されます。

134 MS - 手動による省略

このセッションパラメータでは、INPUTステートメント処理中のカーソルの位置を制御します。

可能な設定	ON	下記の例を参照してください。 注意: 設定 MS=ON は、BS2000 ではサポートされていません。
	OFF	現在入力中のフィールドの全桁に値が入るとすぐに次の入力フィールドにカーソルが移動します。
デフォルト設定	OFF	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	FORMAT INPUT	
適用可能なコマンド	なし	

例：

```
INPUT (MS=ON) #A #B
```


135 MSGSF - システムエラーメッセージの短い形式

／完全な形式での表示

この Natural プロファイルパラメータは、Natural システムエラーメッセージの切り捨てを防止するために使用します。

可能な設定	ON	システムエラーメッセージが完全な形式で表示されます。つまり、プログラム名、行番号、および実際のメッセージテキストが表示されます。
	OFF	システムエラーメッセージが短い形式で表示されます。つまり、実際のメッセージテキストのみが表示されます（プログラム名と行番号は表示されません）。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	

デフォルトでは、Natural システムエラーメッセージの構成は次のとおりです。

- プログラムの名前
- エラーが発生した行の番号
- メッセージの実際のテキスト

メッセージが表示されるウィンドウのサイズに応じて、テキストは切り捨てられます。このパラメータでは、このような切り捨てを防止できます。

136 NATLOG - Natural ログファイル

- 例 318

このNaturalプロファイルパラメータは、標準出力（対話式モードの場合）または出力ファイルCMPRINT（バッチモードの場合）に書き込まれない（書き込めなかった）メッセージを記録するために使用します。

可能な設定	OFF	ログメカニズムを無効にします。
	ERR	エラーメッセージを記録します。
	INF	情報と正常メッセージを記録します。
	WRN	警告メッセージを記録します。
	ALL	すべてのタイプのメッセージを記録します。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意:

1. NATLOG ファイルの場所は、Natural の TEMP ディレクトリ（ローカルコンフィグレーションファイルNATURAL.INIで指定）です。このパスが不明な場合、Naturalは現在のディレクトリにファイルを作成します。
2. *user-ID/et-ID*情報を取得できた場合、Naturalは次のファイル名を作成しようとします：
NATURAL_<user-ID>_<et-ID>.LOG
3. *user-ID*および*et-ID*を取得できなかった場合、次のファイル名が使用されます。
NATURAL.LOG.
4. ファイル名の例：Natural バッチ処理は *user-ID=SYSTEM* および *et-ID=14* で実行しており、そのときの作成ファイル名は NATURAL_SYSTEM_14.LOG になります。
5. *user-ID*を取得できなかった場合（Naturalの初期化段階でエラーが発生したケース）、作成ファイル名は NATURAL.LOG になります。

例

次の例は、Naturalログファイルの内容を示しています。ファイルの先頭には、いくつかの環境情報（例えば、Naturalバージョン、現在使用中のパラメータファイルなど）を持つヘッダーがあります。2つのエントリが続いています。最初のエントリは、バッチモードに必要なI/Oチャネルを表示します。2番目のエントリは、エラーメッセージを示します。両方のメッセージは統計サマリにカウントされます。

NATLOG出力の例（UNIX）：

```
# ##### Natural Log File #####
# Logging started at : 06-Mar-2007 08:08:38.023
# :
# Natural Version      : V v.r.s SAG 2003
# Server Type          : (none)
# Device               : BATCH (real)
# Parameter File        : NATPARM
# :
# User ID              : NATURAL
# ET ID                : TEST
# Network User ID      : NATURAL
# :
# Host Name             : hpn2
# Machine Class         : UNIX
# Operating System      : HP_HPUX B.10.20A
# :
# Process ID            : 17921
# :
# NATLOG Option         : ALL
#
# -----
# 08:08:38.025 NATURAL      INFORMATIONAL STATISTICS: INF=1 WRN=0 ERR=0
# -----
setting of parameter CMSYNIN (command file)
$HOME/tmp/batch.cmd
setting of parameter CMOBJIN (input file)

setting of parameter CMPRINT (output file)
$HOME/tmp/batch.out
#
# 08:08:38.028 NATURAL      ERROR                  STATISTICS: INF=1 WRN=0 ERR=1
# -----
    NATURAL Startup Error: 42
    Batch mode driver error.
    Parameter CMOBJIN not set.
```


137 NC - Natural システムコマンドの使用

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural セッション中に Natural システムコマンドを使用できるようにするかどうかを制御します。

可能な設定	ON	システムコマンドは使用できません。 例外： FIN、LAST、LOGOFF、LOGON、RENUMBER、RETURN、SETUP および TECH。 注意： <ol style="list-style-type: none">1. Natural Security がインストールされている場合、NC プロファイルパラメータの設定にかかわらず、Natural Security で設定したシステムコマンド制限が有効になります。2. メインフレームコンピュータのNatural開発サーバー環境では、NC=ON が指定されている場合でも、Natural 開発サーバーに対しては値 OFF としてみなされます。3. クライアントサイドで NC=ON が指定されている場合、クライアントサイドで発行される後続のシステムコマンドは上記のように拒否されます。
	OFF	すべてのシステムコマンドを使用できます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	
適用可能なステートメント		
適用可能なコマンド		

アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。
-------------------------	----------	--

 **注意:**

1. Natural セッション内で、プロファイルパラメータ NC をセッションパラメータ NC で上書きできます。
2. Natural 端末コマンドおよびユーザー作成コマンド（オブジェクトモジュール名）は、NC パラメータの影響を受けません。
- 3.

138 NCFVERS - NCF ファイルプロトコルバージョン

この Natural プロファイルパラメータは、バージョン 6.1 より低い Natural バージョンとの下位互換を可能にします。使用される Entire Connection フォーマットファイル (.NCF) のプロトコルバージョンを指定します。ファイル拡張子 .NCD を持つタイプ ENTIRE CONNECTION または DEFAULT のワークファイルが書き込まれるとき、この Entire Connection フォーマットが生成されます。

可能な設定	0	Entire Connection プロトコルバージョン 0 のフォーマットファイルが書き込まれます。作成されたフォーマットファイルは、バージョン 6.1 より低い Natural バージョンのファイルと互換性を持ちます。
	2	Natural バージョン 6.1 または 6.2 で作成される Entire Connection プロトコルバージョン 2 のフォーマットファイルが書き込まれます。
	3	Natural バージョン 6.3 で作成される Entire Connection プロトコルバージョン 3 のフォーマットファイルが書き込まれます。
デフォルト設定	3	
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	

 **注意:** ワークファイルタイプ ENTIRE CONNECTION および Entire Connection フォーマットの詳細については、および『オペレーション』ドキュメントの「ワークファイルフォーマット」を参照してください。

139 NENTRY-数値フィールドエントリの左寄せ／右寄せ

この Natural プロファイルパラメータでは、数値 INPUT フィールド（つまり、フォーマット I、N、P、または F のフィールド）に入力した値の配置を定義します。

可能な設定	LEFT	数値 INPUT フィールドに入力した文字を左寄せにします。
	RIGHT	数値 INPUT フィールドに入力した文字を右寄せにします。
デフォルト設定	LEFT	
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	

140 NL - 数値出力長

このセッションパラメータでは、DISPLAY、INPUT、PRINT、またはWRITEステートメントで使用する数値フィールドのデフォルトの入力／出力長を決定します。

可能な設定	$nn.m$	長さは $nn.m$ の形式で指定します。 nn は小数点記号前の桁数を表し、 m は小数点記号後の桁数を表します。 m の指定は任意です。 m の値は 7 を超えないようにする必要があります。 $nn+m$ の合計は 29 を超えないようにする必要があります。 注意: <ol style="list-style-type: none">NL がフィールド長より短いと、値は桁落ちします。桁落ちしてもエラーにはなりません。NL がフィールド長より長いと、値は空白で埋められます。入力フィールドが桁落ちしてもエラーにはなりません。
デフォルト設定	なし	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	DISPLAY FORMAT INPUT PRINT WRITE	
適用可能なコマンド	なし	



注意:

- NL パラメータはグループに対して指定しないでください。
- フィールドに編集マスクと NL パラメータの両方が指定されている場合は、編集マスクが優先されます。

3. 『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

例：

```
DISPLAY #AA(NL=20) #AB(NL=3.2)
```

141 NOAPPLERR - メッセージ番号接頭辞 NAT の省略

このNaturalプロファイルパラメータは、ユーザー指定のエラーメッセージのメッセージ番号接頭辞「NAT」を省略するために使用します。

可能な設定	ON	接頭辞「NAT」は、エラーメッセージには表示されません。
	OFF	接頭辞「NAT」は、エラーメッセージに表示されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

142 NOPROX-ダイレクトアドレッシング用のローカルドメインの指定

このNaturalプロファイルパラメータでは、プロキシを介してではなく、直接アドレス指定されるドメインを指定します。

可能な設定		「例」を参照してください。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	

例：

```
"*.software-ag.de; sagus.software-ag.com"
```


143 NOSSLPRX-ダイレクトアドレッシングSSL用のローカルドメインの指定

このNaturalプロファイルパラメータでは、SSLプロキシを介してではなく、直接アドレス指定されるドメインを指定します。

可能な設定		「例」を参照してください。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	

例：

```
"*.software-ag.de; sagus.software-ag.com"
```


144 OPF・ヘルプルーチンによる保護されたフィールドの上書き

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、書き込み保護されたフィールド（属性定義 **AD=P**）の内容を、フィールドに割り当てられたヘルプルーチンで上書きできるかどうかを指定します。

可能な設定	ON	フィールドが書き込み保護されていても、フィールドに割り当てられたヘルプルーチンでフィールドの内容を上書きできます。
	OFF	ヘルプルーチンでは書き込み保護されたフィールドの内容を上書きできません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	SET GLOBALS	
適用可能なコマンド	GLOBALS	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

- OPF プロファイルパラメータは、ヘルプルーチンが呼び出されるフィールドにのみ適用されます。ヘルプルーチンに明示的に渡されるパラメータには影響しません。つまり、ヘルプが呼び出されるフィールドをヘルプルーチンに渡すパラメータとして明示的に指定しても、OPF プロファイルパラメータは効果がありません。
- また、レポートモードでは、SET GLOBALS ステートメントを使用して OPF 設定を変更できます。

3. Naturalセッション内で、プロファイルパラメータOPFをセッションパラメータOPFで上書きできます。

145 OPRB・データベースのオープン／クローズ処理

- OPRB 文字列の構文 338

このNaturalプロファイルパラメータでは、Naturalセッション中のAdabasCオープン／クローズコマンドの使用を制御します。

可能な設定	OFF	OPRBパラメータをOFFに設定した場合、NaturalシステムファイルにUPD(アクセス／更新)を要求するAdabas OPコマンドを発行してNaturalセッションが開始されます。Naturalでも、すべてのISNリストを解放するためにRELEASE CID(Adabas RC)コマンドが発行されます(Natural FINDステートメントのRETAIN節で指定されたISNリストは解放されません)。
	OPRB=(string)	下記の構文に従ってオープン要求を指定できます。リストの例も参照してください。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	

Naturalプロファイルパラメータは、次のいずれかの条件が当てはまる場合に必要となります。

- アクセス／更新対象のAdabasファイルの明示的なリストが提供される。例えば、Adabasクラスタの更新または排他ファイル制御が要求された場合、これが必要になります。
- 初期のAdabas OPコマンドで使用されるAdabasレコードバッファは、明示的に提供することができます。データベースにアクセスするには、DBIDとファイル番号をその対応するアクセス権とともにOPRB文字列で指定する必要があります。
- AdabasフォーマットWの文字セットを指定します。データベースにアクセスするには、DBIDと必要なエンコード名を指定する必要があります。

値に空白があってはならず、全体をカッコで囲む必要があります。関連するAdabasドキュメントに定義されている規則に従います。

Adabas構文に加えて、内部ファイル番号はx-y表記で指定できます(つまり、x～yの間のすべての番号)。

OPRB文字列の構文

DBID=(x)では、次のアクセス権に対するデータベースを指定します。

ACC=(file-list)	ファイルリストのファイルに対してアクセス権限(読み取り)を指定します。
UPD=(file-list)	ファイルリストのファイルに対して更新権限(読み取り／書き込み)を指定します。
EXU=(file-list)	ファイルリストのファイルに対して排他的な更新権限(排他的読み取り／書き込み)を指定します。

WCODE= <i>encoding</i>	Adabas ユーザーセッションでの W フィールドのエンコードを指定します（メインフレーム向け Adabas）。 メインフレーム上の Adabas に必要なエンコードコードは 4095 です。
WCHARSET= <i>charset</i>	Adabas ユーザーセッションのレコードバッファおよびバリューバッファの W フィールドに使用されるデフォルトの文字セットを指定します（UNIX、OpenVMS、および Windows 向け Adabas）。 UNIX、OpenVMS、および Windows 上の Adabas に必要なエンコード名： UTF-16LE (リトルエンディアンマシン用) UTF-16BE (ビッグエンディアンマシン用) UTF-16 (ADALNK は、LE を使用するか BE を使用するかを決定します)

レコードバッファの最後のドット (.) は、OPRB 文字列に自動的に追加されるため、省略できます。

DBID=0 では、デフォルトのレコードバッファのエントリを指定します。これが OPRB 文字列の最初の DBID である場合は省略できます。このデフォルトのレコードバッファは、要求されたデータベースに対する特定のエントリがない場合に使用されます。

キーワード ACC、UPD、EXU および WCODE または WCHARSET を組み合わせる場合、関連する Adabas ドキュメントに定義されている規則に従う必要があります。Natural では、Natural セッションの開始時に OP コマンドを発行し、セッションの終了時に CL コマンドを発行します。Natural プログラムの最後で、保持された ISN リストを解放するために必要な RC コマンドのみが発行されます。

例 1

```
(ACC=2,3,4,DBID=15,UPD=3,4,ACC=5)
```

次のエントリが定義されました。

```
'UPD=3,4,ACC=5.' for DB 15
'ACC=2,3,4.' for other databases (DB 0)
```

例 2

```
(DBID=15,ACC=2-7)
```

次のエントリが定義されました。

```
'ACC=2,3,4,5,6,7.' for DB 15; access to other databases is not permitted
```

例 3：

```
(DBID=0,ACC=2,3,4,5.)
```

次のエントリが定義されました。

```
'ACC=2,3,4,5.' for all databases (DB 0)
```

 **注意:** Natural Security がインストールされている場合、オープン／クローズ処理は Natural Security を使用しない場合と同様に動作します。セキュリティプロファイルの OPRB パラメータは将来の使用のためにのみ用意されています。

例 4

```
(DBID=0,ACC=2,3,4,5,DBID=12,WCHARSET='UTF-16LE',UPD=3-10)
```

次のエントリが定義されました。

```
'ACC=2,3,4,5.' for all databases (DB 0)
```

```
WCHARSET='UTF-16LE',UPD=3,4,5,6,7,8,9,10. for DB 12
```

146 PARM - 代替パラメータファイル

この Natural プロファイルパラメータは、Natural で実行する代替パラメータファイルを指定するために、Natural スタートアップ（スタジオ／ランタイム／サーバー）に使用できます。

可能な設定	1~8 文字	有効なファイル名。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	このパラメータはダイナミックに指定することしかできません。
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>	



注意:

1. PARM パラメータが指定されていない場合、Natural は単一のパラメータそれぞれのすべてのデフォルト設定を含むデフォルトの NATPARM パラメータファイルを使用して起動します。Natural コンフィグレーションユーティリティを使用して、独自の新しいパラメータファイルを作成します。
2. 『コンフィグレーションユーティリティ』ドキュメントの「新しいパラメータファイルの作成」を参照してください。

147 PC-パーソナルコンピュータのアクセスメソッドの制御

このNaturalプロファイルパラメータは、パーソナルコンピュータのアクセスメソッドのサポートをNatural Connectionを使用して提供するかどうかを決定します。

可能な設定	ON	パーソナルコンピュータのサポートが有効になります。NaturalステートメントREAD PC FILEまたはWRITE PC FILEを(アップロードまたはダウンロードに)使用できます。「UPLOAD PC FILE」および「DOWNLOAD PC FILE」を参照してください。 注意: PC=ONを指定した場合、システム変数*DEVICEの値は常にPCです。
	OFF	パーソナルコンピュータのサポートは提供されません。
	NAM	データがアップロード／ダウンロードされるとき、フィールド名が送信されます。 注意: この値はメインフレーム環境でのみ使用されます。
	NONAM	データがアップロード／ダウンロードされるとき、フィールド名は送信されません。 注意: この値はメインフレーム環境でのみ使用されます。
	デフォルト設定	OFF
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	



注意:

- このNaturalプロファイルパラメータは、Natural Connectionがインストールされている場合にのみ適用されます。
- PCアクセスメソッド用に使用されるファイルは、プロファイルパラメータWORKで定義する必要があります。

148 PC - ピリオディックグループカウント

このセッションパラメータは、DISPLAYまたはWRITEステートメントでインデックスを付けずにピリオディックグループ（またはピリオディックグループ内のフィールド）を指定したときに、デフォルトで出力するピリオディックグループオカレンスの数を決定します。

可能な設定	1 - 191	値の数。
デフォルト設定	1	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	FORMAT INPUT DISPLAY WRITE PRINT	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド	なし	



注意: このセッションパラメータはレポートモードでのみ使用できます。

例：

```
FORMAT PC=5
```


149 PCHECK-オブジェクト呼び出しステートメントのパラメータチェック

この Natural プロファイルパラメータは、Natural のコンパイラを制御するために使用されます。

可能な設定	ON	<p>コンパイラが、CALLNAT、PERFORM、INPUT USING MAP、PROCESS PAGE USING、ヘルプルーチン呼び出しなど、オブジェクト呼び出しステートメントで指定されたパラメータの数値、フォーマット、長さ、および配列の添字の限度をチェックします。また、DEFINE DATA PARAMETER ステートメントの OPTIONAL 機能もパラメータチェックで考慮されます。</p> <p>パラメータチェックは、呼び出しステートメントのパラメータと呼び出されるオブジェクトの DEFINE DATA PARAMETER 定義の比較に基づいています。</p> <p>このチェックを行うには、次の条件が必須です。</p> <ul style="list-style-type: none">■呼び出されるオブジェクトの名前が、英数字の変数としてではなく英数字の定数として定義されている。■呼び出されるオブジェクトが、カタログ化オブジェクトとして利用可能である。 <p>これに該当しない場合、PCHECK=ON には何の効力もありません。</p> <p>CATALL コマンドを PCHECK=ON で使用する場合の問題点</p> <p>CATALL コマンドを PCHECK=ON に指定して使用するときは、次の点を考慮する必要があります。</p> <p>CATALL プロセスが開始すると、Natural オブジェクトがコンパイルされる順序は、まずオブジェクトのタイプが優先され、次にオブジェクトのアルファベット名で決定されます。使用されるオブジェクトタイプの順序は、次のとおりです。DDM、GDA、LDA、PDA、クラス、マップ、外部サブルーチン、サブプログラム、機能、アダプタ、ヘルプルーチン、プログラム。同じタイプのオブジェクトでは、名前のアルファベット順によって、オブジェクトがカタログされる順序が決定されます。</p>
-------	----	--

		<p>上述したように、オブジェクト呼び出しステートメントのパラメータは、呼び出されたオブジェクトのコンパイル後の形に対してチェックされます。呼び出し元オブジェクト（コンパイル中であり、オブジェクト呼び出しステートメントを含むオブジェクト）が呼び出されたオブジェクトの前にカタログ化された場合にオブジェクト呼び出しステートメントと呼び出されたオブジェクト内のパラメータが変更された場合、PCHECK の結果が正しくない可能性があります。この場合、呼び出されたオブジェクトの新しいオブジェクトイメージは、まだ CATTAL コマンドによって生成されていません。</p> <p>これにより、オブジェクト呼び出しステートメントの新しいパラメータレイアウトが、呼び出されたサブプログラムの DEFINE DATA PARAMETER ステートメントの古いパラメータレイアウトと比較されることになります。</p> <p>解決策：</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ コンパイラオプション PCHECK を OFF に設定します。 ■ ライブラリ全体に対し、CATTAL で全体コンパイルを実行するか、1つまたは少数のオブジェクトが変更された場合、これらのオブジェクトに対して別々にコンパイルを実行します。 ■ コンパイラオプション PCHECK=ON を設定します。 ■ ライブラリ全体に対し、システムコマンド CATTAL の機能 CHECK を有効にして一般的なコンパイルを実行します。
	OFF	パラメータチェックは実行されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	
適用可能なステートメント	OPTIONS	
適用可能なコマンド	PCHECK	システムコマンドのオプション COMPOPT

150 PD - ページデータセットのサイズ

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、画面ページングユーティリティを使用して、Naturalシステムファイル(FUSER)に同時に保存できる最大ページ(画面)数を指定します。

Naturalセッション内で、プロファイルパラメータPDをセッションパラメータPDで上書きできます。

可能な設定	0 または 1 - 255	最大ページ(画面)数。
デフォルト設定	50	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	SET GLOBALS	
適用可能なコマンド	GLOBALS	



注意:

- 保存された画面の数がPDの設定を超過した場合、最も古いページが上書きされるラップアラウンド方式がシステムファイルに使用されます。
- 画面ページングユーティリティの詳細については、端末コマンド%E、%I、%O、%P、および%Sを参照してください。

151 PM・出力モード

■ プロファイルパラメータ PM	352
■ セッションパラメータ PM	352

以下では次のトピックについて説明します。

プロファイルパラメータ PM

この Natural プロファイルパラメータ PM では、フィールドの出力方法または表示方法を指定します。

 注意:

1. PM=I は、システム制御の出力画面項目（システム変数と PF キー行）に影響を与えます。さらに、英数字以外のフィールド（数値や日付など）はいずれも影響を受けます。また、Natural Web I/O インターフェイス端末の場合、左から右のフィールドシーケンスは、右から左に変更されます。フィールドのインバートルーチンは、Natural ソースライブラリ内にアセンブラー モジュール NATPM として提供されており、必要に応じて変更できます。
2. 設定 PM=I を使用する方法の詳細については、『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「双方向言語サポート」を参照してください。

可能な設定	I	プログラム実行時のデフォルトの画面方向は右から左です。
	R	プログラム実行時のデフォルトの画面方向は左から右です。
デフォルト設定	R	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

セッションパラメータ PM

このセッションパラメータ PM は、フィールドの表示方法を指定するために使用します。

可能な設定	PM=I	フィールド方向が逆になります。
	PM=N	ハードコピーの出力では、フィールドは無視されます（つまり、出力されません）。
デフォルト設定	なし	デフォルトのフィールド方向が使用され、ハードコピーの出力用としてみなされます。
適用可能なステートメント	COMPRESS DEFINE DATA	

	DISPLAY FORMAT INPUT MOVE PRINT WRITE	
--	--	--

設定 PM=I を使用する方法の詳細については、『Unicode およびコードページのサポート』ドキュメントの「双方向言語サポート」を参照してください。

152 PRGPAR-終了時に制御を受け取るプログラムに渡されるデータ

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural の終了時に制御を受け取るプログラムに渡されるデータを指定します（プロファイルパラメータ [PROGRAM](#) も参照）。

可能な設定	任意の有効な文字列	渡されるデータ。
デフォルト設定	空白	データは渡されません。
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	

153 PROFILER - Natural セッションのプロファイル

■ PROFILER パラメータの構文	358
■ PROFILER パラメータの例	361

このプロファイルパラメータは、Naturalセッションをプロファイルするために使用します。プロファイリングデータは、NaturalONEでNatural Profilerを使用して解析できるリソースファイルに書き込まれます。詳細については、『NaturalONE』ドキュメントを参照してください。

可能な設定	「 PROFILER パラメータの構文 」を参照してください。	
デフォルト設定	なし	「 PROFILER パラメータの構文 」のサブパラメータのデフォルト設定を参照してください。
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

PROFILER パラメータの構文

PROFILERパラメータは次のように指定します。

```
PROFILER={(subparameter=value[,subparameter=value]...)}
```

⚠ 重要: この構文では、空白は使用できません。コンマを使用して、構文要素を分けてください。

上記の意味は次に示すとおりです。

サブパラメータ	Value	説明
ACTIVE		ACTIVE= <i>value</i> はプロファイリングインフラストラクチャがアクティブになるかどうかを決定します。 デフォルト値：OFF
	ON	プロファイリングインフラがアクティブで、イベントがリソースファイルに書き込まれます。
	OFF	プロファイリングインフラストラクチャは非アクティブです。
EVENT		EVENT= <i>value</i> はリソースファイルに生成されるイベントのタイプを指定します。 次の構文が適用されます。

サブパラメータ	Value	説明
		<p><code>event (event[, event]...)</code></p> <p>プレースホルダの意味は以下のとおりです。 <code>event</code> は、イベントのタイプ (<code>event-type</code>) またはイベントのタイプのグループ (<code>event-group</code>) のいずれかです。</p> <p>デフォルト値：すべてのイベントタイプが処理されます。</p>
<code>event-type :</code>	<code>SI ST PL PS PT PR DA DB IA IB CA CB NS E U</code>	<p><code>event-type</code> は次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <code>SI</code> <code>ST</code> <code>PL</code> <code>PS</code> <code>PT</code> <code>PR</code> <code>DA</code> <code>DB</code> <code>IA</code> <code>IB</code> <code>CA</code> <code>CB</code> <code>NS</code> <code>E</code> <code>U</code> <p><code>SI</code> セッション初期化イベント <code>ST</code> セッション終了イベント <code>PL</code> プログラムロードイベント <code>PS</code> プログラム開始イベント <code>PT</code> プログラム終了イベント <code>PR</code> プログラム再開イベント <code>DA</code> データベースコールイベントの後 <code>DB</code> データベースコールイベントの前 <code>IA</code> 端末 I/O イベントの後 <code>IB</code> 端末 I/O イベントの前 <code>CA</code> 外部プログラム呼び出しイベントの後 <code>CB</code> 外部プログラム呼び出しイベントの前 <code>NS</code> Natural ステートメントイベント <code>E</code> ランタイムエラーイベント <code>U</code> ユーザー定義イベント</p> <p>重要: Natural ステートメントイベント (NS) は、対応する Natural オブジェクトが <code>GPGEN=(PROFILER=ON)</code> でコンパイルされた場合にのみ生成されます (<code>GPGEN</code> プロファイルパラメータを参照)。</p> <p>注意: 上記のイベントに加えて、Natural Profiler は、データ収集が一時停止されたときに、モニター時停止イベント (MP) を収集します。一時停止の時間は、アプリケーションパフォーマンス解析では考慮されません。</p>
<code>event-group :</code>	<code>S P D I C N</code>	<p><code>event-group</code> は次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <code>S</code> セッションイベントグループ (SI, ST) <code>P</code> プログラムイベントグループ (PL, PSPT, PR) <code>D</code> データベースコールイベントグループ (DB, DA) <code>I</code> 端末 I/O イベントグループ (IB, IA) <code>C</code> 外部プログラム呼び出しイベントグループ (CB, CA)

サブパラメータ	Value	説明
		N Natural イベントグループ (NS)
EVENTTRACE		EVENTTRACE= <i>value</i> は個々のイベントがリソースファイルに書き込まれるかどうかを決定します。 デフォルト値：OFF
	ON	個々のイベントがリソースファイルに書き込まれます。NaturalONE Event Trace ページで記録されたイベントを調べることができます。 生成されたリソースファイルには拡張子 .nprf (Natural Profiler リソースファイル) があります。 注意: 結果ファイルは、特にステートメントイベントが記録された場合、非常に大きくなる可能性があります。
	OFF	個々のイベントはリソースファイルに書き込まれません。ファイルには、統合ホットスポット情報のみが記録されます。これにより、通常、ファイルが大幅に小さくなり、処理が速くなります。 生成されたリソースファイルには拡張子 .nprc (統合された Natural Profiler リソース) があります。
INTERVAL	1 2 4 5 8 10 16 20 25 40 50 80 100 125 200 250 400 500 625 1000 1250 2000 2500 5000 10000	INTERVAL= <i>value</i> は SAMPLING がアクティブな場合に使用する CPU 時間 (マイクロ秒単位) を指定します。 サンプリングを使用すると、各サンプリング間隔の最後のイベントのみが記録されます。例外：セッションイベント (イベントタイプ SI および ST) は常に記録されます。 サンプリング間隔を長くすると、記録されるイベントが少なくなり、リソースファイルが小さくなります。ただし、サンプリング間隔を長くすると、精度の低い値になります。 デフォルト値：100
RESLIB	1~8 文字	RESLIB= <i>value</i> はリソースファイルを含む FUSER システムライブラリの名前を指定します。 デフォルト値：SYSTEM
RESNAME	1~253 文字	RESNAME= <i>value</i> は、データが書き込まれるリソースファイルの名前 (パスおよび拡張子なし) を指定します。 デフォルト値：現在の ID とタイムスタンプを含んでいるファイル名が自動的に生成されます。
SAMPLING		SAMPLING= <i>value</i> はサンプリングをアクティブにするかどうかを決定します。 サンプリングメソッドでは、統計的アプローチを使用してデータを収集します。サンプリングでは、リソースファイルに書き込まれるデー

サブパラメータ	Value	説明
		<p>タの量が大幅に削減される一方で、サンプリングしない場合とほぼ同じ CPU 時間が保持されます。</p> <p>注意: サンプリングにより、消費された CPU 時間が推定されます。サンプリングを使用した場合、経過時間やヒット数など、他の値は信頼できません。</p> <p>サンプリングの詳細については、『Natural for Mainframes』ドキュメントの「Natural プロファイルユーティリティ - バッチモード」セクションにある「サンプリング」を参照してください。</p> <p>デフォルト値: OFF</p>
ON		サンプリングがアクティブになります。
OFF		<p>サンプリングが非アクティブになります。</p> <p>これは、Natural パラメータファイル内のこのサブパラメータのデフォルト設定です。</p>

PROFILER パラメータの例

例 1すべてのイベントを含むプロファイル

```
PROFILER=(ACTIVE=ON,EVENTTRACE=ON,EVENT=(S,P,D,N,I,C,E,U))
```

個々のイベントはすべて記録されます。

例 2プログラムロードイベントのあるプロファイル

```
PROFILER=(ACTIVE=ON,EVENT=PL,RESNAME=MYAPP,RESLIB=MYLIB)
```

すべてのプログラムロードイベント (PL) は、ライブラリ MYLIB 内のリソースファイル MYAPP に書き込まれます。

例 3：サンプリングによるプロファイル

```
PROFILER=(ACTIVE=ON,EVENT=(P,NS),SAMPLING=ON,INTERVAL=1000)
```

イベントグループ P とイベント NS のすべてのプログラムは、サンプリング間隔 1000 マイクロ秒で記録されます。

例 4サンプリングと非サンプリングの比較

Natural アプリケーションは 2 回プロファイルされます。最初の実行、サンプリングなし：

PROFILER=(ACTIVE=ON)

Natural Profiler は、240,086 個のイベントを生成し、呼び出されたサブプログラムの CPU 消費量として 30.2% を表示します。

2 回目の実行では、サンプリングを使用して同じアプリケーションがプロファイルされます。

PROFILER=(ACTIVE=ON,SAMPLING=ON,INTERVAL=100)

Natural Profiler は、4,100 個のイベントのみを生成するようになり、同じサブプログラムの CPU 消費量として 30.1% を表示します。

154 PROGRAM-セッション終了後に制御を受け取る Natural以外のプログラム

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural セッションの終了後に制御を受け取る Natural 以外のプログラムを指定します。

可能な設定	1~12 文字	Natural 以外のプログラム
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR6204N (すべてのプラットフォーム用)	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意: プロファイルパラメータ PROGRAM で指定したプログラムには、TERMINATE ステートメントでデータを渡すことができます。

155

PROX - プロキシサーバーの URL の指定

この Natural プロファイルパラメータでは、（インターネット）プロキシサーバーの Uniform Resource Locator (URL) を指定します（オプション）。このプロキシサーバーを介してすべての要求をルーティングする必要があります。

可能な設定	プロキシサーバーの URL
デフォルト設定	なし
ダイナミックな指定	×
セッション内の指定	×

156 PROXPORT - プロキシのポート番号の指定

このNaturalプロファイルパラメータは、プロキシが設定されている場合、そのポート番号を指定します。

可能な設定	最大 4 文字	プロキシのポート番号。
デフォルト設定	80	
ダイナミックな指定	×	
セッション内の指定	×	

157 PS - Natural レポートのページサイズ

このNatural プロファイルおよびセッションパラメータでは、DISPLAY または WRITE ステートメントで作成される Natural レポートに使用されるページ当たりの最大行数を指定します。

可能な設定	1 - 250	ページ当たりの最大行数
	0	<p>物理ページサイズが使用されます。</p> <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none">出力する最初のレポート（レポート 0）に PS=0 を指定した場合、物理デバイスページサイズから 1 を引いた行数が使用されます。レポート 1 ~ 31 に PS=0 を指定した場合、自動的な改ページ処理が抑制されます。つまり、自動改ページ処理は行われません。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	DISPLAY FORMAT INPUT SET GLOBALS WRITE	
適用可能なコマンド	GLOBALS	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

1. プロファイルパラメータとして使用する場合、PS パラメータはバッチモードでのみ有効で、物理ページサイズを定義します。
2. オンラインモードでは、物理ページサイズは常に物理画面の高さに設定されます。
3. 『プログラミングガイド』の「ページサイズ-PS パラメータ」も参照してください。
4. Natural Security では、このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルのセッションパラメータオプションで上書きできます。

158

PSIGNF - パック十進数の正記号の内部表現

このNaturalプロファイルパラメータは、パック十進数の正記号の内部表現を定義するために使用します。

可能な設定	ON	パック型数値の正の符号は、内部的に H'F' として表されます。
	OFF	パック型数値の正の符号は、内部的に H'C' として表されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	OPTIONS	
適用可能なコマンド	PSIGNF	システムコマンドのオプション COMPOPT

159 RCFIND-FINDステートメントに対するレスポンスコード 113 の処理

この Natural プロファイルパラメータでは、FIND ステートメント処理ループの実行中に Adabas レスポンスコード 113（要求した ISN が見つからない）が返された場合の対処を指定します。

可能な設定	ON	レスポンスコード 113 によってプログラムが終了しました。
	OFF	レスポンスコード 113 は無視され、FIND ループの処理は次のレコードの読み込みに継続します。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

160 RCGET - GET ステートメントに対するレスポンスコード 113 の処理

この Natural プロファイルパラメータでは、GET ステートメントの実行中に Adabas レスポンスコード 113（要求した ISN が見つからない）が返された場合の対処を指定します。

可能な設定	ON	レスポンスコード 113 によってプログラムが終了しました。
	OFF	レスポンスコード 113 は無視され、システム変数 *ISN が 0 に設定され、処理が継続します。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

161

RDACTIVE - リモートデバッグの有効化

この Natural プロファイルパラメータでは、Windows コンピュータ上でリモートデバッグを使用するかどうかを指定します。RDACTIVE は、システムコマンド DEBUG が使用されたときにのみ関連します。プロファイルパラメータ RDNODE (関連ノード名を指定) および RDPORT (ポート番号を指定) と組み合わせて使用します。

可能な設定	ON	リモートデバッグは有効になります。 DCOM (Windowsのみ) またはRPCサーバーの場合、リモートデバッグセッションが自動的に開始されます。
	OFF	デバッグは有効ではありません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

162 RDNODE .. リモートデバッガノード名

この Natural プロファイルパラメータでは、リモートデバッガを呼び出す Windows コンピュータのノード名を指定します。

可能な設定	文字列	ノード名
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>	

163 RDPRT -- リモートデバッガポート

この Natural プロファイルパラメータでは、Windows コンピュータ上のリモートデバッガがインストールされたポート番号を指定します。

可能な設定	0 または 1 - 9999	ポート番号。 デフォルトでは、デバッガサービスは Windows コンピュータのポート 2600 にインストールされます。したがって、デフォルトで UNIX コンピュータの RDPRT 設定を残すことができます。ただし、Windows 上のポート 2600 が別のサービス用に予約されており、別のポート番号が指定されている場合、それに応じて RDPRT を変更する必要があります。
デフォルト設定	2600	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>	

164 RDS・リモートディレクトリサーバーの定義

この Natural プロファイルパラメータこのパラメータでは、Natural RPC 環境で最大 10 台のリモートディレクトリサーバーを定義できます。各リモートディレクトリサーバーに対して、最大 5 つの位置指定サブパラメータを指定します。

可能な設定	「 RDS パラメータの構文 」を参照してください。	
デフォルト設定	なし	サブパラメータのデフォルト値については、「 RDS パラメータの構文 」を参照してください。
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意:

1. RDS はクライアントサイドでのみ指定します。
2. Natural RPC の詳細については、『Natural RPC（リモートプロシージャコール）』ドキュメントを参照してください。

RDS パラメータの構文

パラメータの構文は、次のとおりです。

1 台のサーバーを使用：

```
RDS=(server-name,server-node-name,subprogram,logon-indicator,transport-protocol-name)
```

2~10 台のサーバーを使用：

RDS=((*server-name,server-node-name,subprogram,logon-indicator,transport-protocol-name*)(*server-name,server-node-name,subprogram,logon-indicator,transport-protocol-name*)...(*server-name,server-node-name,subprogram,logon-indicator,transport-protocol-name*))

上記の意味は次に示すとおりです。

構文要素	Value	説明
<i>server-name</i>	1~8 文字	サーバー名。 デフォルト値はありません。値は指定する必要があります。
<i>server-node-name</i>	1~8 文字	サーバーノード名。 デフォルト値はありません。値は指定する必要があります。
<i>subprogram</i>	1~8 文字	タイトルが CALLNAT のサブプログラムの名前。このサブプログラムは、インターフェイスとして使用されます。 デフォルト名は RDSSCDIR です。
<i>logon-indicator</i>	L	クライアントは、クライアントの現在のライブラリのライブラリ名を使用して、サーバーへの Natural ログオンを開始します。 Windows プラットフォームの場合：L を指定する代わりに、選択ボックスをチェックしてください。
	(空白)	空白は、サーバーログオンが実行されないことを意味します。 何も指定しない場合、これがデフォルトになります。
<i>transport-protocol-name</i>	ACI	使用されるトランSPORTプロトコルの名前。指定できる値は ACI のみで、これがデフォルトです。

165 RECAT - ダイナミックな再カタログ

この Natural プロファイルパラメータでは、現在実行中のプログラム内で定義したグローバルデータエリア定義に矛盾が検出された場合、つまり、プログラム内のグローバルデータエリアが現在使用中のグローバルデータエリアの定義と合致しない場合の Natural の処理を指定します。

可能な設定	ON	Natural は、エラーメッセージを発行し、システムコマンド CATALOG、PURGE、および SAVE を無効にします。 注意: <ol style="list-style-type: none">RECAT パラメータが ON に設定されていて、オブジェクトがソースおよびカタログ形式の両方で存在する場合、ソースオブジェクトとカタログ化オブジェクトは別々に処理できません。ソースオブジェクトとカタログ化オブジェクトの整合性を維持するため、Natural はシステムコマンド CATALOG を無効にします (CATALL で呼び出されたときも同様)。また、対応するカタログ化オブジェクトが存在するソースに対してシステムコマンド PURGE および SAVE を無効にします。特定のコマンド (PURGE など) に対する条件を満たすオブジェクトのみが対応する選択ボックスに表示されます。
デフォルト設定	OFF	Natural はエラーメッセージを発行します。
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。

166 REINP-不正データに対する内部的なREINPUTステートメントの発行

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータは、不正データに対する内部的なREINPUTを回避するために使用します。

可能な設定	ON	不正なデータが入力されたとき、内部的なREINPUTステートメントが発行されます。
	OFF	不正なデータが入力されたとき、内部的なREINPUTステートメントは発行されません。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	SET GLOBALS	
適用可能なコマンド	GLOBALS	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Naturalアプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

1. デフォルトでは、INPUTステートメントに応答して不正なデータが入力された場合、Naturalは内部的なREINPUTステートメントを自動的に発行します。このパラメータでは、このメカニズムをオフに切り替えることができます。それにより、アプリケーションでこのような入力エラーを独自に処理できるようになります。
2. Naturalセッション内で、プロファイルパラメータREINPをセッションパラメータREINPで上書きできます。

167 RI-ISN のリスト

このNaturalプロファイルパラメータでは、読み込まれてホールド状態のまま更新されなかったレコードのISN（内部シーケンス番号）をそのままの状態で保持するかどうかを指定します。

可能な設定	ON	Naturalは、(ACCEPT/REJECTステートメントのWHERE節の結果、レコードが拒否されたことなどが原因で)ホールド状態のまま更新されなかった各レコードのISNを解放します。これにより、ホールドキュー内のISNの数が軽減されます。 注意: ただし、ISNを解放するたびにAdabasコールが必要になるため、追加のパフォーマンスオーバーヘッドが発生する可能性があります。
	OFF	ホールド状態になった各レコードのISNは、トランザクションが終了するまで解放されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Naturalアプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意: ネスト構造の処理ループでは、RI=ONにより内側の処理ループで解放されるレコードは、外側のループでホールド状態のまま保持されることはありません。

168

RNCONST - 定数内の行番号の再設定

この Natural プロファイルパラメータを使用して、Natural ソース内で英数字および Unicode 定数の行番号参照を再設定できます。『プログラミングガイド』の「参照するソースコード行番号の変更」を参照してください。

可能な設定	ON	英数字と Unicode 定数内の行番号参照が再設定されます。
	OFF	英数字と Unicode 定数内の行番号参照が再設定されません。元のまま維持されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	×	
セッション内の指定	×	
適用可能なステートメント	なし	
適用可能なコマンド	RENUMBER	



注意: RNCONST の設定は RENUMBER システムコマンドの実行動作に影響します。

169 ROSY-システムファイルへの読み取り専用アクセス

このNaturalプロファイルパラメータは、Naturalシステムファイル [FDDM](#)、[FNAT](#)、[FUSER](#)、[FDIC](#)* および [FSEC](#)*に対する変更を無効にします。

* このプラットフォームではサポートされていません。

可能な設定	ON	システムファイルに対してデータの書き込み、変更、削除を行うことはできません。Naturalは、これらのシステムファイルを修正する操作を実行する代わりに、エラーメッセージを発行します。
	OFF	システムファイルに対してデータの書き込み、変更、削除を行うことができます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

170 RPCSDIR - サービスディレクトリのライブラリ

この Natural プロファイルパラメータこのパラメータでは、ランタイムに RPC クライアントにより使用される Natural ライブラリ（またはその steplib の 1 つ）の名前を指定します。

可能な設定	1~8 文字	有効な Natural ライブラリ名
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意:

1. パラメータ RPCSDIR はクライアントサイドでのみ指定します。
2. これは、SYRPC ユーティリティ機能であるサービスディレクトリメンテナンスおよびサーバーコマンドの実行によって評価されます。
3. Natural RPC の詳細については、『Natural RPC（リモートプロシージャコール）』ドキュメントを参照してください。

171 RTINT - ランタイム中断の許可

このNaturalプロファイルパラメータでは、オペレーティングシステムの中断用キーの組み合わせ (+BREAK通常、 CTRL+C) を使用して、応答のない実行中のNaturalアプリケーションを中断できるようにするかどうかを決定します。

可能な設定	ON	中断を許可します。
	OFF	中断を許可しません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意: 詳細については、『プログラミングガイド』の「実行中のNatural アプリケーションの中止」を参照してください。

172

RQTOUT – REQUEST DOCUMENT タイムアウト

このNaturalプロファイルとセッションパラメータは、REQUEST DOCUMENTステートメントによって内部的に発行されるHTTP要求に使用されるタイムアウトを指定します。この時間を超過した場合、要求（接続、データ送信またはデータ受信）は対応するエラーメッセージで終了します。

可能な設定	0 または 1 - 65535	秒。値がゼロの場合は、タイムアウトがないことを意味します。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	このパラメータの設定をGLOBALSシステムコマンドで変更できます。



注意: このパラメータは、メインフレームプラットフォームでは使用できません。

173 SA - サウンド端末アラーム

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、端末アラーム機能を使用するかどうかを指定します。

可能な設定	ON	ユーザーが入力を促されるたびに端末アラーム音が鳴ります。
	OFF	入力を促すために端末アラームは使用されません。ただし、REINPUTステートメントの ALARM オプションでアラームを有効にすることはできます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	SET GLOBALS	
適用可能なコマンド	GLOBALS	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意: Natural セッション内で、プロファイルパラメータ SA をセッションパラメータ SA で上書きできます。

174 SB - 選択ボックス

■ 構文上の考慮事項	404
■ ランタイムの考慮事項	405

SB - 選択ボックス

INPUTステートメントの選択ボックスは、メインフレームコンピュータでのみ利用可能です。他のプラットフォームでは、選択ボックスはマップエディタでのみ定義できます。

選択ボックスは入力フィールドに付加することができます。選択ボックスはコーディングをプログラム内で直接行うことができるため、フィールドにヘルプルーチンを添付する方法に代わる最適な選択肢です。ヘルプルーチンと同様に、特別なプログラムは必要ありません。

英字タイプのすべての INPUT 変数に対して、このフィールドが入力か出力かに関係なく、選択ボックス節を定義できます。

構文は次のとおりです。

```
SB=operand1 [, operand1]...
```

operand1 は、選択ボックスを項目で満たすために使用される値オペランドを表します。

オペランド	構文要素	フォーマット	オペランド参照	ダイナミック定義
operand1	C S A A		○	×

SB では、選択ボックス内に表示する値を指定します。

選択ボックスをフィールドに割り当てるには、次の構文例を使用して、Natural プログラムの英字 INPUT フィールドに属性 SB を指定します。

```
INPUT #FLD (SB='value1', #ITEM1, #ITEM2(1:3), #ITEM3(*))
```

以下では次のトピックについて説明します。

構文上の考慮事項

選択ボックスとヘルプルーチンの両方を 1 フィールドに割り当てることができます。

選択ボックスは、INPUTステートメントのすべての変数フィールドに定義できます。例外は次のとおりです。

システム変数	例えば、次のようにになります。 *PROGRAM, *COM
名前付き定数（メインフレームのみ）	DEFINE DATA ステートメントの CONST 句で定義されます。

SB 属性に加えて、他の属性も同様に定義できます。例：AD または CD。

選択ボックスは、AD=A または AD=M の場合と同様に、修正可能である必要はありません。つまり、AD=0 のように書き込み保護されている出力フィールドにでも、選択ボックス（および選択値）を提供することができます。AD=0 を使用する場合、ユーザーは事前に定義された値のセットから選択するように強制されます。これらの値は選択ボックスに表示されます。

ランタイムの考慮事項

選択ボックスの位置

選択ボックスを含むプログラムを実行するとき、選択ボックスは、ヘルプウィンドウに使用される同じ位置決めアルゴリズムに従って画面に配置されます。つまり、選択ボックスのサイズと位置は、フィールドの「近く」に自動的に決定されます。

選択ボックスの属性

フィールドに割り当てられたカラーおよび高輝度属性は、対応する選択ボックスに表示される値にも適用されます。

選択ボックスの編集マスク

編集マスクがフィールドに定義されている場合、その編集マスクはすべての選択ボックスの値に適用されます。

フィールドに編集マスクを定義するには

INPUTステートメントを使用して、フィールドに編集マスクを定義できます。次のコード例を参照してください。

```
DEFINE DATA
LOCAL
1 A(A4)
END-DEFINE
MOVE 'ABCD' TO A
*
SET KEY PF1 = HELP
FORMAT KD=ON
*
INPUT A (AD=M EM=X.X.X.X SB='1234','WXYZ')
WRITE A
END
```

選択ボックスの行サイズ

選択ボックスの行サイズは、ボックスが対応するフィールドの長さに一致します。

選択ボックスに入力された値が選択ボックスの行サイズを超過した場合、値は切り捨てられます。

選択ボックスの値の順序

選択ボックスの値は、SB 属性に指定された順序で表示されます。

175 SD - 2 画面間の時間遅延

このNaturalプロファイルパラメータは、画面出力の表示時間を遅延させるために使用します。これは、非会話型書き込み処理時の2画面間の時間遅延です（Natural端末コマンド %Nを参照）。

可能な設定	1 - 100 0	指定する値の単位は0.1秒です。つまり、SD=10は1秒の遅延を意味します。
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	

176 SERVER-RPC サーバーセッションとしての Natural セッションの開始

この Natural プロファイルパラメータこのパラメータでは、Natural セッションを RPC サーバーセッションとして開始するかどうかを指定します。

可能な設定	ON	Natural セッションは RPC サーバーセッションとして開始します。
	OFF	Natural セッションは RPC サーバーセッションとして開始しません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意:

1. SERVER はクライアントサイドとサーバーサイドの両方で指定できます。
2. Natural RPC の詳細については、『Natural RPC（リモートプロシージャコール）』ドキュメントを参照してください。

177 SF・フィールド間の空白

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、DISPLAYステートメントで作成されるNaturalレポート上で、列のフィールド設定間に挿入されるデフォルトのスペース数を指定します。

可能な設定	1 - 30	スペースの数。 注意: SFパラメータを0に設定することはできません。つまり、レポートの列間には最低1つの空白文字が必要です。
デフォルト設定	1	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	SET GLOBALS	
適用可能なコマンド	GLOBALS	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Naturalアプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

1. Naturalセッション内で、プロファイルパラメータSFをセッションパラメータSFで上書きできます。
2. Natural Securityでは、このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルの[セッションパラメータ]オプションで上書きできます。
3. 『プログラミングガイド』の「列の間隔-SFパラメータとnX表記」も参照してください。

178 SG - 符号桁

このセッションパラメータでは、符号桁を数値フィールドに割り当てるかどうかを決定します。

可能な設定	ON	符号桁が割り当てられます。
	OFF	符号桁は割り当てられません。 注意: <ol style="list-style-type: none">SG=OFF では、負の値の数値フィールドでもマイナス記号 (-) なしで出力されます。SG=OFF では、入力フィールドに負の値を入力できます。
デフォルト設定	ON	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	DISPLAY FORMAT INPUT PRINT WRITE	
適用可能なコマンド	なし	



注意:

- [EM](#) (編集モード) パラメータを指定すると、SG パラメータが上書きされます。
- 『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

例：

```
FORMAT SG=OFF
```

179 SHELL - Natural ユーザーへのシェルアクセスの付与

この Natural プロファイルパラメータは、Natural 管理者のみが設定できます。このパラメータでは、特定のユーザーに対して Natural メインメニューからのシェルの終了を許可または禁止できます。

-  **注意:** Natural ユーザーに対してシェルアクセスを付与する際は注意してください。ユーザーがオペレーティングシステムの基礎となる機能を使用できるようになるため、セキュリティ問題が生じる可能性があります。

可能な設定	YES	シェルの終了を許可します。ユーザーに対してシェルの終了を許可した場合、管理者はこのユーザー用に開始するシェルの名前を指定できます。 注意: このシェル名は、実行可能 UNIX プログラムの完全パス名にする必要があります。例 : /bin/csh。
	NO	シェルの終了を許可しません。
デフォルト設定	NO	
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	

180

SSLPRX - SSL プロキシサーバーの URL の指定

このNaturalプロファイルパラメータでは、（インターネット）SSLプロキシサーバーのUniform Resource Locator（URL）を指定します（オプション）。このSSLプロキシサーバーを介してすべての要求をルーティングする必要があります。

可能な設定	<i>url</i>	SSL プロキシサーバーの URL
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	×	
セッション内の指定	×	

181 SSLPRXPT - SSL プロキシのポート番号の指定

このNaturalプロファイルパラメータは、プロキシが設定されている場合、そのポート番号を指定します。

可能な設定	<i>nnnn</i>	プロキシのポート番号（最大4文字）。
デフォルト設定	443	
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	

182 SM-ストラクチャードモードでのプログラミング

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、ストラクチャードモードを使用する必要があるかどうかを指定します。

可能な設定	ON	ストラクチャードモード構文の使用を強制します。
	OFF	ストラクチャードモードまたはレポートモードでプログラミングを行うことができます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	なし	
適用可能なコマンド	GLOBALS	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

1. プロファイルパラメータ SM によってストラクチャードモード (SM=ON) が指定されている場合、システムコマンド GLOBALS およびセッションパラメータ SM を使用してこの設定を変更しようとすると拒否されます（「レポートモードは使用できません。」）。
2. Naturalセッション内で、プロファイルパラメータ設定 SM=OFF をセッションパラメータ SM=ON で上書きできます。
3. Natural Security では、ライブラリのセキュリティプロファイル内のモードオプションの設定では、SM プロファイルパラメータを使用するかどうかを決定します。『Natural Security』ドキュメントの「Programming mode」も参照してください。

4. Natural Security では、ストラクチャードモードが特定ライブラリに常に有効であるという効果に対して、Natural Security でこのパラメータを無効にすることができます。

183 SNAT - 構文エラー時のベル

このNaturalプロファイルパラメータでは、コンパイラでNaturalプログラム内の構文エラーを検出したときにベルを鳴らします。

可能な設定	ON	構文エラーを検出したときにベルを鳴らします。
	OFF	構文エラーの場合でもベルを鳴らしません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	

184 SORTSIZE - ソートバッファのサイズ

この Natural プロファイルパラメータでは、ソートプログラムで使用するために予約するストレージの量を指定します。

可能な設定	500 - 2048	KB 単位のバッファサイズ。
デフォルト設定	500	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意:

1. このソートバッファは、SORT ステートメントを含む Natural プログラムを実行するときにのみ割り当てられます。
2. バッファサイズの設定値を大きくすると、SORT 処理が速くなります（特に、ソート対象のすべてのデータがソートバッファに収まるとき）。

185 SRETAIN - ソース形式の保持

このNaturalプロファイルパラメータでは、既存のすべてのソースを元のエンコードフォーマットで保存する必要があることを指定します。

可能な設定	ON	既存の Natural ソースの元のコードページが保持されます。 プロファイルパラメータ SUTF8 も同様に定義した場合、新しいソースは UTF-8 フォーマットで保存されます。
	OFF	UTF-8 フォーマットの既存の Natural ソースについては、エンコードは変更されません。他のエンコードの既存のソースは、現在のコードページを使用して保存されます。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>	



注意:

- このパラメータは、ソースが Natural Single Point of Development 環境で編集される場合にのみ適用されます。それ以外の場合では、現在のコードページと異なるエンコードのソースは開けないためです。
- 新しいソースが作成されると、プロファイルパラメータ [SUTF8](#) の設定に応じて、現在のコードページフォーマットまたは UTF-8 フォーマットで保存されます。これは、SRETAIN の設定とは無関係です。
- ソースをターゲットコードページフォーマットで保存できない場合（つまり、このコードページでソースに含まれるすべての文字が定義されていない場合）、問題の文字を削除するか、保存処理をキャンセルするかを選択できるメッセージが表示されます。
- 『[Unicode and Code Page Support](#)』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。

186 SRVCMIT - サーバーコミット時間

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural RPC サーバーが RPC 会話または非会話型の RPC 要求を自動的にコミットする時間を指定します。

可能な設定	B	クライアントに応答が送信される前に、Natural RPC サーバーによって自動的にデータベーストランザクションがコミットされます。 注意: 応答が失敗した場合、データベーストランザクションはすでにコミットされています。
	A	クライアントに応答が正常に送信された後、Natural RPC サーバーによって自動的にデータベーストランザクションがコミットされます。 注意: 応答が失敗した場合、データベーストランザクションはロールバックされます。
デフォルト設定	B	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>	



注意:

- SRVCMIT はサーバーサイドでのみ指定されます。
- このパラメータは、プロファイルパラメータ ETEOP が ON に設定されている場合にのみ評価されます。
- Natural RPC の詳細については、『Natural RPC (リモートプロシージャコール)』ドキュメントを参照してください。

187 SRVNAME - RPC サーバーの名前

この Natural プロファイルパラメータ このパラメータでは、プロファイルパラメータ **SRVNODE** で指定したノードに登録する RPC サーバーの名前を指定します。

可能な設定	1~32 文字	有効なサーバー名。 EntireX Broker ノードの場合、SRVNAME の値は、EntireX Broker 属性ファイルのサービスエントリの SERVER 属性の値に対応します（下記参照）。 CLASS=RPC, SERVICE=CALLNAT, SERVER=srvname 「 例 」を参照してください。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意: Natural RPC の詳細については、『Natural RPC（リモートプロシージャコール）』ドキュメントを参照してください。

例

```
SRVNAME='PRODUCTION_SERVER'
```


188 SRVNODE - ノードの名前

この Natural プロファイルパラメータでは、RPC サーバーを登録するノードの名前を指定します。

可能な設定	1~192 文字	ノード名。 EntireX Broker ノードの場合、ノード名は TCP/IP アドレスを参照します。ノード名の構造および EntireX Broker スタブによるサポートの詳細については、EntireX ドキュメントを参照してください。 「例」 を参照してください。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	×	



注意:

- SRVNODE はサーバーサイドでのみ指定されます。
- Natural RPC の詳細については、『Natural RPC（リモートプロシージャコール）』ドキュメントを参照してください。

例

次の例は EntireX 表記を基準にしています。

```
SRVNODE=PCBROKER          /* host name for a TCP/IP address */
SRVNODE='157.189.160.95:1958:TCP'  /* TCP/IP address with port number */
SRVNODE='tcpip://host.com:1958'    /* host name with port number */
```



注意:

1. ホスト名を TCP/IP アドレス用に使用する場合、名前を DNS サーバーに認識させる必要があります。または、TCP/IP コンフィグレーションの hosts ファイルに定義する必要があります。
2. ポート番号を省略した場合、EntireX Broker スタブによってデフォルトのポート番号が使用されるか、ホスト名を使用する必要があります。そして、ホスト名を DNS サーバーに認識させるか、TCP/IP コンフィグレーションの services ファイルに定義する必要があります。

189 SRVRTRY - 接続／再接続試行の数

この Natural プロファイルパラメータは、アクティブでない EntireX Broker に RPC サーバーが接続／再接続 (REGISTER) する試行回数と、2 回連続した試行の間の待機時間を指定します。

可能な設定	「 SRVRTRY パラメータの構文 」を参照してください。	
デフォルト設定	0,60	試行はありません。
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意: SRVRTRY はサーバーサイドでのみ指定されます。

SRVRTRY パラメータの構文

SRVRTRY パラメータの構文は、次のとおりです。

SRVRTRY=(*attempts*,*wait-time*)

または：

SRVRTRY=*attempts*



注意: *attempts* の値のみを指定する場合、カッコは省略できます。

上記の意味は次に示すとおりです。

SRVRTRY - 接続／再接続試行の数

構文要素	Value	説明
<i>attempts</i>	0 または 1 - 2147483647	アクティブでない EntireX Broker に接続／再接続する試行の数 (EntireX Broker メッセージ 02150148)。 注意: <ol style="list-style-type: none"><i>attempts</i> の指定によって、必要な EntireX Broker が起動される前に Natural RPC サーバーを起動でき、すべての Natural RPC サーバーを暗黙に終了することなく一時的に EntireX Broker をシャットダウンできます。<i>attempts</i> で指定された試行の数の後でも EntireX Broker がアクティブにならない場合や、<i>attempts</i> がゼロの場合、RPC サーバーは終了します。
<i>wait-time</i>	0 または 1 - 3600	連続する 2 試行の間の待ち時間 (秒)。

例

1. `RPC=(SRVRTRY=(20,10))`

または：

```
NTRPC SRVRTRY=(20,10)
```

連続する 2 試行の間の待ち時間 10 秒を含む 20 回の試行。

2. `RPC=(SRVRTRY=500)`

または：

```
NTRPC SRVRTRY=500
```

連続する 2 試行の間の待ち時間 60 秒を含む 500 回の試行。

 **注意:** 詳細については、『Natural RPC (リモートプロシージャコール)』ドキュメントおよび特に「レプリカ付きメインフレーム Natural RPC サーバーの考慮事項」を参照してください。

190 SRVTERM - サーバー終了イベント

このNatural プロファイルパラメータでは、Natural RPC サーバーの自動終了を発生させるイベントを指定します。

可能な設定	NEVER	Natural RPC サーバーが自動的に終了することはありません。 注意: Natural RPC サーバーを終了するには、『Natural RPC（リモートプロシージャコール）』ドキュメントの「Natural RPC サーバーの終了」および「アプリケーションプログラミングインターフェイス USR2075N の使用」（EntireX Broker サービスについて）を参照してください。
	TIMEOUT	RPC 会話の外側で次のクライアント要求を待機している時間を超えた場合、Natural RPC サーバーは自動的に終了します。 注意: TIMEOUT は、アタッチマネージャを使用して要求時に Natural RPC サーバーをダイナミックに起動する場合にのみ設定してください。
デフォルト設定	NEVER	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意:

1. SRVTERM はサーバーサイドでのみ指定されます。
2. Natural RPC の詳細については、『Natural RPC（リモートプロシージャコール）』ドキュメントを参照してください。

191 SRVUSER-RPC サーバーレジストリ用のユーザー ID

この Natural プロファイルパラメータこのパラメータでは、プロファイルパラメータ [SVRNODE](#) で指定したノード上に Natural RPC サーバーを登録するために必要なユーザー ID を指定します。

 **注意:** EntireX Broker ノードの場合、SRVUSER は EntireX Broker へのログオンにも使用されます。パスワードは、Natural Security (下記の *NSC を参照) から取得されるか、アプリケーションプログラミングインターフェイス [USR2072N](#) を介して指定されます。

可能な設定	<i>user-ID</i>	有効なユーザー ID。1~16 文字。
	*USER	SRVUSER を *USER に設定した場合、Natural サーバーは、ノードにログオンするために現在の Natural ユーザー ID (システム変数 *USER を参照) を使用します。
	*NSC	SRVUSER を *NSC に設定し、Natural Security がインストールされている場合、Natural サーバーは、ノードにログオンするために現在の Natural ユーザー ID (システム変数 *USER を参照) および Natural Security でのこのユーザーに定義されているパスワードを使用します。
デフォルト設定	<i>timestamp</i>	ユーザー ID を省略した場合、タイムスタンプが使用されます。
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

 **注意:**

1. SRVUSER はサーバーサイドでのみ指定されます。
2. Natural RPC の詳細については、『Natural RPC (リモートプロシージャコール)』ドキュメントを参照してください。

192 SRVWAIT - RPC サーバーの待ち時間

このNatural プロファイルパラメータこのパラメータでは、Natural RPC クライアント要求に対するサーバーの待ち時間（秒数）を指定します。

可能な設定	0 または 1 - 32767	待ち時間（秒数）。 注意: 1. この時間を超過した場合、RPC サーバーが登録されたノードから RPC サーバーに通知されます。RPC サーバーは、対応するメッセージを Natural RPC サーバートレースファイルに書き込み、RPC クライアント要求を引き続き待ちます。 2. ノードとの通信に TCP/IP が使用されている場合、ノードが何らかの理由で応答できなければ、ゼロ以外の値によって、TCP/IP で無限に待つことも回避されます。
デフォルト設定	0	待ち時間無制限。 注意: EntireX Broker ノードの場合、待ち時間は、対応する EntireX Broker 属性ファイルの SERVER-NONACT 値に設定されます。
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意:

- SRVWAIT はサーバーサイドでのみ指定されます。
- Natural RPC の詳細については、『Natural RPC（リモートプロシージャコール）』ドキュメントを参照してください。

193 SSIZE-エディタによって割り当てられるソースエリアのサイズ

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural エディタによってダイナミックに割り当てられる Natural ソースエリアの最大サイズを決定します。

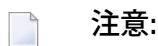
可能な設定	1 - 100	Natural ソースエリアの最大サイズ (MB 単位)。
デフォルト設定	1	
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	



注意: 1つの Natural ソースメンバの最大サイズは 1 MB です (SSIZE とは無関係)。

194 STACK - スタックへのデータ／コマンドの配置

この Natural プロファイルパラメータは、Natural スタックにデータ／コマンドを配置するためには使用します。



注意:

プロファイルパラメータ STACK は、Natural コマンドスタックにデータ／コマンドを配置するためには使用します。

可能な設定	任意の文字列
デフォルト設定	なし
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>



注意:

1. このパラメータで渡されるデータの量は 512 バイトに制限されます。この制限を超過した場合、対応するエラーメッセージが返されます。
2. スタックには Natural コマンドとユーザー指定コマンドのシーケンスをデータとともに含め、Natural セッションの開始時に実行させることができます。コマンドスタックは、ユーザーが画面で入力を促される前に処理されます。
3. スタック処理中に INPUT ステートメントが検出された場合、スタック作成時に必要な入力データがコマンドで提供されていなければ、対応する入力画面が生成されます。スタック処理中に生成されたレポートは、通常どおり表示されます。
4. 各システムコマンドまたはユーザー定義コマンドの後に、オプションとして、コマンド処理中に必要な情報の要求を満たすために使用されるデータが続きます。コマンドがユーザー命令（つまり、ユーザープログラムの名前）の場合、使用するデータによってユーザープログラム内の INPUT ステートメントのデータ要件が解決されます。

表記規則：

- 1つの INPUT ステートメントの複数の設定は、コンマで区切られます。
- 複数の INPUT ステートメントのデータは、コロン (:) で区切られます。
- 複数のコマンドは、セミコロン (;) で区切られます。

例：

```
LOGON:USER1;UCMD1 A,B;UCMD2 C,D:E;FIN
```

ライブラリ USER1 にログオンし、コマンド UCMD1 および UCMD2 を対応する入力データで実行し、Natural セッションを終了します。

```
CMD DATA:DATA;CMD
```

コマンドおよびデータをスタックに配置します。一部のコマンド (GLOBALS など) は INPUT によってパラメータを読み込まないため、最初のパラメータのデータ要素からコマンドを区切るには、コロンではなく空白文字を使用する必要があります。

ダイナミックに指定する場合、STACK パラメータのデータとして使用する文字列は、アポストロフィで囲む必要があります。文字列に複数のコマンドが含まれている場合も、カッコで囲む必要があります。次の例を参照してください。

```
STACK='(LOGON SYSTEM;UCMND)'
```

ライブラリ SYSTEM にログオンし、コマンド UCMND を実行します。

195 STARTUP - システム変数*STARTUP のプログラム名

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural システム変数 *STARTUP のプログラム名を指定します。

可能な設定	1~8 文字	有効なプログラム名。
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	



注意:

- 名前が *STARTUP に含まれるプログラムは、Natural コマンド行が呼び出されるたびに実行されます。Natural プログラムで、別のプログラム名を *STARTUP に割り当てることができます。
- Natural Security がインストールされている場合、STARTUP は評価されません。使用する開始プログラムは、Natural Security で定義されているライブラリプロファイルから読み込まれます。

196

STEPLIB - *STEPLIB システム変数の初期設定

この Natural プロファイルパラメータでは、システム変数 *STEPLIB の初期設定を指定します。

可能な設定	1~8 文字	任意の有効なライブラリ名。
デフォルト設定	SYSTEM	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

- システム変数 *STEPLIB の内容は、システムファイル内のオブジェクトの検索順序に影響します。
- コンフィグレーションユーティリティを使用して、現在のライブラリ内では見つからないオブジェクトを検索する追加の STEPLIB を定義できます。『コンフィグレーションユーティリティ』ドキュメントの「Steplib」を参照してください。
- 『Natural の使用』ドキュメントの「Steplib」および「オブジェクト実行の検索順序」も参照してください。

197 SUBCHAR - デフォルトコードページの置換文字

この Natural プロファイルパラメータでは、デフォルトコードページの置換文字を指定できます。Unicode 文字の現在のデフォルトコードページ（プロファイルパラメータ [CP](#) を参照）への変換が失敗し、[CPCVERR](#) が OFF に設定されているときに常に置換文字が自動的に挿入されます。

可能な設定	<i>n</i>	置換文字。
	OFF	OFF が指定されている場合は、ICU のデフォルト置換文字が使用されます。 注意: 『 <i>Unicode and Code Page Support</i> 』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	

198

SUTF8 - ソースの UTF-8 フォーマット

このNaturalプロファイルパラメータでは、Naturalソースの保存時に使用するデフォルトフォーマットを指定します。

 **注意:** このプロファイルパラメータは Natural 開発サーバーセッションにのみ有効です。ネイティブの Natural for UNIX セッションでは無視されます。

可能な設定	ON	Natural ソースを保存するためのデフォルトフォーマットは UTF-8 です。 注意: <ol style="list-style-type: none">すべてのソースが UTF-8 フォーマットで保存され、ソースの内容はインストールされたシステムコードページには依存しないようになります。プロファイルパラメータ SRETAIN も ON に設定した場合、新しく作成されたソースのみが UTF-8 フォーマットで保存されます。既存のソースは元のエンコードで保存されます（可能な場合）。
デフォルト設定	OFF	Natural ソースを保存するためのデフォルトフォーマットは「コードページ」です。
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	

 **注意:** 『Unicode and Code Page Support』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。

199

SYMGEN - シンボルテーブルの生成



注意: この Natural プロファイルおよびセッションパラメータは廃止されました。今後に、新しいパラメータ [GPGEN](#) とサブパラメータ [DEBUGGER](#) を併用してください。

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、シンボルテーブルを生成するかどうかを指定します。

可能な設定	ON	シンボルテーブルが生成されます。
	OFF	シンボルテーブルは生成されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	なし	
適用可能なコマンド	GLOBALS	



注意:

1. シンボルテーブルには、Natural プログラム（例えば、変数名）内で使用されるすべてのシンボルが含まれます。シンボルテーブルは、生成されたプログラムの一部であり、Natural デバッガやダイアログエディタなどで必要になります。
2. セッション内で、プロファイルパラメータ SYMGEN をセッションパラメータ SYMGEN で上書きできます。

200 SYNERR - 構文エラーの制御

このNaturalプロファイルパラメータでは、構文エラーをエラートランザクションプログラムに渡すかどうかを指定します。

可能な設定	ON	構文エラーはエラートランザクションプログラムに渡されます。
	OFF	構文エラーはエラートランザクションプログラムに渡されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR4007N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Naturalアプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

- エラートランザクションプログラムは、プロファイルパラメータ [ETA](#)、またはシステム変数 *ERROR-TAへの割り当てを通じたユーザープログラムによって、または、Natural Security がインストールされている場合は、Natural Security ライブラリプロファイル内で定義されます。『Natural Security』ドキュメントの「Components of a Library Profile」を参照してください。
- 詳細については、『プログラミングガイド』の「エラートランザクションプログラムの使用」を参照してください。

201 TC - 末尾文字

このセッションパラメータで、DISPLAYステートメントによるフィールド出力のすぐ右側に表示される末尾の文字を指定できます。出力列の幅は、それに従って拡大します。

可能な設定	任意の文字	最大 10 文字を指定できます。
デフォルト設定	なし	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	FORMAT	パラメータは FORMATステートメントを使用してダイナミックに指定できます。
	DISPLAY	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド	なし	



注意:

1. 末尾の文字をオプションとして指定するには、アポストロフィで囲みます。その場合、任意の文字を指定できます。閉じカッコまたは引用符を含む任意の文字列を指定するには、アポストロフィで囲む必要があります。
2. パラメータ TC は、U フォーマットのフィールドでも使用できます。Unicode フォーマットの詳細については、「Natural プログラミング言語の Unicode とコードページのサポート」の「セッションパラメータ」の項にある「EMU、ICU、LCU、TCU と EM、IC、LC、TC の比較」も参照してください。
3. 『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。

例：

```
FORMAT TC=*
DISPLAY (TC='*B*')
```

202 TCU - Unicode 末尾文字

このセッションパラメータで、DISPLAYステートメントによるフィールド出力のすぐ右側に表示される末尾の文字を指定できます。出力列の幅は、それに従って拡大します。

可能な設定	任意の文字	最大 10 文字を指定できます。
デフォルト設定	なし	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	FORMAT	パラメータはFORMATステートメントを使用してダイナミックに指定できます。
	DISPLAY	パラメータはステートメントレベルでもエレメントレベルでも指定できます。
適用可能なコマンド	なし	



注意:

1. 末尾の文字をオプションとして指定するには、アポストロフィで囲みます。その場合、任意の文字を指定できます。閉じカッコまたは引用符を含む任意の文字列を指定するには、アポストロフィで囲む必要があります。
2. セッションパラメータ TCU は、セッションパラメータ TC と同一です。違いは、末尾文字が必ず Unicode フォーマットで保存されることです。そのため、ユーザーは別のコードページからの文字が混在した末尾文字を指定でき、インストールされているシステムコードページに関係なく、いつでも確実に正しい文字が表示されるようにすることができます。

以下の項目も参照してください。

- 『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」
- 「Natural プログラミング言語での Unicode およびコードページのサポート」の「セッションパラメータ」の「EMU、ICU、LCU、TCU と EM、IC、LC、TC の比較」

203 TD - 時差

この Natural プロファイルパラメータでは、コンピュータセンタの時刻／日付ではなく実際のローカル時刻／日付の使用を保証するために、Natural時刻／日付の設定に適用する時差を指定します。

可能な設定	-23,59 から 23,59	指定した時間を物理マシンタイムに対して加算または減算することで Natural で使用する時刻／日付を設定するには、表記 <i>hours,minutes</i> を使用します。 <i>minutes</i> (指定する場合) は、00-59 にする必要があります。
デフォルト設定	0,0	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

 **注意:** このパラメータは、コンピュータネットワークでリモートノードが使用されている環境に適用されます。

例：

```
TD=6          (6 hours ahead)
TD=-11        (11 hours behind)
TD=(5,30)     (5 hours and 30 minutes ahead)
TD=(-6,30)    (6 hours and 30 minutes behind)
```


204

TF - データベース ID／ファイル番号の変換

この Natural プロファイルパラメータは、本番データベースのデータベース ID／ファイル番号をテストデータベースのデータベース ID／ファイル番号に変換するために使用します。

 **注意:** このパラメータはユーザーファイルにのみ適用されます。システムファイルには適用されません。

可能な設定	<i>production-DBID</i>	0 - 65535 (255 を除く)、またはすべての DBID を表すアスタリスク (*)。 注意: DBID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています。プロファイルパラメータ LFILE を参照してください。
	<i>production-FNR</i>	1 - 5000、またはすべての FNR を表すアスタリスク (*)。
	<i>test-DBID</i>	0 - 65535 (255 を除く)。
	<i>test-FNR</i>	1 - 5000
デフォルト設定	なし	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	このパラメータは、ダイナミックに指定するか、Natural パラメータファイル NATPARM で指定できます。
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>	



注意:

- ファイル番号の変換は、実稼働環境でアプリケーションを開発するときに関連します。これにより、テストデータベースでアプリケーションを開発し、完了したアプリケーションを本番データベースに転送できます。この際、アプリケーションを変更したり再コンパイルしたりする必要はありません。
- 転送は、アプリケーションのデータベース ID (DBID) とファイル番号 (FNR) の変換によって行われます。TF パラメータでは、本番 DBID/FNR とテスト DBID/FNR を指定します。その後、Natural オブジェクトが本番 DBID/FNR でカタログされます。ただし、データベース

アクセスが実行されるたびに、本番 DBID/FNR がテスト DBID/FNR に変換されます。つまり、テストデータベースが使用されます。言い換えると、実際の稼働環境で稼働データではないデータを使ってテストを実行できます。

3. *production-DBID* および *production-FNR* のアスタリスク (*) 表記は相互排他的です。

TF パラメータの構文

このパラメータは次のように指定します。

TF=(*production-DBID*,*production-FNR*,*test-DBID*,*test-FNR*)

TF パラメータは複数回指定できます。既存の指定は対応するリストボックスに表示されます。

複数の TF パラメータが指定されている場合、以下が適用されます。

- 特定の DBID/FNR に 1 つの TF 指定が存在し、ワイルドカードを使用したもう 1 つが指定した FNR と一致する場合、ワイルドカードを使用した指定が使用されます。

例えば、次のようになります。TF 設定 (5,2,3,7) および (5,*,7,8) は 5/2 を変換し、7/8 を与えます。

- 特定の DBID/FNR に 1 つの TF 指定が存在し、ワイルドカードを使用したもう 1 つが指定した DBID と一致する場合、正確な指定のあるものが使用されます。

例えば、次のようになります。TF 設定 (5,4,3,7) および (*,4,3,1) は 5/4 を変換し、3/7 を与えます。

注意:

1. 本番データベースとテストデータベースは同じタイプである必要があります（例えば、Adabas/Adabas）。
2. データベースタイプが NATPARM で指定されていない場合、Adabas がデフォルトタイプとして使用されます。つまり、SQL および XML データベースは明示的に指定する必要があります。
3. SQL および XML データベースについては、ファイル番号は常に 1 に設定する必要があります。DBID は 0-254 の範囲にする必要があります。
4. プロファイルパラメータ [UDB](#) (ユーザーデータベース ID) は、TF パラメータが評価される前に評価されます。

205

THSEP - ダイナミック千桁単位セパレータ

このNaturalプロファイルパラメータは、コンパイル時に編集マスクのダイナミック千桁単位セパレータの使用を有効または無効にするために使用します。

可能な設定	ON	ダイナミック千桁単位セパレータが使用されます。 注意: 文字列リテラルに含まれていないダイナミック千桁単位セパレータはすべて、ランタイムに、 THSEPCH で定義された千桁単位セパレータ文字で置き換えられます。
	OFF	ダイナミック千桁単位セパレータは使用されません。 注意: 編集マスクの千桁単位セパレータはリテラルとして扱われ、ランタイムにそのまま表示されます。これが互換性のある設定です。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	
適用可能なステートメント	OPTIONS	
適用可能なコマンド	THSEP	システムコマンド COMPOPT のオプション。



注意:

- ランタイムに、ダイナミック千桁単位セパレータは、プロファイルおよびセッションパラメータ [THSEPCH](#) の値（千桁単位セパレータ文字）で置き換えられます。
- Naturalソースでは、ダイナミック千桁単位セパレータはコンマ (.) またはピリオド (.) になります。どちらが使用されるかは、プロファイルおよびセッションパラメータ [DC](#) (小数点文字) の現在の設定に基づきます。コンマが指定されている場合、ダイナミック千桁単位セパレータはピリオドになります。それ以外の場合は、コンマになります。
- Unicodeフォーマットのフィールドは、英数字 (A) または数値 (N) フィールドとして再定義しないでください。

以下の項目も参照してください。

- 『パラメータリファレンス』のプロファイルパラメータ [THSEPCH](#)。
- 『プログラミングガイド』の「セパレータ文字の表示方法のカスタマイズ」

206 THSEPCH・千桁単位セパレータ文字

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータでは、ランタイムに千桁単位セパレータとして使用する文字を指定します。編集マスクのダイナミック千桁単位セパレータは、この千桁単位セパレータ文字で置き換えられます。

可能な設定	任意の文字	ランタイムに、ダイナミック千桁単位セパレータはこの文字で置き換えられます。 注意: <ol style="list-style-type: none">コンマは個々のパラメータを区切るために使用するため、千桁単位セパレータ文字をコンマにするには、引用符で囲む必要があります。つまり、ダイナミックパラメータ機能を使用するとき THSEPCH=',' と指定します。千桁単位セパレータ文字を引用符にするには、2つの引用符を引用符で囲んで指定する必要があります。つまり、THSEPCH='''' と指定します。
デフォルト設定	, (コンマ)	注意: デフォルトでは、コンマが千桁単位セパレータとして使用されます。
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	
適用可能なステートメント	なし	
適用可能なコマンド	GLOBALS	

 **注意:** Natural ソースでは、ダイナミック千桁単位セパレータは常にコンマ (,) またはピリオド (.) で表されます。

以下の項目も参照してください。

- 『パラメータリファレンス』ドキュメントのプロファイルパラメータ [THSEP](#)。

- 『システムコマンド』ドキュメントの、システムコマンド COMPOPT のオプション THSEP。
- 『プログラミングガイド』の「セパレータ文字の表示方法のカスタマイズ」

207

待ち時間

TIMEOUT - RPC サーバレスポンスに対する待

この Natural プロファイルパラメータでは、RPC サーバレスポンスに対するクライアントの待ち時間（秒数）を指定します。

可能な設定	0 - 32767	タイムアウト（秒）。 注意: この時間を超過した場合、リモートプロシージャコールは対応するエラーメッセージで終了します。
デフォルト設定	55	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input checked="" type="radio"/>	この値はランタイムに、SYRPC ユーティリティのパラメータメンテナンス機能を使用して上書きできます。



注意:

- TIMEOUT はクライアントサイドでのみ指定します。
- Natural RPC の詳細については、『Natural RPC（リモートプロシージャコール）』ドキュメントを参照してください。

208 TMPSORTUNIQ - 一時的なソートワークファイルの一意の名前

このプロファイルパラメータを指定すると、ソート操作中に生成された一時ワークファイルに Natural によって一意のファイル名が割り当てられます。ETID プロファイルパラメータで指定された値は、ファイル名に含まれません。

Natural により、デフォルトで、ETID 設定の値とユーザー ID を埋め込んだワークファイル名が生成されます。これにより、ファイル名は特定の Natural セッションに一意になりますが、ETID がファイル名内に無効な文字を含んでいるか、または ETID 指定のない同じユーザー ID を使用する複数の Natural セッションを実行している環境では問題が生じることがあります（したがって、ソート処理用に一意でないワークファイル名が生成される可能性があります）。

可能な設定	指定または指定なし	TMPSORTUNIQ が指定されている場合は、Natural により一時的なソートワークファイルの一意の名前が生成されます。
デフォルト設定	指定なし	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

209 TQ - 引用符の変換

このパラメータは、Natural プロファイルパラメータ [TQMARK](#) で置き換えられています。

210 TQMARK - 引用符の変換

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural テキスト定数内の引用符 (") の変換を制御します。コンパイル時にのみ影響があります。

可能な設定	ON	テキスト定数内の各引用符はシングルアポストロフィとして出力されます。
	OFF	テキスト定数内の引用符は変換されず、引用符として出力されます。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	OPTIONS	
適用可能なコマンド	TQMARK	システムコマンドのオプション COMPOPT



注意: 引用符 (") とダブルアポストロフィ (') を混同しないでください。テキスト定数内のダブルアポストロフィは、TQMARK パラメータの設定に関係なく、常にシングルアポストロフィ (') として出力されます。

例 1 (TQMARK=ON) :

```
WRITE 'THERE"S A QUOTATION MARK'
```

表示 : THERE'S A QUOTATION MARK

例 2 (TQMARK=OFF) :

```
WRITE 'THERE"S A QUOTATION MARK'
```

表示 : THERE"S A QUOTATION MARK

例 3 (TQMARK=ON または OFF) :

```
WRITE 'DOUBLE APOSTROPES'' OUTPUT IS A SINGLE APOSTROPHE'
```

表示 : DOUBLE APOSTROPES' OUTPUT IS A SINGLE APOSTROPHE

211 TRACE - Natural RPC サーバーのトレースレベルの定義

この Natural プロファイルパラメータこのパラメータでは、Natural RPC トレース機能を有効にし、使用するトレースレベルを決定します。

可能な設定	0	トレースされません。
	1	メッセージのみ (Natural エラーを含む) がトレースされます。
	(1,E)	エラーが発生した場合にのみ、メッセージがトレースされます。
	2	メッセージおよびクライアントに対する送受信データがすべてトレースされます。
	(2,E)	エラーが発生した場合にのみ、メッセージおよびクライアントに対する送受信データがトレースされます。
	3 - 9	値3 - 9も指定できます。これらの値は将来使用するためのもので、TRACE=2のように動作します。
	デフォルト設定	0
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>	

注意:

1. TRACE はサーバーサイドでのみ指定されます。
2. 詳細については、『Natural RPC (リモートプロシージャコール)』ドキュメントの「サーバートレース機能の使用」を参照してください。
3. Natural RPC の詳細については、『Natural RPC (リモートプロシージャコール)』ドキュメントを参照してください。

212 TRANSP - サーバートランSPORTプロトコル

この Natural プロファイルでは、使用するサーバートランSPORTプロトコルを指定します。ACI を使用する場合、トランSPORTメソッドも指定できます。

 **注意:** `SRVNODE` で完全なノード名を指定できるようになったため、TRANSP を使用する必要はなくなりました。ただし、互換性の理由で引き続きサポートはされています。

可能な設定	ACI	ACI が使用されます。トランSPORTメソッドは EntireX Broker で定義されます。
	(ACI, TCP)	ACI が TCP/IP と組み合わせて使用されます。
	(ACI, NET)	ACI が Entire Net-work と組み合わせて使用されます（つまり、Adabas プロトコルを使用）。
	(ACI, TCP-NET)	ACI を TCP と組み合わせて使用しようとします。利用できない場合、ACI は NET と組み合わせて使用されます。
	(ACI, NET-TCP)	ACI を NET と組み合わせて使用しようとします。利用できない場合、ACI は TCP と組み合わせて使用されます。
デフォルト設定	ACI	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

 **注意:**

1. TRANSP はサーバーサイドでのみ指定されます。
2. Natural RPC の詳細については、『Natural RPC（リモートプロシージャコール）』ドキュメントを参照してください。

213

TRYALT - 代替サーバーアドレスの試行

この Natural プロファイルパラメータでは、RPC クライアントに代替サーバーで RPC 要求を実行させるかどうかを指定します。

可能な設定	ON	指定したノードで要求を実行できなかった場合、RPC クライアントはその要求を送信する代替サーバーアドレスを検出しようとします。
	OFF	代替サーバーを使用しません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	この値はランタイムに、SYSRPC ユーティリティのパラメータメンテナンス機能を使用して上書きできます。



注意:

- TRYALT はクライアントサイドでのみ指定します。
- 詳細については、『Natural RPC（リモートプロシージャコール）』ドキュメントの「RPC サーバーアドレスの指定」を参照してください。
- Natural RPC の詳細については、『Natural RPC（リモートプロシージャコール）』ドキュメントを参照してください。

214 UC - 下線付き文字

このセッションパラメータでは、次の項目に対する下線付き文字を決定します。

- DISPLAY ステートメントで生成される列ヘッダー
- UNDERLINED オプションのある WRITE TITLE/WRITE TRAILER ステートメントによって作成されたページタイトル／トレイラ。

可能な設定	任意の文字 OFF	注も参照してください。
デフォルト設定	-	ハイフン (-)。
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	DISPLAY FORMAT WRITE TITLE WRITE TRAILER	
適用可能なコマンド	なし	



注意: 列ヘッダーを下線付きにしない場合は次のオプションを使用します。

UC=	下線の代わりに空行が出力されます。
UC=OFF	ヘッダー行の下に空行は出力されずにフィールド値が出力されます。 UC=OFF は DISPLAY ステートメントのステートメントレベルでのみ指定できます。この場合、そのステートメントの個々のフィールドに対しては他の UC 指定を行うことはできません。

UC - 下線付き文字

例：

```
FORMAT UC=*
DISPLAY (UC= ) NAME AGE (UC=+)
```

-  **注意:** 『プログラミングガイド』の「タイトルおよびヘッダーの下線付き文字 - UC パラメータ」も参照してください。

215 UDB - ユーザーデータベース ID

この Natural プロファイルパラメータでは、ランタイムにデータベースアクセス用に使用する DBID を指定します。Natural オブジェクトの実行時に、UDB パラメータで指定したデータベース ID によって DBID 0 が置き換えられます。

可能な設定	0 または 1 - 65535 (255 を除く)	有効なデータベース ID。 注意: データベース ID 255 は、Software AG 製品の論理システムファイル用に予約されています（プロファイルパラメータ LFILE を参照）。
デフォルト設定	1	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N USR1040N *	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。 * 推奨。



注意:

- コンフィグレーションユーティリティの DBMS 割り当てテーブルで指定する DBID 0 のデータベースタイプと、UDB パラメータで指定する DBID のデータベースタイプは同じである必要があります（ADA/ADA、ADA2/ADA2、SQL/SQL または XML/XML）。例外として、ADA と ADA2 の組み合わせは許可されます。最初のタイプはデータベースタイプ DBID 0 であり、2 番目のタイプは UDB パラメータで指定された DBID のデータベースタイプです。
- 使用されている DDM の DBID が 0 の場合、コンパイル時に DBMS 割り当てテーブルエントリ DBID=0 からデータベースタイプが取得されます。UDB パラメータで指定する DBID のデータベースタイプはランタイムにのみ使用されます。

3. DBMS割り当てテーブルでDBID0が指定されていない場合、デフォルトのデータベースタイプはADAに設定されます。
4. 使用されているDDMでDBIDが指定されていない場合、UDBプロファイルパラメータで指定されたDBIDが、アクセスするデータベースを決定します。その場合、UDBプロファイルパラメータを有効なDB番号に設定する必要があります。
5. UDBは、プロファイルパラメータ[ETDB](#)が指定されていない場合にトランザクションデータを保存(Stow)するためのDBIDの指定にも使用されます。

216 ULANG - ユーザー言語

この Natural プロファイルパラメータでは、日付編集マスク、システムメッセージ、ユーザーメッセージ、ヘルプテキスト、ヘルプルーチン、および複数言語マップに使用する言語を指定します。Natural システム変数 *LANGUAGE を設定するために使用します。

可能な設定	1 - 60	Natural 言語コード。 注意: 1. 例えば、1 は英語、2 はドイツ語、3 はフランス語に割り当てられます。 2. 言語コードの詳細なリストについては、*LANGUAGE 変数に関するドキュメントの表を参照してください。
デフォルト設定	1	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

- セッション内では、端末コマンド %L= を使用して言語コードを指定できます。
- 『プログラミングガイド』の「画面設計」の「スキル別ユーザーインターフェイス」

217

USEDIC・ディクショナリサーバーの共通論理名

このNaturalプロファイルパラメータでは、メインフレームまたはUNIXホストでリモートディクショナリアクセスを有効にするために、NaturalRPCで定義されたディクショナリサーバーに対して共通論理名を指定します。

可能な設定	任意の有効なサーバー名	リモートディクショナリアクセスは有効です。
デフォルト設定	空白	リモートディクショナリアクセスは無効です。
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	

『コンフィグレーションユーティリティ』ドキュメントの「ディクショナリサーバー割り当て」も参照してください。

218 USER - ユーザー ID

この Natural プロファイルパラメータは、ユーザー ID を入力するために使用します。

可能な設定	任意の有効なユーザー ID
デフォルト設定	空白
ダイナミックな指定	×
セッション内の指定	×



注意:

1. デフォルト設定を使用する場合、オペレーティングシステムのログインユーザー ID が適用されます。
2. Natural Security では、このプロファイルパラメータは無視されます。

219 USEREP - リポジトリの使用

この Natural プロファイルパラメータでは、リポジトリの使用を有効にします。

可能な設定	ON	リポジトリの使用を有効にします。
	OFF	リポジトリの使用を無効にします。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

220 USIZE・ユーザーバッファのサイズ

このNaturalプロファイルパラメータでは、仮想メモリ内のユーザーバッファのサイズを指定します。ユーザーバッファには、Naturalによってダイナミックに割り当てられているすべてのデータが含まれます。

可能な設定	20 - 1024	MB 単位のバッファサイズ。
	0	USIZE=0 の場合、メモリ容量は無制限になります。
デフォルト設定	20	
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	

221

WEBIO - Natural Web I/O インターフェイスの使用

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural 入出力 (I/O) を変更しないまま残すかどうか (つまり、SPoD の場合は端末エミュレーション、および UNIX で直接 Natural を呼び出すときは Natural を起動するエミュレーション) 、また Natural Web I/O インターフェイスを使用するかどうかを定義します。

可能な設定	ON	I/O は Natural Web I/O インターフェイスをします。
	OFF	I/O は変更されません (端末エミュレーション)。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	



注意:

1. Natural Web I/O インターフェイスでは、Web ブラウザに入出力データを表示します。Windows 以外のプラットフォームの場合、Natural Web I/O インターフェイスは、現在のコードページに含まれない文字の U フォーマットフィールドを表示および入力するためにのみ使用できます。
2. パラメータ WEBIO は、対話式 Natural セッションではなく、サーバーとして実行されている場合にのみ使用できます。
3. パラメータ WEBIO はパラメータ BATCHMODE と互換性がありません。パラメータ BATCHMODE が設定されている場合は、WEBIO=OFF が想定されます。
4. 『*Unicode and Code Page Support*』ドキュメントの「プロファイルパラメータ」も参照してください。

222 WFOPFA - ワークファイルのオープン

この Natural プロファイルパラメータでは、Natural でワークファイルをオープンするタイミングを指定します。

可能な設定	ON	ワークファイルは、READ WORK FILE または WRITE WORK FILE ステートメントによって最初にアクセスされたときにオープンされます。つまり、実際にアクセスされたワークファイルのみがオープンされます。ただし、オープンされなかったワークファイルの内容は削除されません。
	OFF	Natural オブジェクトで参照されるすべてのワークファイルが、このオブジェクトの実行を開始したときにオープンされます。実行されなかった WRITE WORK FILE ステートメントでワークファイルが参照されている場合、クローズ時にワークファイルの内容が削除されることがあります。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

 **注意:** WFOPFA=OFF はメインプログラムにのみ影響します。ルーチンに対しては常に WFOPFA=ON が適用されます。

223

WH - ホールド状態でのレコードの待機

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータは、処理に必要なレコードが別のユーザーによってホールド状態にされているために使用できなくなっている場合の処理を指定します。

可能な設定	ON	要求したレコードが使用できるようになるまで、またはレコードをホールド状態にしようとするときに時間などの制限を超過したことで Adabas エラーメッセージが発行されるまで、ユーザーは待ち状態になります。
	OFF	これらのレコードをホールド状態にできない場合、エラーメッセージが返されます。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	SET GLOBALS	
適用可能なコマンド	GLOBALS	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

- この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、Adabas データベースのみが適用されます。
- Natural セッション内で、プロファイルパラメータ `WH` をセッションパラメータ `WH` で上書きできます。
- 後で更新／削除処理を行うために、Adabas レコードを読み込む Natural ステートメントを実行すると、Natural は Adabas に対してそのレコードをホールド状態にするように要求します。

す。ホールド処理の詳細については、Adabasの『コマンドリファレンス』ドキュメントを参照してください。

4. Natural Security では、このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルの [セッションパラメータ] オプションで上書きできます。
5. SKIP RECORDS IN HOLD オプションを使用する READ または FIND ステートメントでは、WH=OFF が設定されている場合、データベースアクセスは常に実行されます。ユーザーが別のユーザーによってホールドされたレコードを読み取ろうとすると、このレコードはスキップされ、読み込み順序の次のレコードで処理が続行されます。この場合、エラーメッセージは返されません。

224 WORK - ワークファイルの割り当て

このNaturalプロファイルパラメータでは、セッション中に使用するワークファイルの数を定義します。

可能な設定	0 または 1 - 32	ワークファイルの数。
デフォルト設定	32	
ダイナミックな指定	x	
セッション内の指定	x	

WORK=nn

WORKがnn(1~32)に設定されている場合、この設定ではNaturalセッションに使用できる最大ワークファイル番号を定義します。

『オペレーション』ドキュメントの「ワークファイル」も参照してください。

225

XREF - Natural 用の XRef データの作成

■ XREF パラメータの設定が可能な方法	508
■ XRef データの生成	509
■ 拡張 XRef データ生成（内部使用のみ）	509

この Natural プロファイルパラメータは、Natural 用の XRef データの作成を有効または無効にするために使用します。また、このパラメータでは、Natural ユーティリティ SYSMAIN または INPL、あるいはオブジェクトハンドラを使用して Natural メンバが処理されるときの XRef データの扱い方を決定します。

可能な設定	ON	XRef データが上記の場合に生成されます。ドキュメントの前提条件はチェックされません。
	OFF	XRef データは生成されません。ドキュメントの前提条件はチェックされません。
	FORCE	Natural オブジェクトをカタログできるのは、この実装オブジェクトに対応するドキュメンテーションオブジェクトが存在する場合に限られます。XRef データが上記の場合に生成されます。
	DOC	Natural オブジェクトをカタログできるのは、このオブジェクトに対応するドキュメンテーションオブジェクトが存在する場合に限られます。XRef データは生成されません。
デフォルト設定	OFF	
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>	
セッション内の指定	<input type="radio"/>	
適用可能なステートメント	なし	
適用可能なコマンド	XREF	

以下では次のトピックについて説明します。

XREF パラメータの設定が可能な方法

Natural XREF パラメータを設定するには、いくつかの方法があります。

- Natural パラメータファイルで設定します。
- Natural セッションの開始時にダイナミックパラメータとして設定します。
- Natural Security で設定します。Natural Security を使用して XREF パラメータが設定されている場合、XREF コマンドでのみこの設定を有効にすることができます（ON から FORCE、OFF から ON または FORCE に変更します）。
- Natural XREF コマンドで設定します。Natural Security がインストールされていない場合、XREF パラメータは通常 Natural XREF コマンドを使用して設定します。Natural コマンド XREF ? では、XREF パラメータの現在の設定を表示します。

XRef データの生成

XRef データは、次の 2 つの場合に生成されます。

- Natural コンパイラは、Natural プログラムおよびデータエリア用の XRef データをそのカタログ時に書き込みます (XREF パラメータが ON または FORCE に設定されている場合。下記を参照)。
- Natural Security は、アプリケーションで起動、再起動、またはエラートランザクションとして使用されるプログラム用、または特別なリンクとして使用されるプログラム用の XRef データを書き込みます (アプリケーションの Natural Security 定義で XREF パラメータが ON または FORCE に設定されていて、アプリケーション用にユーザーシステムファイルが定義されている場合)。

XREF パラメータでは、次の 2 つの観点でコンパイルを制御します。

- 1 つは上記の場合における XRef データの生成についてです。
- もう 1 つは実装オブジェクトをドキュメント化するための前提条件を満たすためです。この前提条件の準拠は、Predict FDIC システムファイルまたは Natural Single Point of Development (SPoD) で使用される開発サーバーファイルでドキュメントされるオブジェクトに対してのみカタログ処理を完了できるようにすることで保証されます。

拡張 XRef データ生成 (内部使用のみ)

拡張 XREF パラメータは、Natural が内部で使用するため予約されています。

226 YD - 年差

このNaturalプロファイルパラメータでは、現在のマシン日付（内部マシンタイムで読み込まれる）を調整するために加算／減算する年数を指定します。これは、使用するカレンダーの異なる国で役立ちます。

可能な設定	-499から499	<p>このパラメータは次のように指定します。YD=+nnn または YD=-nnn 上記の nnn は年数です。</p> <p>以下の考慮事項が適用されます。</p> <ol style="list-style-type: none">現在の年が閏年で、YD 設定から得られる年がそうでない場合、2月 29 日の代わりに 3月 1日が使用されます。MAXYEAR プロファイルパラメータがデフォルトの 2699 に設定されている場合、プロファイルパラメータ TD、DD および YD の組み合わせから得られる日付は、1582 年 1月 1日から 2699 年 12月 31 日までの範囲であることが必要です。プロファイルパラメータ MAXYEAR が 9999 に設定されている場合、最大 YD 値は次のように計算されます。 <p><i>9999 - current machine date year = maximum YD value</i></p> <p>これは、現在のマシンの日付年が増加するたびに最大 YD 値が減少することを意味します。これが固定値になることはありません。</p> <p>例えば、MAXYEAR が 9999 に設定され、現在のマシンの日付年が 2017 年である場合、計算される最大 YD 値は 7982 になります。</p>
デフォルト設定	0	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	×	

227

YSLW・年スライド／固定ウィンドウ

-
- YSLW パラメータの例 515

この Natural プロファイルパラメータでは、「年スライドウィンドウ」または「年固定ウィンドウ」で扱う年の範囲を指定します。

 **注意:** スライドウィンドウまたは「年固定ウィンドウ」メカニズムでは、2桁年の日付が100年の「ウィンドウ」内にあると仮定します。これらの100年以内で、各2桁年の設定は特定の世紀に一意に関連します。したがって、どの世紀を表しているかについて混乱することはありません。

可能な設定	標準設定	0	パラメータを0に設定すると、現在の世紀であるとみなされます。スライド／固定ウィンドウ機能は使用されません。
	スライドウィンドウ	1 - 99	パラメータを1-99の値に設定することで、100年の範囲が過去のどの時点で始まるかを決定します。YSLW 設定は、ウィンドウ範囲の最初の年を決定するために現在の年から減算されます。 「スライディングウィンドウの例」を参照してください。
	固定ウィンドウ	1582-2600	パラメータを1582-2600の値に設定することで、100年の範囲の最初の年を決定します。100年の範囲の上限は、指定した値に99を加算することで評価されます。 「固定ウィンドウの例」を参照してください。
デフォルト設定	0		スライド／固定ウィンドウ機能は使用されません。
ダイナミックな指定	<input type="radio"/>		
セッション内の指定	<input checked="" type="checkbox"/>		

YSLW パラメータは、2桁の年コンポーネントの英数字日付設定が日付変数に移動されるときにランタイムに評価されます。これは、次の場合の日付設定に適用されます。

- 算術関数 VAL で使用される日付設定
- 論理条件の IS(D) オプションで使用される日付設定
- スタックから入力データとして読み込まれる日付設定
- マップに入力データとして入力された日付設定

『プログラミングガイド』の「日付情報の処理」セクションも参照してください。

YSLW パラメータの例

スライディングウィンドウの例

現在の年が 2014 年の場合に $\text{YSLW}=40$ を指定すると、スライディングウィンドウは 1974～2073 年に対応します。それに応じて、74～99 の 2 桁年設定 nn は、 $19nn$ と解釈され、00～73 の 2 桁年設定 nn は $20nn$ と解釈されます。

『プログラミングガイド』の「年スライディングウィンドウ - YSLW パラメータ」および「DFSTACK と YSLW の組み合わせ」の例も参照してください。

固定ウィンドウの例

$\text{YSLW}=1985$ を指定した場合、固定ウィンドウは 1985～2084 年に対応します。それに応じて、85～99 の 2 桁年設定 nn は $19nn$ と解釈され、00～84 の 2 桁年設定 nn は $20nn$ と解釈されます。

228 ZD - ゼロ割り算のチェック

この Natural プロファイルおよびセッションパラメータでは、0 による割り算を行おうとした場合の処理を指定します。

可能な設定	ON	0 による割り算を行おうとすると、Natural はエラーメッセージを発行します。
	OFF	Natural は、0 による割り算の結果を 0 にします。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	SET GLOBALS	
適用可能なコマンド	GLOBALS	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT - Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

1. Natural セッション内で、プロファイルパラメータ ZD をセッションパラメータ ZD で上書きできます。
2. Natural Security では、このパラメータの設定は、ライブラリプロファイルの [セッションパラメータ] オプションで上書きできます。

229 ZP - ゼロ出力

このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータは、すべてゼロの設定を含むフィールドを出力する方法を指定します。

可能な設定	ON	すべてゼロのフィールド値は、右揃えのゼロ1つ（数値フィールド）またはすべてゼロ（時間フィールド）として出力されます。
	OFF	すべてゼロのフィールド値は省略されます。
デフォルト設定	ON	
ダイナミックな指定	○	
セッション内の指定	○	
適用可能なステートメント	DISPLAY FORMAT INPUT PRINT REINPUT SET GLOBALS WRITE	
適用可能なコマンド	Globals	
アプリケーションプログラミングインターフェイス	USR1005N	『ユーティリティ』ドキュメントの「SYSEXT-Natural アプリケーションプログラミングインターフェイス」を参照してください。



注意:

- このNaturalプロファイルおよびセッションパラメータは、すべてゼロの値を含む数値フィールド（フォーマットN、I、P、またはF）または時間フィールド（フォーマットT）の表示を省略するために使用します。
- Naturalセッション内で、プロファイルパラメータ ZP をセッションパラメータ ZP で上書きできます。

3. 『プログラミングガイド』の「フィールド出力に影響するパラメータ」を参照してください。